

小学校、義務教育学校の前期課程
教科用図書調査研究の結果

(令和2・3・4・5年度使用)

令和元年6月
神奈川県教育委員会

本資料は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令に基づき、神奈川県内の採択権者が教科用図書を選定するための基礎的な資料として作成した。

本資料は、教科用図書調査研究の各観点に基づき、21の調査項目を定め、全発行者の教科用図書について調査した結果の概要を発行者ごとにまとめたものを【資料Ⅰ】とし、その詳細を【資料Ⅱ】として構成した。

目 次

発行者の記載順は、文部科学省発行の小学校用教科書目録（平成32年度使用）の掲載順による

		ページ
令和2年度（平成32年度）使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点について		観点1～4
教科名	発行者の略称	ページ
国語（国語）	東書 学図 教出 光村	国語1～10
国語（書写）	東書 学図 教出 光村 日文	書写1～13
社会（社会）	東書 教出 日文	社会1～9
社会（地図）	東書 帝国	地図1～6
算数（算数）	東書 大日本 学図 教出 啓林館 日文	算数1～12
理科（理科）	東書 大日本 学図 教出 信教 啓林館	理科1～13
生活（生活）	東書 大日本 学図 教出 信教 光村 啓林館 日文	生活1～18
音楽（音楽）	教出 教芸	音楽1～5
図画工作（図画工作）	開隆堂 日文	図工1～6
家庭（家庭）	東書 開隆堂	家庭1～5
体育（保健）	東書 大日本 文教社 光文 学研	保健1～13
外国語（英語）	東書 開隆堂 学図 三省堂 教出 光村 啓林館	英語1～17
特別の教科 道徳（道徳）	東書 学図 教出 光村 日文 光文 学研 廣あかつき	道徳1～19

<参考> 発行者一覧

発行者	発行者の略称	発行者	発行者の略号
東京書籍株式会社	東書	光村図書出版株式会社	光村
大日本図書株式会社	大日本	株式会社帝国書院	帝国
開隆堂出版株式会社	開隆堂	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
学校図書株式会社	学図	日本文教出版株式会社	日文
株式会社三省堂	三省堂	株式会社文教社	文教
教育出版株式会社	教出	株式会社光文書院	光文
一般社団法人信州教育出版社	信教	株式会社学研教育みらい	学研
株式会社教育芸術社	教芸	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき

※「平成 32 年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針」より抜粋

平成 32 年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点について

平成 32・33・34・35 年度使用小学校、義務教育学校の前期課程教科用図書が、学習指導要領に定められた各教科の目標や本県の児童の学習等に鑑み、題材等の取扱いが適切なものであるか、工夫や配慮がなされているかという視点に基づき、以下に具体的な「観点」の項目を定める。

ア 教科・種目に共通な観点

(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

○「教育基本法（第 1 条、第 2 条）及び学校教育法（第 30 条 2 項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の 3 つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

- ・生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

(4) かながわ教育ビジョンとの関連

○教育目標（めざすべき人間力像）に掲げた、次の内容に沿っているか。

- ・[思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。
- ・[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。
- ・[社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。

(7) 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮
- ・他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

- ・言語能力の確実な育成
- ・伝統や文化に関する教育の充実
- ・体験活動の充実
- ・学校段階間の円滑な接続
- ・情報活用能力の育成
- ・児童の学習上の困難さに応じた工夫

- 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

(I) 分量・装丁・表記等

- 各内容の分量とその配分は適切であるか。
- 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。
- 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。

イ 教科・種目別の観点

(ア) 国語（書写を除く）

- 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。
- 語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮はなされているか。
- 読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。

(イ) 書写

- 毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮はなされているか。
- 適切に運筆する能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。
- 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。

(ウ) 社会

- 社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。
- 社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。
- 学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。

(エ) 地図

- 一般図・拡大図・主題図・索引などは適切に配列されているか。
- 統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即したものが適切に取り上げられているか。
- 児童が自主的に学習に取り組み、読み取る技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。

(イ) 算 数

- 数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。
- 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。
- 目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。

(カ) 理 科

- 観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達の段階に即した工夫や配慮はなされているか。
- 観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。
- 「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。

(キ) 生 活

- 知識及び技能の基礎としての「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材として、工夫や配慮がなされているか。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材として、工夫や配慮がなされているか。
- 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、「試す」、「見通す」などの工夫や配慮がなされているか。

(ク) 音 楽

- 「A表現」と「B鑑賞」の教材は、多様な音楽の中から、児童の発達の段階に応じて適切に選択されているか。
- 我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に工夫や配慮がなされているか。
- 表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。

(ケ) 図画工作

- 児童が造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容や題材は適切に取り上げられているか。
- 児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、表現及び鑑賞の題材に、工夫や配慮がなされているか。

- 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、「共通事項」の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。

(コ) 家庭

- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせた学習となるよう、題材に工夫や配慮はなされているか。
- 日常生活に必要となる基礎的な知識及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として取り上げるなど工夫や配慮がされているか。
- 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決していく題材として工夫や配慮がなされているか。

(ク) 保健

- 児童が健康や安全に関する原則や概念に着目できるよう、統計、調査等の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達段階に即しているか。
- 児童が身近な生活における学習課題を見付けることに役立つよう、イラスト、写真、事例等の資料に、工夫や配慮はなされているか。
- 児童が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習内容に関連する健康情報等の資料に、工夫や配慮はなされているか。

(ク) 外国語

- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」などのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。
- 小学校外国語活動との関連した構成となるよう、外国語活動で扱った音声や表現を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。
- 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人のくらしや、歴史、文化、自然などが、児童の発達段階や興味・関心に即して取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。

(カ) 特別の教科 道徳

- 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる工夫や配慮がされているか。
- 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学びの工夫や配慮がなされているか。
- 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等が取り上げられるなど、工夫や配慮がされているか。

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《国語》

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-10)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい国語
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、言葉の使い方についての理解を深めながら語彙を広げる「ことばあつめ」が設定されている。 □ 「思考力、判断力、表現力等」の育成に関して、単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「言葉の力」として取り上げている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各学年の冒頭に年間の学習の見通しを持つ場面、適時に学習を振り返ってめあてを新たにしている場面を設けている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、命の大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が各学年ごとに取り上げられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、外国の生活や文化について知ることのできる題材やパラリンピックの題材を扱っている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、海外と日本に着目した題材が6年間の中に随所に取り上げられている。仕事や働く人に焦点をあてた題材がある。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の導入で、これまでの既習内容を想起させる「つかむ」を設定している。 □ 第6学年の「町の未来をえがこう」、第2学年の「この人をしょうかいします」など、他教科との関連や地域との連携が図れる教材を取り上げている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成について、活動における基本的な進め方などを取り上げた「言葉の力」が全学年に設定されている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、昔話や食文化、伝統芸能など、複数の内容が設定されている。 □ 体験活動の充実について、単元の終わりに「生かそう」が設定され、学習したことを実生活で生かすよう示唆されている。 □ 学校段階間の円滑な接続については、第1学年の入門期は、言葉での表現を楽しむ活動から始まるよう設定されおり、第6学年では、「卒業を前に読んでほしい言葉」「六年間の学習をふりかえって」が掲載されている。 □ 情報の扱い方に関して、第6学年では「情報を関係付けて活用する」など、各学年で情報の整理の仕方を具体的に示している。 □ 第1学年では、文字の習得において、つまずきやすい、拗音、促音、長音を手拍子の図と記号で解説している。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学習の理解が深まるように、巻末に、読み物教材、学習で使う言葉、各巻の振り返り、前年度の学びなどが掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するために、教材文の後(ふり返り)のページに「生かそう」として、他教科、学活等の時間での言語活動例が記述されている。 □ 語彙を豊かにするための題材として、各学年、さまざまな観点で言葉を集め、言語についての理解を深めながら語彙を広げる「ことばあつめ」が掲載されている。 □ 読書活動の充実を図るために、「本は友だち」で本の紹介文を読んだ後に「〇年生の本だな」として、図書が複数紹介されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されている。 □ 「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。 □ 「教科書用の書体を使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名≪国語≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-10)を参照

発行者の略称	学 園	書 名	みんなと学ぶ 小学校 国語
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、単元の冒頭に活動の概要を一覧で提示し、見通しがもてるようにしている。 <input type="checkbox"/> 「思考力、判断力、表現力等」の育成に関して、身近な内容を題材とした言語活動を設定している。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各学年上、巻頭の「○年生でつきたい力」、巻末の「○年生をふりかえって」で1年間の学習内容を一覧で示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、いのちの大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が各学年に取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、食育、国際化、情報化について学年で段階的に掲載している。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、仕事や働く人にかかわる作品や題材が随所に取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の最初に見通しや目的意識をもって学習に取り組めるように、学習活動を一覧で提示している。 <input type="checkbox"/> 第4学年の「クラブのしょうかいチラシを作ろう」など、教科横断的な視点を意識して、他教科での学習に生かせるような単元を設定している。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の確実な育成について、各学年で、レッスン「文章の書き方、まとめ方」のページが設けられている。 <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各学年ともに、教材の後に、学びを深めるための課題が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に体を動かして感じたことをテーマに沿って書いたり、ある人物になりきって話したりする活動が設定されている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年の入門期は、動物の挿絵の教材から導入し、第6学年では、6年間の国語の学習を振り返る活動が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 情報の扱い方に関して、図化・表化・イメージマップなどの思考を整理する方法が発達段階に応じて示されている。 <input type="checkbox"/> 文章の内容をまとめたり、考えを整理したりするために、表の例示や構成を図で示している。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学習の理解が深まるように、巻末に「言葉の部屋」「読書の部屋」、読み物教材などを掲載している。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するために、題材名の前に焦点化されたねらいが書かれている。 <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにするための題材として、言葉で遊んだり表現したりする要素を取り入れている。 <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図るために、読書単元活動では、ブックトークなど、クラス全体で探究的な読書を行う内容が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 全学年、上下巻の分冊で編集されている。 <input type="checkbox"/> 「できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました」と記載されている。 <input type="checkbox"/> 「カラーユニバーサルデザインの校閲」と巻末の表紙裏に記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名≪国語≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-10)を参照

発行者の略称	教出	書名	ひろがる言葉 小学国語
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、活動の流れや具体的な文例を掲載し、見通しをもたせている。 <input type="checkbox"/> 「思考力、判断力、表現力等」の育成に関して、各学年の「読む」学習では、児童が何について考え、表現するのか具体的な学びの観点を示している。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、これまでの学習を振り返り、言葉がもつよさについて認識する学習を取り入れている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、命の大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が各学年に取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、自分の考えや情報を伝達するために様々な媒体を活用する題材が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、第2～6学年には、町のことや地域のことを調べる学習活動がある。世界遺産やA I、エネルギーなどの題材が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、「単元のとびら」を主要な単元に設定し、「ふり返し」と連動した学習目標となる一文が示されている。 <input type="checkbox"/> 第4学年の「リーフレットで知らせよう」や第2学年の「『生きものクイズ』を作ろう」など、他教科との関連を図る題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の確実な育成について、学年の発達段階に応じて、時と場に応じて使えるよう項目ごとに分けた、巻末付録「言葉のまとめ」が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各学年上巻・下巻共に「文化」として取り上げられており、児童の理解を助けるためのイラストや写真、解説文が添えられている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、他教科の学習と関連させることで、高学年でも学習を体験的に深められる内容が設定されている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年は挿絵から児童の言葉を引き出すような構成で始まり、第6学年は、「中学生で学ぶ特別な読み方の言葉」で終わっている。 <input type="checkbox"/> 情報の扱い方に関して、学年の発達段階に応じて、必要な情報を取り出し、情報と情報の関係を整理するための語彙や文型が随所に示されている。 <input type="checkbox"/> 全学年で、着目ポイントをキャラクターが話して示している。使用する色の数を少なくしてページを構成している。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学習の理解が深まるように、巻末には、「○年生で読みたい本」など、テーマごとに、図書が紹介されている。「言葉の木」などの題材や読み物教材が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するために、日常生活や他教科の学習で応用できるよう、多様な言語活動例が随所に示されている。 <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにするために、文学的文章の後に、「言葉」のページを掲載し、教材の中に出てきた言葉を学習する構成となっている。 <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図るために、「読むこと」の題材の最終ページに、目標に対応する「ここが大事」(要点)とともに関連図書の紹介がされている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 全学年、上下巻の分冊で編集されている。 <input type="checkbox"/> 「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。 <input type="checkbox"/> 「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名≪国語≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-10)を参照

発行者の略称	光村	書名	国語
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、単元の最後に指導事項のポイントをまとめた後、今後の学習でどのように学習したことを活かしていくのかを紹介している。 <input type="checkbox"/> 「思考力、判断力、表現力等」の育成に関して、「読むこと」の単元では、指導事項と言語活動、これまでに学習したことを扉に掲載している。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習した内容のポイントを「たいせつ」とし、今後の学習や生活に生かすことを「生かそう」と提示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、命の大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が、各学年に取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、「情報」のページがあり、情報の使い方や関連付けた伝え方などが学年に応じて示されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、各学年では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の題材に、学校や地域のことが取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、各単元において見通しがもてるように学習過程を示したり対話的な学びの場面を具体的に提示したりしている。 <input type="checkbox"/> 第2学年の「かんさつ名人になろう」など、教科横断的な学習や学校行事と関連した学習に関する単元が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の確実な育成について、何をどのように学習するのかを、学年の発達段階に応じた「学習の進め方」として示している。 <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、第4～6学年の「季節の言葉」の中で短歌や俳句の紹介があり、年間を通して親しめるように配置されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実生活を振り返って、学習課題を見つけていく単元が、第5・6学年において設定されている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年の入門期では、絵を見て気づいたことを話す活動が設定され、第6学年では6年間で身につけた力を自ら振り返る活動が設定されている。 <input type="checkbox"/> 情報の扱い方に関して、「情報」のマークがあるページに、単元と関連させて「考えるときに使おう」「調べるときに使おう」などと掲載している。 <input type="checkbox"/> 「話すこと・聞くこと」の学習では、具体的な話す内容が書かれた吹き出しが複数掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学習の理解が深まるように、巻末に、「たいせつ」(要点)のまとめや読み物教材が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するために、言語活動例を身近な題材と関わらせて設定している。 <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにするために、巻末に「考えや気持ちを表す言葉」と「学習に用いる言葉」の一覧を掲載している。 <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図るために、各学年において「本は友達」の単元を2回設定し、内1回を図書館の活用について重点的に学習する構成となっている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されている。 <input type="checkbox"/> 「全てのページについて専門家による校閲を行っています」と記載されている。 <input type="checkbox"/> 「単元名や見出しには、ユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《国語（国語）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	第3学年下38ページなど、各学年で語彙を広げることを目的とした「ことばあつめ」が設定されている。
学図	第4学年上54ページの「ほうこくしたいことを新聞でまとめよう」では、単元の学習の見通しがもてるよう単元全体の構造化を図っている。
教出	第2学年下51ページ「『クラスお楽しみ会』をひらこう」では、話し合いの活動時に使う言葉を「大事な言い方」として例示している。
光村	第3学年上82～84ページ「登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう」では、指導事項のポイントをまとめた後、今後の学習でどのように学習したことを活かしていくのかを紹介している。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	第4学年下24ページ、「聞いてほしいな、心に残っている出来事」では、重点となるところを「言葉の力」として整理している。
学図	図や表で示したり・イメージでマッピングしたりするなど、さまざまな思考方法・表現方法を取り上げている。
教出	第6学年下20ページ「『うれしさ』って何？－哲学対話をしよう」では、哲学対話の手法を具体的に示している。
光村	第3学年上15ページなど、各学年の「読むこと」の単元の扉があり、問や「これまでの学習」を掲載している。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	各単元において、何ができるようになるかを示している。第1学年上では、学習する集団づくりにつながる「仲間づくり」の言語活動から学習がスタートしている。
学図	各学年上、巻頭の「〇年生でつきたい力」では、各学年で育てたい資質・能力を一覧で示している。また、巻末の「〇年生をふりかえって」で1年間の学習内容を示している。
教出	第6学年下111ページ、「ひろがる言葉」では6年間の学習をふり返り、言葉がもつよさについて認識する学習を取り上げている。
光村	各学年、学習した内容のポイントを「たいせつ」と示し、今後の学習や生活に生かすことを「生かそう」と提示している。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	「思いやる力」に関連して、人との関わり合いや支え合いを描いた教材が複数ある。4年生以上に、戦争と平和について考えさせる題材の掲載がある。
学図	「思いやる力」に関連して、いのちの大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が各学年に取り上げられている。4年生以上に戦争と平和について考えさせる題材の掲載がある。
教出	「思いやる力」に関連して、コミュニケーションを育む教材や詩の題材で、友達の良さに目を向けるものを掲載している。4年生以上に戦争と平和について考えさせる題材の掲載がある。
光村	「思いやる力」に関連して、命の大切さ、生命の尊厳について考えさせる題材が、各学年に取り上げられている。3年生以上に戦争と平和について考えさせる題材の掲載がある。

②	[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	「たくましく生きる力」に関連して、外国の生活や文化について知ることのできる題材を扱っている。パラリンピックを題材としている。	
学図	「たくましく生きる力」に関連して、食育、国際化、情報化について学年で段階的に掲載している。	
教出	「たくましく生きる力」に関連して、自分の考えや情報を伝達するために様々な媒体を活用する題材が設定されている。	
光村	第6学年68ページ「情報と情報をつなげて伝えるとき」など、「情報」のページが各学年にある。	
③	[社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	「社会とかかわる力」に関連して、海外と日本に着目した題材が6年間の中に随所に取り上げられている。仕事や働く人に焦点をあてた題材がある。	
学図	「社会とかかわる力」に関連して、仕事や働く人にかかわる作品や題材が随所に取り上げられている。自分をよりよくする、地域をよりよくするといった改良・改善がテーマの題材が掲載されている。	
教出	「社会とかかわる力」に関連して、2～6年には、町のことや地域のことを調べる学習活動がある。世界遺産やAI、エネルギーなどの題材が掲載されている。	
光村	「社会とかかわる力」に関連して、各学年では、「話す・聞く、書く」の題材に、学校や地域のことが取り上げられている。	

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

①	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	2年生以上では、学年の最初に「話すこと・聞くこと」の「対話」系統の小単元を設けている。	
学図	「読むこと」のてびきでは、原則見開きで内容を示し、学習過程の構造化を図っている。	
教出	見通しをもって主体的に学ぶことができるように「単元のとびら」を主要な単元に設定している。	
光村	各学年（2～6年）に対話のスキルを身につけることを目的とした「対話の練習」の単元を設定している。	
②	他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
	(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	他教科との関連や地域との連携が図れる教材を取り上げている。	
学図	多様な人々への理解や、尊重し合う心と態度を育てる教材を掲載している。	
教出	他教科での学習内容も視野に入れた単元を配置している。	
光村	相手の意見や立場を尊重する内容で、道徳的な学習とつながっている。	

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第3学年上123ページ「司会の進行にそって話し合う」では、活動における基本的な進め方などを取り上げた「言葉の力」が設定されている。
学図	第3学年下92～95ページ「つながりを考えて書こう」、第6学年上98～101ページ「文章構成の効果を考える」など、レッスン「文章の書き方、まとめ方」のページが設けられている。
教出	第2学年下では、時間をの流れを表す言葉、第6学年下では、自分の意見を述べる時に使う言葉など、学年の発達段階に応じて、時と場に応じて使えるよう項目ごとに分けた、巻末付録「言葉のまとめ」が掲載されている。
光村	第2学年上34～37ページ「だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう」など、何をどのように学習するのかについて、学年の発達段階に応じた、「学習の進め方」が掲載されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第1学年下、88～91ページ、「むかしばなしをたのしもう」や、第5学年、142ページからの「和の文化について調べよう」など、昔話や食文化、伝統芸能など、複数の分野を取り上げるとともに、言語活動も異なる内容が設定されている。
学図	第3学年下、19ページ、「慣用句」、第5学年上、125ページ、「宇治拾遺物語」など、伝統や文化に関する教育の充実にについて、各学年ともに、教材の後に、学びを深めるための課題が掲載されている。
教出	第3学年下65ページ「慣用句」、第4学年64ページ「短歌の世界」とともに、各学年上巻・下巻共に「文化」として取り上げられている。
光村	第4～6学年の「季節の言葉」や「短歌・俳句に親しもう」のように、「季節の言葉」の中で短歌や俳句の紹介があり、年間を通して親しめるように配置されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第4学年上57ページの「生かそう」では、校外学習や学校行事の体験を新聞にまとめる活動が示され学習したことを実生活で生かすよう示唆されている。
学図	第3学年下、「ミニギャラリーの解説委員になろう」、第5学年「物語の人物が答えます」など、実際に体を動かして感じたことをテーマに沿って書いたり、ある人物になりきって話したりする活動が設定されている。
教出	第3学年上、72～77ページ、「クラスの生き物ブックを作ろう」や、第6学年上、66～71ページ、「地域の防災について話し合おう」など、他教科の学習と関連させることで、高学年でも学習を体験的に深められる内容が設定されている。
光村	第6学年70ページ、「私たちにできること」など、実生活を振り返って、学習課題を見つけていく単元が、第5・6学年において設定されている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第1学年の巻頭、入門期において、リズムカルな言葉や挿絵で、多様な表現を楽しめるようなページが設定されている。第6学年242ページでは、「君たちに伝えたいこと/春に」卒業を前に読んでほしい言葉として掲載している。
学図	入門期教材の「ことばとともだち」は教材を見開きで示し、児童の実態に応じて教材を組み合わせられるよう想定されている。第6学年下116ページ「学びに向かう」では、6年間の振り返る活動が掲載されている。
教出	入門期の学習において、生活科との関連させて、学習を進めることができるように設定されている。第6学年下111ページ「広がる言葉」では、6年間の学習を振り返る題材が掲載されている。
光村	第1学年上の「いいてんき」ではイラストを見て話す活動を設定し、第6学年234ページ「中学校へつなげよう」では、今までの経験を生かしたり振り返ったりする単元が設定されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第2学年上12ページ「いくつ集められるかな」では、「書くこと」の小単元で、「付せんカード」や「情報カード」等、情報の扱い方が具体的に例示されている。
学図	第3学年上62ページ「いろいろな見方で分類しよう」では、思考を整理する方法が具体的な例とともに示されている。
教出	第6学年上145ページ「言葉のまとめ」など、情報を整理する際に必要な語彙や文型が一覧として掲載されている。
光村	第5学年巻頭では、学校での日常問題（委員会活動）を例に、問題解決のための情報整理の仕方を図解している。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	第1学年上78ページ「ちいさい やゆよ」では、つまずきやすい、拗音、促音、長音を手拍子の図と記号で解説し、入門期の学びをおさえる工夫がしてある。
学図	第3学年上78ページでは、説明的文章の構成の仕組みを表や図を用いて視覚化している。
教出	全学年で、着目ポイントをキャラクターが話して示している。使用する色の数を少なくしてページを構成している。
光村	第5学年40ページ「インタビューしよう」では、吹き出しを複数使い、話す内容が会話文で具体的に示されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	2年上154ページ「1年で学しゅうしたことばの力」など、前年度の学びがまとめて掲載されている。
学図	巻末に「言葉の部屋」「読書の部屋」、読み物教材などを掲載している。
教出	巻末には、「○年生で読みたい本」など、テーマごとに、図書が紹介されている。「言葉の木」などの題材や読み物教材が掲載されている。
光村	巻末に、「たいせつ」（要点）のまとめでついた力を確認するページや読み物教材が掲載されている。

⑩ 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材としての工夫や配慮	
東書	第5年104ページ「問題を解決するために話し合う」では、重点化された指導事項に即した具体的な言語活動が設定されている。
学図	第6学年上16ページ「誓約書」など、題材名の前に焦点化されたねらいが書かれている。
教出	第4学年下36ページ「新スポーツを考えよう」など、言語活動の場面をイラストを用いたり、具体例を掲載している。
光村	第4年下36ページ「クラスみんなで決めるには」など、言語活動例を身近な題材と関わらせて設定している。

⑪ 語彙を豊かにするための題材としての工夫や配慮	
東書	第6学年268ページ「言葉の広場」など、「ことばあつめ」をきっかけとして、さらに語彙を豊かにするための題材が掲載されている。
学図	第2学年上8ページ「ことばビンゴをつくろう」など、言葉で遊んだり表現したりする要素を取り入れている。
教出	第3学年上98ページなど、文学的文章の後に、「ことば」を掲載し、その教材の中から言葉をピックアップしている。
光村	全学年の巻末で、「言葉の宝箱」で「考えや気持ちを伝える言葉」と「学習に用いる言葉」の一覧を掲載している。

⑫ 読書活動の充実を図るための題材としての工夫や配慮	
東書	第4学年上100ページ「本は友達」など、様々な分野の著名人が、読書の良さを伝えている。
学図	第4学年上88ページ「物語のみ力をしょうかいしよう」では、ブックトークによる読書活動の単元を取り上げている。
教出	第6学年下101ページ「本をよもう」など、学習の要点とともに関連図書の紹介が掲載されている。
光村	第3学年上30ページ、100ページの「本は友だち」では、「図書館たんていだん」と「はじめて知ったことを知らせよう」が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されている。
学図	全学年、上下巻の分冊で編集されている。
教出	全学年、上下巻の分冊で編集されている。
光村	第1学年から第4学年までは上下巻の分冊、第5・6学年は1冊の合冊で編集されている。

② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。
学図	「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました」と記載されている。
教出	「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。
光村	「カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っている」と記載されている。

③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	第1学年巻末の「あたらしくなったかんじ」では、漢字を大きく示している。「教科書用の書体を使用しています」と記載されている。「独自に開発した教科書用の書体を使用しています」と記載されている。
学図	第1学年巻末の「このほんでがくしゅうしたかんじ」では、「このほんでならうよみかた」と「あとでならうよみかた」を記号で区別している。「カラーユニバーサルデザインの校閲」と巻末の表紙裏に記載されている。
教出	第1学年巻末の「かん字をまなぼう」では、「いっしょにおぼえたいよみかた」を紹介している。「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。
光村	第1学年の巻末のこのほんでならうかんじ」では、漢字の書く数が記載されている。「本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています」と記載されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第2学年上の写真に県内の小学校の活動の様子が掲載されている。巻末表紙裏に学校名が掲載されている。
学図	第2学年下44ページ「水ぞくかんのしいくいん」では、県内の水族館の写真が掲載されている。
教出	第3学年下6ページの写真に、県内の標識の写真が掲載されている。
光村	第2学年上116ページ「どうぶつ園のじゅうい」では、県内の動物園の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			学図			教出			光村		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)													
発行者名	総冊数	1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5年上	5年下	6年上	6年下
東書	10	274	310	297	311	313	313	313	313	517		517	
学図	12	247	235	253	245	289	266	287	275	311	292	296	289
教出	12	268	321	293	315	292	292	292	333	278	326	305	305
光村	10	243	246	275	286	280	281	286	293	509		529	

【資料Ⅰ】

教科種目名 ≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「何を学ぶか」を明確にした「書写のかぎ」が設定されている。また、小学校6年間で学ぶことが系統的に整理され、各単元に配置されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「書写のかぎ」を核とした問題解決型の単元展開が設定されている。また、習得と活用を組み合わせた学習過程が示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「文字のいづみ」の「文字に込めた思い」では、人で表した文字や命名用紙が写真とともに掲載され、書いた人の思いが書に込められていることが示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、命の大切さを学ぶ観点から、第2学年の「かんさつしたことを書こう」では、生き物の様子を書いた文と絵が例示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、国際化の観点から、世界のいろいろな文字を提示している。同じ文字でも国によって表し方が変わることや文字の特徴などが示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、第5学年では、地域に呼びかけるポスター作りが教材として例示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の学習の流れが示されており、最後に学習を振り返って話し合う活動が提示されている。 □ 他教科との関連として、第6学年では「総合的な学習の時間」に関連した、「発表のためのポスターを書こう」という題材が設定されている。その中で、書写で学習したことを総合的な学習につなげていく過程が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して第3学年「実験したことを記録しよう」では、点画の書き方や文字の整え方に気を付けて、読みやすく実験記録を書く学習が設定されている。 □ 伝統文化に関して、各学年の「文字のいづみ『書いて味わおう』」では、古典文学などが硬筆教材として設定されている。なぞり書きの欄や言葉の意味、現代語訳が示されている。 □ 体験活動として第2学年「かんさつしたことを書こう」では、例示されている観察カードから、画の長さや画の向きに気を付けて書かれている箇所を探し、観察カードを書くときに使えるように学習が展開されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「書写展覧会を開こう」では、小学校の6年間に書写で学んできたことを生かして作品を書くとともに、中学校に向けて、小学校で学んだことをどのように生かしていくのか話し合う学習が提示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5学年「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、分かりやすく効果的に伝えるポスターにするために、文字の配列が改善されていく過程を示したポスターを例に挙げ、必要なことを考え、他の活動に生かしていく学習が展開されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第2学年「点画の名前」では、手本の漢字の点画と、名前が添えられている点画が同じ色で示されている。また、点画を書く練習する欄が設けられており、「とん」「びた」「すうっ」などの言葉で鉛筆の動かし方が示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第6学年の「組み立て方」では、「①見つけよう」「②確かめよう」「③生かそう」そして「ふり返って話そう」と学習の進め方が4段階で構成されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として、第6学年の「ひらがな」では、硬筆で「ありがとう」をなぞることで文字と文字のつながりを考えさせた後、毛筆でつながりを確かめながら書く学習の流れが設定されている。 □ 運筆の能力の育成に関して、第6学年「毛筆で書いてみよう」では、イラストや写真、朱墨文字などを取り入れ、児童の興味・関心を引き出すよう工夫されている。 □ 生活に役立てる観点から、各学年とも、2つ「生活に広げよう」という項目が設定されており、第2学年「れんらくちょうを書こう」では、連絡帳の中で、既習事項が使われているところを探して確認し、これから連絡帳を書く際に生かすことが提示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はAB版で、図版が大きく提示されている。また、第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容一覧がインデックスとして設定されている。 □ 「ゴシック体には、見やすく読みまちがにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】
教科種目名≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	学図	書名	みんなと学ぶ 小学校書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、各学年の最後の単元では、「○学年のまとめ」として学習したことを復習するページが設定されている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第6学年のまとめでは、思い出や、印象に残ったことをいろいろなものを書く活動が示され、俳句や短歌、絵手紙などが例示されている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」を涵養に関して、書写の学習で学んだことを日常生活に生かす具体例として、はがきや原稿用紙、手紙の書き方が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、第5学年の「感謝の気持ちを伝えよう」では、6年生への感謝を伝えるカードの作成が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、大文字・小文字のローマ字表が提示されている。実際の写真を取り上げながら、名前や地名のローマ字での書き方が示されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかがわる力」に関連して、えんぴつや消しゴムが何の材料でどのように作られているのかが提示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、2人の児童が話し合いの視点を明確にして意見を述べ合う様子がイラストで各学年に掲載されている。 <input type="checkbox"/> 書写の学習で身に付けたことを他教科で生かした具体例が、各学年の巻末にある「書写の資料館」にまとめられている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の育成に関して、第5学年「感謝の気持ちを伝えよう」では、目的や内容に合わせて使う用紙や筆記具を選ぶこと、絵や写真、書きたいことの配置、文字の大きさについて提示されている。 <input type="checkbox"/> 伝統文化に関して、第6学年「生かして書こう」では、江戸時代の子供が使っていた「いろは歌」の教科書が提示されている。「いろは歌」についての説明があり、硬筆で書く欄が設定されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動として第1学年「みのまわりのもじをさがそう」では、身の回りで使われている文字を見付ける活動が設定されている。文字を探す場や活動場面が例示されている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年『行書』で書いてみようでは、発展として中学校に入ったら学習する行書を紹介している。これまでの楷書と行書の書き方を比較しながら、行書の特徴が示されている。 <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成に関して、第5学年「メモの取り方」では、話を聞きながらメモを取る際の、気を付けることが示されている。記録の仕方、間違えた時の訂正の仕方など速く書くための工夫が示されている。また、どんな時にメモを取るのかが例示されている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さに対して、第3学年「たて画とはらい」では、「木」を白抜き文字にして筆使いが示されているとともに、穂先の通り道が朱書きで書かれ、筆圧の強さが3段階の数字で示されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 第2学年「点や画のつき方と交わり方」では、漢字とイラストが並列に並べられた構成で示され、点や画の「つく」「はなれる」「交わる」が説明されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連として第3学年「画の長短と文字の中心に注意して書こう」では、毛筆で「山里」を画の長短と文字の中心に注意して書いたことが、次のページの「生かして書こう」のコーナーで硬筆学習につながっている。 <input type="checkbox"/> 運筆の能力の育成に関して、第5学年「穂先の動きと点画のつながりを考えて書こう」では、穂先の動き方を線で示すとともに、「指でなぞって、点画のつながりを確かめよう」が設定されている。 <input type="checkbox"/> 生活に役立てる観点から、各学年、巻後半に「書写の資料館」が設定されている。第6学年には、「都道府県を書こう」や「アルファベットとローマ字」「はがき・原稿用紙」「手紙の書き方」等が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 <input type="checkbox"/> 判型はB5判で、二文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさで掲載されており、そのまま手本として活用できるよう設定されている。 <input type="checkbox"/> 「多くの人が使いやすいように、ユニバーサルデザインの観点に立ち、色使いやフォント、レイアウトなどに配慮して作成しました」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名 ≪国語(書写)≫

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学 書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以上に設定されている「学習のまとめ」では、絵や筆の写真などでこれまでの学習がまとめられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各学年に設定されている「レッツ・トライ」で、学習した知識・技能を活用して、書くことができる場面が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「書いて伝え合おう」では、思い出に残る言葉を書こうと提示され、作品例が複数示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、国際化の観点から、第4学年の「世界のこんにちは」では、外国語での「こんにちは」、「世界の文字文化」、「身の回りの外国語」が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、規範意識の観点から、ポスターを読む人にわかりやすく約束を守ってもらえるように書くには、どのようなことに気を付ければよいか3段階の作成手順で示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第2学年では図書館の人の話をよく聞いてメモをし、カードにまとめる学習が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、書写で使う言葉の例が示されているとともに、2人の児童が書写で使う言葉を使って、話し合う様子が提示されている。 □ 他教科との関連として、第4学年では、学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつが3つ示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第6学年「レッツ・トライ」の「校外学習のリーフレット」では、用紙全体の大きさを考えて、読みやすいリーフレットを書く学習が設定されている。完成したリーフレットを提示し、読みやすくする工夫が示されているとともに、作成の流れが示されている。 □ 伝統文化に関して、第4学年「レッツ・トライ」では、二つの「短歌」が提示され、文字の大きさと配列に気を付けて書くことが示されている。また、次のページでは様々なかるたが紹介され、防災かるたを作る学習も設定されている。 □ 体験活動として第5学年「工場見学」の「自動工場でのメモの取り方」について提示されている。人から話を聞く際に、あらかじめ聞きたいことをメモに書いておくことや話をしている人の方に体を向けて聞くことなどが示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「はってん中学1年」では、中学校で学習する速く書いて、やわらかい書き方として、行書が示されている。楷書と行書について説明されているとともに、「春」を例にして楷書と行書の違いが示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「学習内容をまとめる」では、読み手に内容がよく伝わる発表資料のまとめ方が提示されている。表と写真を使った資料が例示され、発表資料の作成の流れが示されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第1学年「にているひらがな」では、「あ」と「め」で同じ運筆の部分が同じ色で示されているとともに、「とめ」や「はらい」を「びたっ」「すうっ」という言葉で明示された画を指でなぞることが提示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第4学年では、「学習の進め方」について3コマ漫画で示されている。前の時間に学習したことを振り返り、自分のめあてをもとに2つの題材から1つを選択し展開していく学習構成となっている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として毛筆のページに硬筆の学習スペースがある。ためし書きとまとめ書きのスペースがある。 □ 運筆の能力の育成に関して、第3学年「点画のしゅるい」では、筆圧の違いを数字で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「始筆」「送筆」「終筆」の仕方が提示されている。 □ 生活に役立てる観点から、各学年に「レッツ・トライ」として、日常生活や他教科での活用場面を想定した例が提示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はB5判で、低学年は4つのステップ、中・高学年は7つのステップで学習の進め方が統一されている。 □ 「より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《国語(書写)》

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	光村	書名	書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、2学年以上に、大事なことがまとめて示されている『『たいせつ』のまとめ』が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各学年に、これまでに学習してきたことを確かめる「〇学年のまとめ」というページが設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の「自分だけの一文字」では、各分野で活躍している人物が選んだ一文字と、その理由が提示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、多文化共生の視点から、第5学年の「めざせ！新聞記者」でアイヌ文化を紹介する新聞が提示され、多様性を認め合う工夫がされている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、責任感の観点から、東日本大震災の時に「正確な情報で行動を」と呼びかけた、新聞社の取組が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第4学年では、将来の夢や願いを書く「ゆめに一步、近づこう」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第5学年「用紙に合った文字の大きさ」では、文字の大きさを変えた3つの作品例と、作品を見比べての感想を述べている2人の児童の言葉が掲載されている。 □ 他教科との関連として、第5学年では、英語を用いての名刺づくりの活動例が示された「英語で書いてみよう」という題材が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して第6学年では、学年、他教科や日常生活で生かせる言語活動例が配置されており、「書写ブック」としてまとめられている。その中の、第6学年では、「ポスターを作る時の工夫」が設定されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年「文学の歴史」では、作品と使われた文字を線で結ぶ内容が設定されている。また、私たちが普段使っている文字について、漢字の誕生から現在にいたるまでの流れが示されている。 □ 体験活動として第5学年「書くときの速さ」では、場面にあった書く速さを考える学習が設定されている。書く速さは場面によって変わることや相手や目的によっても変わることが示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「もっと知りたい『発展』」では、中学校で学習する行書について、小学校で学習してきた楷書よりも速く書ける書き方として提示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5学年「手書きの力」では、「手書きの文字には、活字とは別の力がある」とし、東日本大震災の翌日に新聞社が発行した手書きのかべ新聞から、「どんな印象を受けるだろうか」と提示されている。 □ 児童の学習上の困難さに対して、第1学年「かん字のかきかた」では、線の終わりに気を付けて指でなぞることが提示されている。書き順が色別で示され、「とめ」「はね」「はらい」の部分に「びたっ」「びょん」「すうっ」という言葉とキャラクターの動きが添えられている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年『はらい』の方向』では、矢印の向きとキャラクターの体勢で方向を示した4つの「左はらい」の形が比べられている。その後、「左はらい」が使われている漢字を線で結び付けたり、はらう方向に気を付けて練習したりする学習が展開されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 毛筆と硬筆との関連として第5学年の「めざせ！新聞記者」では、「筆」「筆ペン」「フェルトペン」「ボールペン」それぞれの筆跡が並べて表示されており、筆記具の特徴をふまえて、場面に合わせて使い分ける必要が示されている。 □ 運筆の能力の育成に関して、第3学年「漢字の筆使い」では、筆圧の違いを数字や言葉で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「止めるところ」や「はらうところ」をそれぞれ「ぐっ」、「すうっ」などと運筆のこつが書かれている。 □ 生活に役立てる観点から、第6学年では、第1～6学年までに学習したことがまとめられている「書写ブック」が設置されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。 □ 判型はB5判で、「手紙の書き方」などの3項目について、見開きの2ページ分を開いて見られるように配置されている。 □ 「タイトルや『たいせつ』には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-6～書写-13)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、第3～6学年に設定されている「学習を生かして」では、これまでの学習の要素を含んだ文字が教材として提示されている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第5学年の「自分の力で」では、「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第6学年の卒業前の気持ちを、五・七・五で表した作品例が3点掲載され、意見交換の場がイラストで表示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、第5学年の「原稿用紙の使い方」では、「共生するために」という題名の作文が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第6学年の「生活と書写」で解説文付きのエアメールの書き方とアルファベットの書き方について提示されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、「提案文を書いて、話し合おう」では、防災意識を高めようという題名のもと、自然災害に対して自分たちが出来ることを考える学習が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、第5学年「提案文を書いて話し合おう」では、提案文を読みあつたうえで、話し合いをしている様子のイラストが提示されている。 <input type="checkbox"/> 全学年「国語の広場」や「生活と図書」において、他教科での書く場面を想定した言語活動例が題材として提示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の育成に関して第6学年「五・七・五で、自分の思いを表現しよう」では、「卒業」をテーマに一人ひとりが五・七・五の句を作り、その後クラス全体で意見交換をするまでの過程が提示されている。 <input type="checkbox"/> 伝統文化に関して、第6学年「平仮名と片仮名ができるまで」では、漢字の始まりから、平仮名や片仮名が生まれるまでの流れが、出土品とともに提示されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動として第3学年「手紙の書き方」では、社会科見学のお礼の手紙を例として取り上げ、手紙を書くときのポイントを提示している。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、第6学年「チャレンジ『行書』をなぞってみよう」では、与謝蕪村の俳句が楷書と行書で並べて例示され、なぞり書きができるようになっている。「行書」についての説明が提示されている。 <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成に関して、第3学年「本で調べて、学習新聞を作ろう」では、グループで身の回りの生き物の学習について調べ方を考えるところから、学習新聞が出来るまでの過程が提示されている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さに対して、第4学年「筆順と字形」では、整った字形にするために、直しが必要な「左右」の文字が提示されている。筆順には数字がふられ、同じ画には同じ色が示されているとともに、画と人の体との関係がイラストで示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 第6学年「自分の文字と向き合って」では、自分の文字と手本の文字を比べることで自分の文字の課題を知り、今後の学習課題に生かしていく構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連として第6学年「部分の組み立て方」では、「仲間」を毛筆で文字の組み立て方に気を付けて書いた後、「かまえ」のある硬筆で書かれた漢字を4つ例示し、「かまえ」のある文字を書くときに生かせるよう設定されている。 <input type="checkbox"/> 運筆の能力の育成に関して、第2学年「点と画」では、運筆を人のイラストの動きで表したり、筆を止める場所を赤の点で表されている。 <input type="checkbox"/> 生活に役立てる観点から、各学年「生活と書写」というページが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習設定されている。 <input type="checkbox"/> 判型はB5判で、低学年は3ステップ、中・高学年は6ステップの「学習の進め方」が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《国語（書写）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	全学年に「書写のかぎ」が設置されていて、第3学年以上では各単元で左のページで示されてきたものがまとめられている。第5年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、「分かりやすく効果的に伝えるためには、どのようなポスターにしていけばよいか」文章を使って問いかけている。作成例を4点提示し、「配列」の言葉の意味を文章で説明している。配列を整えて書く方法を文章で説明している。
学図	各学年の最後の単元では、「○学年のまとめ」として復習するページを設定している。第6学年のまとめでは、第6学年で学習したことを練習するページを設置している。最終学年なので小学校で学習したことを生かすページへと進んでいる。
教出	第6学年の36ページでは「六年間で学習したこと」を設定。絵や筆の写真などでこれまで学習してきたことを示している。硬筆で文字の大きさや配列に気を付けて書く練習がある。知っておこう手紙では、手紙の書き方、季節の言葉の例を示している。封筒の書き方を縦、横で示している。
光村	第2学年以上に学習のポイントが「大切」としてまとめられている。第3学年の18ページ、「手紙の書き方」「学習の進め方」を文章で説明。例文と封筒の表面と裏面の例を提示。留意点を赤い字で掲載。文字の大きさが、相手の名前から相手の住所、自分の名前、自分の住所と順に小さくなるのが赤い字で説明されている。
日文	第3～6学年では「学習を生かして」の設置。これまでの学習の要素の含まれた文字を教材として扱っている。また、第5・6学年「自分の力で」では自分で題材を生かし取り組む教材の提示している。筆使いや穂先の向きの説明をしている。めあてを書く欄の設置している。全学年の各単元の終わりに、「できたかな」を設置しており、「できたかな」ではその単元のめあてについて、できたかどうかチェックする欄を設けている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	第2～6学年では書写の学び方について巻頭で説明している。「書写のかぎ」を中心に学習の進め方を示している。見開きのある1ページを例示して何をどう見て学習するか説明している。学習の準備の仕方を写真を使用し説明している。第6学年の24ページでは、学習で獲得した「書写のかぎ」を発表するためのポスターを書くためには「どのような工夫をするとよいかを考えましょう」と投げかけている。ポスターの作成例の提示されており、「総合的な学習の時間に広げる」と書いてある。
学図	第6学年の36ページ、「小学校で学習したことを生かして、作品や資料などを作ってみよう」では、俳句、短歌、毛筆、絵手紙、新聞などを例示されている。また、第3学年の設定されている「学習の進め方」の2つめ、「考えて書こう」では学習内容に対する書写の課題を見つけ、解決策を考えてから練習するという単元構成になっている。
教出	第6学年の28ページ、「小筆を生かして書く」では、文字の大きさと配列、点画のつながり(小筆)。学習したことを自分の好きな俳句で書くときに生かそうとしている。振り返ろうでは3段階で自己評価する欄になっている。
光村	「○学年のまとめ」というこれまでに学習してきたことをまとめたページがある。めあてを自分で考えて書く欄がある。2段階で自分の評価を書きこむ欄がある。次にやってみようやまとめが設定してある。第4学年の36ページでは、自分の夢についての作文や色紙が例示してある。また、第6学年の19ページ「書写ブック」では、書写の学習で学んだこと、他教科での学習活動に生かせるよう具体的な例が掲載されている。
日文	第5学年の34ページ、「自分の力で」では、「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」と文章で説明している。選んだ題材、選んだ理由、私のめあての3点について書く欄を作成している。「前進」という文字の作成例を提示している。また、課題解決型の学習展開が設定されている。「書写の学習で大切なこと」に、いろいろ試してみようを見つけて、予想してそれが正しいかどうか考える、考えたことを説明したりみんなで話し合ったりして考えを深めると書かれている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「文字のいずみ」の文字に込めた思いでは、第4学年人文字、書道展、大風、第5学年七夕の短冊、大雨の被害地への寄せ書き、宮沢賢治の自筆原稿、第6学年命名用紙などを掲載している。
学図	巻末の「書写の資料館」では、はがき、原稿用紙、手紙の書き方がまとめられている。第5学年の45ページ、「感謝の気持ちを伝えよう」では、卒業する6年生にメッセージカードを送る内容を提示している。「これまでに学習したことを生かして書こう」と提案している。「思い出に残るものにしたいいね」とイオラストの子どものセリフを入れている。レイアウト例を提示している。完成したものを渡すとき、受け取る時のイラストをセリフ入りで提示している。
教出	第6学年の40ページ、「思い出に残る言葉を書こう」では、ポイントやはじめに考えること、書き方のひみつを文例で提示している。下書きの例示している。完成作品例を提示している。また、全ての学年に「学習の進め方」が示されており、第6学年4ページの自分自身の課題を見つけることを学習のスタートに位置付けた課題解決に向かう学習パターンが設定されている。学習の流れがパターン化されている。
光村	第6学年の40ページ、「自分だけの一文字」では、未来の自分を描く時に思い浮かぶ一文字を書こうという教材。活躍している人物の選んだ一文字とその理由を取り上げている。また、第5学年26ページ「手書きの文字」を使って、新聞社が発行した手書きの壁新聞を例示している。東日本大震災の翌日に発行された壁新聞の提示している。貼り出された新聞を見入る人々と、フェルトペンで書いている様子の2つの写真を提示している。
日文	第6学年の36ページ、「五・七・五で自分の思いを表現しよう」イメージマップ図の例示している。「句を作る時のポイント」についてノートにまとめたものの例を提示。完成例を3点提示している。併せて、その思いを文章でも提示している。また、第5学年、自分で学習課題を見つけることが単元の学習のめあてに設定されている。めあてに「自分で題材を選び、積極的に取り組もう」と書いてある。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第2学年の22ページ、「かんさつしたことを書こう」では、アゲハチョウの幼虫やアリの観察を例として示している。38ページ、「ありがとうを伝えよう」では、野菜作りについて教えてくれた大田さんあての手紙を例示している。第3学年40ページ、「はがきで伝えよう」では、ミカンを送ってくれたおじいちゃんへのはがきを例示している。
学図	第5学年生「感謝の気持ちを伝えよう」では、卒業する6年生にメッセージカードを送ることが教材として設定されている。また、第3学年の「文字の大きさと配列」ではおじいさんおばあさんに向けたお礼状を例として示されている。
教出	第4学年の1ページ、「世界のこんにちは」では、8種類の言語が紹介されている。また、全学年の裏表紙には「障害のある人が書いた絵を掲載し、パラソンアートの活動を紹介しています」と書かれている。
光村	第5学年22ページ、「めざせ！新聞記者」「自然とともに生きるアイヌの豊かな文化」と題名が書いてある。他教科で使える言語活動例としてアイヌ文化を紹介している。第6学年の24ページ、「新聞の書き方の工夫」では「バリアフリー」を題材にしたものを例示している。第2学年の14ページ、「原稿用紙に書くとき」では、音が出る信号機について描いた作文を例示している。
日文	第5学年の41ページ、「原稿用紙の使い方」では「共生するために」という作文を例示している。第4学年の47ページ、「けいじぶつの書き方」では、学級新聞を取り上げている。学級対抗リレーでは力を合わせチームワーク賞をとったこと、育てた野菜についてなどにふれている。また、46ページの「原稿用紙の使い方」では、野球チームに所属している女子部員の作文が例示されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の38ページ、「世界の文字いろいろ」では、英語のラテン文字、中国語の漢字、韓国・朝鮮語のハングル文字、ロシア語のキリル文字、アラビア語のアラビア文字、ヒンディー語のデーバナーガリー文字の例示している。それぞれの文字についての解説文の提示している。参考書籍を提示している。
学図	「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第3学年の46ページでは、大文字・小文字のローマ字表が提示されている。実際の写真を取り上げながら、名前や地名のローマ字での書き方が示されている。
教出	第5学年の30ページ、「委員会のポスター」では、「委員会のポスターを読む人にわかりやすく書くには、どのようなことに気を付ければよいか話し合ってみよう」とめあてを例示している。作業手順を3つの段階に分けて解説してあり、完成例の写真を提示している。ごみの分別を呼びかける美化委員会のポスターが教材として設定されている。
光村	第5学年の26ページ、「手書きの力」では、東日本大震災の翌日に新聞社が発行した手書きの壁新聞が紹介されている。「津波で印刷機が止まったため、新聞用の紙にフェルトペンで書かれた」と書かれている。「正確な情報で行動を！」と書かれている。また、第6学年の13ページ、「伝えるって、どういうこと？」では「分かりやすいのはどちらだろう」と2つの作品例を2作品ずつを用いて、提示されている。
日文	第6学年の40ページでは、エメールの作成例の写真を提示しており、アルファベットの書き方の表の提示している。21ページの「行の中心と字間・行間」「読みやすく書く方法を考えて書こう」では、地球温暖化についての作文を例示している。また、第2学年の35ページでは、外国人との交流を題材にした教材が例示されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第5学年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、地域に呼びかけるポスター作りが教材として例示されている。「防災マップを作ろう」「災害にあった時に役立つ場所や危険な場所を書き込んだ地図を作りましょう」と書いてある。
学図	「社会とかかわる力」に関連して、第2学年の36ページでは、えんぴつや消しゴムが何の材料でどのように作られているのかが提示されている。また、第6学年のまとめで設定されている活動では、「私にもできるペットボトルでボランティア」というレポートが例示されている。
教出	第2学年の図書館や、第3学年のスーパーマーケットの工夫を教材として扱っている。第2学年の13ページ、「図書館の人にお話を聞いて聞き取りメモにまとめましょう」と書かれていて、図書館の仕事についてまとめたカードが示されている。第3学年の48ページ、「書いて伝え合おう」では、スーパーマーケットの工夫をまとめた模造紙が掲載されている。
光村	第4学年の36ページ、「やってみよう」では、将来の夢「オリンピックに出ること」「パイロットになりたい」を題材にした教材を配置している。また、第5学年の26ページ、「手書きの力」では、東日本大震災の翌日に発行した新聞を紹介。印刷機が止まったため、手書きで書いた新聞を取り上げている。実際に貼り出された壁新聞を見入る人たちの写真を提示している。
日文	第5学年の36ページ、「提案文を書いて、話し合おう」では、防災意識を高めようという題名のもと、自然災害に対して自分たちが出来ることを考えている。サークルマップの作成例、構成メモの作成例、提案文の例を示している。また、第1・2学年の児童にもわかりやすい学区周辺の避難所をまとめたポスター作りが教材として配置されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	第5学年の33ページ、「5年のまとめ」活動の見通しとして、「小筆・フェルトペン」を使っての作品作り、毛筆(大筆)での作品作りが例示されている。既習事項を生かして工夫しようと提示している。「ふり返り」として、お互いの作品を見合う場の写真が掲載されている。また、第2～6学年の表紙裏に「書写の学び方」や「イラストマップ」で学習の見通しを示している。単元末の「ふり返ってはなそう」では、友達と話しながら学習を振り返ることが指示されている。
学図	第2学年の6ページでは、書写の学習の進め方について説明している。「考えて書こう」では考える視点を示している。ためし書き、まとめ書きを比べることで話し合う視点を明確にしている。キャラクターがヒントを児童2人で書いた文字を見て意見を述べている。また、第4学年「読みやすく書こう」では、「プログラム」「ノート」「学級新聞」の3つの例を提示している。「読みやすく書く」ための工夫をどうすればよいか、イラストの人物のやりとりを使って話し合いの場を提示している。
教出	第2学年19ページでは「文字を比べて話し合おう」とめあてを提示し、「ためし書き」と「まとめ書き」の2つの作品を見比べて、話し合っている2人の児童の写真を提示している。また、第4学年では、対話の際に使える文例や発言の例が記載されている。発言の例が吹き出しで示されていて、「どの部分が?」「どうなっている?」と「書写の言葉の例」があり、対話する時に使える文例がある。
光村	第5学年の28ページ、「用紙に合った文字の大きさ」では、文字の大きさを変えた3つの作品例を提示。3つの作品を見比べている2人の子どものイラストと、見比べての感想を述べている言葉を掲載している。用紙に合った大きさの文字を書いた作品例を提示している。書く前に、文字の大きさと配置を決めるということを「たいせつ」という項目で文章を使って説明している。
日文	第5学年の36ページ、「提案文を書いて話し合おう」では、完成した「提案文」を見開きの左側のページに例示している。グループで話し合う場をイラストとセリフで表現。サークルマップの作成手順と作成例を提示している。最後に話し合う様子をイラストで提示している。また、第6学年の7ページでは、友達と話し合うことが指示されており、吹き出しの会話が相談の例になっている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	第6学年では「総合的な学習の時間」に関連した、「発表のためのポスターを書こう」という題材が設定されている。その中で、書写で学習したことを総合的な学習につなげていく過程が示されている。
学図	全学年の巻末に「書写の資料館」が設定されている。学年に応じた他教科との関連がされている。第4学年ではノートの書き方、プログラム、学級新聞の書き方が示されている。第5学年では表とグラフを使ったポスターの書き方等が示されている。第6学年ではポスター、お知らせの書き方が示されている。
教出	第4学年の27ページに「レッツ・トライ」「理科ノート」が掲載されている。学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつが3つ示されている。第3学年「展覧会作品のカード図画工作で生かす」と書いてある。第5学年の社会科との関連で「工場見学のメモ」では、「目的に合った書く速さを知ろう」と学習活動のめあてを提示している。メモを書く前の「話し合い」の場面について、イラストや文章、ヒントなどが提示されている。作成したメモが例示されている。
光村	書写で学習したことが他教科の具体的な場面を例で紹介されている。第5学年の38ページには外国語との関連で「英語で書いてみよう」があり、英語を使用しての名刺づくりで作成例を提示している。また、第4学年の23ページには理科のノートの書き方を示している。ポイントが書いてあり、チェックできるようになっている。第3学年の33ページには社会のノートの書き方の例を示している。横書きの書き方も示している。第1学年の35ページには「横書きの書き方」算数ノートの例がある。数字の書き方が書いてある。
日文	全学年の巻末に学年に応じ、他教科と関連した言語活動が設定されている。第1学年の39ページに「あったことを、スピーチしよう」、第2学年の36ページに「観察記録を書こう」、第3学年の42ページに国語や社会、理科との関連で新聞づくりの学習の流れの説明をイラストや文章で例示している。下書きの作成例の提示している。完成した新聞の作成例の提示している。読みやすい新聞にするためのポイントを2つ文章で説明している。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第3学年の26ページ、「実験したことを記録しよう」では、点画の書き方や文字の整え方に気を付けて、読みやすく実験記録を書く学習が設定されている。実験記録の例から、わかりやすく書くための工夫を考え、これまでの既習事項を生かして書く流れが示されている。
学図	第5学年の45ページ、「感謝の気持ちを伝えよう」では、木的や内容に合わせて使う用紙や筆記具を選ぶこと、絵や写真、書きたいことの配置、文字の大きさについて提示されている。完成したメッセージカードと6年生に渡すイラストが示されている。
教出	第6学年の16ページ、「レッツ・トライ」の「校外学習のリーフレット」では、用紙全体の大きさを考えて、読みやすいリーフレットを書く学習が設定されている。完成したリーフレットを提示し、読みやすくする工夫が示されているとともに、作成の流れが4つの過程（「テーマを決める」「取材をする」「構成を考える」「リーフレットを書く」「読み返す」）で示されている。
光村	第6学年の19ページには、第1学年から第6学年までに学習したことを、日常生活に生かすための「書写ブック」が綴じられている。第6学年では、「ポスターを作る時の工夫」として、題名や見出しは目立つように大きく書くこと、情報は箇条書きでまとめること、内容を項目ごとに分けることが示されている。
日文	第6学年の36ページ「五・七・五で、自分の思いを表現しよう」では、「卒業」をテーマに一人ひとりが五・七・五の句を作り、その後クラス全体で意見交換をするまでの過程が提示されている。「卒業」をテーマに、①「思いついたことを書き出してイメージを広げる」②「句を作る時のポイントをノートにまとめる」、③「一人ひとり思いを五・七・五で表現し、みんなで鑑賞する」、④「クラス全体でお互いの句について意見交換をする」という流れで学習が展開されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	各学年の「文字のいずみ『書いて味わおう』」では、古典文学などが硬筆教材として設定されている。第1学年の35ページに「花さかじいさん」、第2学年の31ページに「いろは歌」、第3学年の36ページに「俳句」、第4学年の34ページに「百人一首」、第5学年の26ページに「竹取物語・おくのほそ道」、32ページに「枕草子」、第6学年の26ページに「漢詩」、32ページに「漢文」が掲載されている。また、なぞり書きの欄や言葉の意味、現代語訳が示されている。
学図	第6学年の22ページ、「生かして書こう」では、江戸時代の子供が使っていた「いろは歌」の教科書が提示されている。「いろは歌」についての説明があり、点画のつながりに注意して、硬筆で「いろは歌」を書く欄が設定されている。
教出	第3学年以上の「レッツ・トライ」には「文化」というページが設定されている。第3学年に俳句、第4学年に短歌、第5学年に竹取物語、第6学年に枕草子が紹介されている。第4学年の39ページ、「レッツ・トライ」では、二つの「短歌」が紹介され、文字の大きさと配列に気を付けて書くことが示されている。また、次のページではさまざまなかるたが紹介され、かるた大会の様子や郷土かるたが紹介されている。防災かるたを作る学習も設定されている。
光村	第6学年の27ページ、「文学の歴史」では、作品と使われた文字を線で結ぶ内容が設定されている。また、28ページでは、私たちが普段使っている文字について、漢字の誕生から現在にいたるまでの流れが、書き表し方の変化や出土品とともに示されている。
日文	第6学年の16ページ、「平仮名と片仮名ができるまで」では、漢字の始まりから、平仮名や片仮名が生まれるまでの流れが、出土品とともに提示されている。日本に残る最古の文字といわれる「金印」の写真や古墳から出土した鉄剣とそこに書かれてある「文字」の拡大写真が提示されている。世界で使われていた漢字以外の文字についても提示されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第2学年の22ページ、「かんさつしたことを書こう」では、例示されている観察カードから、画の長さや画の向きに気を付けて書かれている箇所を探し、観察カードを書くときに使えるように学習が展開されている。
学図	第1学年の1ページ、「みのまわりのもじをさがそう」では、身の回りで使われている文字を見付ける活動が設定されている。教室や体育館など文字を探す場やかんさつやきゅうしょくなどの活動場面がイラストで例示されている。
教出	第5学年の19ページ、レッツ・トライの「工場見学のメモ」では、「自動車工場でのメモの取り方」について提示されている。人から話を聞く際に、あらかじめ聞きたいことをメモに書いておくことや話をしている人の方に体を向けて聞くことなどが示されている。
光村	第5学年の10ページ、「書くときの速さ」では、場面にあった書く速さを考える学習が設定されている。書く速さは場面によって変わることや相手や目的によっても書く速さが変わることが示されている。
日文	第3学年の44ページ、「手紙の書き方」では、社会科見学のお礼の手紙を例として取り上げ、手紙を書くときのポイントとして、「タイミングよく出すこと」「わかりやすく書くこと」「相手を考えて書くこと」「書き終わったら…」の4つが提示されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第6学年の36ページ、「書写展覧会を開こう」では、これまでの6年間に書写で学んできたことを生かして、作品を書く学習が設定されている。単元の終わりには、「中学校に向けてこれまでに身に付けた『書写のかぎ』をどのように使っていくか、話し合しましょう」と提示されている。
学図	第6学年の50ページ、「『行書』で書いてみよう」では、発展として中学校に入ったら学習する行書を紹介している。これまでの楷書と行書の書き方を「栄光」という文字で比較しながら、行書の特徴が示されている。
教出	第6学年の44ページ、「はってん中学1年」では、中学校で学習する速くかけて、やわらかい書き方として、行書が示されている。楷書と行書について説明されているとともに、「春」を例にして楷書と行書の違いが示されている。また、小学校で学習した楷書と中学校で学習する行書の練習欄が設けられている。
光村	第6学年の53ページ、「もっと知りたい『発展』」では、中学校で学習する行書について、小学校で学習してきた楷書よりも速く書ける書き方として提示されている。行書の主な特徴が4点示されているとともに、楷書と行書で書かれた「将来の夢」が並んで提示されている。
日文	第6学年の20ページ、「チャレンジ『行書』をなぞってみよう」では、与謝蕪村の俳句が楷書と行書で並べて例示され、なぞり書きができるようになっている。「行書」についての説明が提示されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第5学年の22ページ、「分かりやすく効果的に伝える書き方」では、分かりやすく効果的に伝えるポスターにするために、改善されていく過程を示したポスター4枚を例に挙げ、必要なことを「書写のかぎ」を参考にしながら考え、委員会など他の活動に生かしていく学習が展開されている。
学図	第5学年「書写の資料館」の中の43ページ、「メモの取り方」では、話を聞きながらメモを取る際の、気を付けることが示されている。記録の仕方、間違えた時の訂正の仕方など速く書くための工夫が示されている。また、どんな時にメモを取るのかが例示されている。
教出	第4学年の19ページ、「レッツ・トライ」の「学習内容をまとめる」では、読み手に内容がよく伝わる発表資料のまとめ方が提示されている。「家から出るごみの種類と量」について表と写真を使った資料が例示され、発表資料の作成の流れや「どのように書くか決める」こと、「書く位置や文字の大きさをたしかめる」ことについて示している。
光村	第5学年の26ページ、「手書きの力」では、「手書きの文字には、活字とは別の力がある」とし、「見出し」「題字」「記事」の部分が示された、東日本大震災のよく日に新聞社が発行した手書きのかべ新聞から、「どんな印象を受けるだろうか」と提示されている。27ページの「手書き文字と活字」には活字について「書きやすさより、読みやすさに重点をおいて、デザインされている」ので、「手書きの文字とのちがいに注意しよう」と提示されている。
日文	第3学年の42ページ、「本で調べて、学習新聞を作ろう」では、グループで身の回りの生き物の学習についてどのように調べるかから、学習新聞が出来るまでの過程が提示されている。写真や棒グラフが使われている学級新聞を例示しながら、読みやすい新聞にするために必要なことが示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	第2学年の12ページ、「点画の名前」では、点画の名前を確かめながら練習できるよう設定されている。手本の漢字の点画と、名前を説明している「しょしゃのかぎ」の点画が同じ色で示されている。また、点画を書く練習する欄が設けられており、「とん」「びた」「すうっ」などの言葉で鉛筆の動かし方が示されている。
学図	第3学年の12ページ、「たて画とはらい」では、「木」の縦画と左はらい、右はらいの筆使いが提示されている。1の「確かめて書こう」では、右ページのお手本を白抜き文字にし、筆使いが示され、穂先には三角定規の図が添えられている。また、2の「考えて書こう」では、穂先の通り道が朱書きで書かれているとともに、筆圧の強さが3段階の数字で示されている。
教出	第1学年の14ページ、「にているひらがな」では、「あ」と「め」のちがうところに気を付けて書くことが提示されている。「あ」と「め」で同じ運筆の部分が同じ色で示されているとともに、「とめ」や「はらい」を「びたっ」「すうっ」という言葉で明示された画を指でなぞることが提示されている。
光村	第1学年の28ページ、「かん字のかきかた」では、「小」や「大」という文字の「とめ」「はね」「はらい」の線の終わりに気を付けて指でなぞることが提示されている。書き順が色別で示され、「とめ」「はね」「はらい」の部分に「びたっ」「びよん」「すうっ」という言葉とキャラクターの動きが添えられている。
日文	第4学年の14ページ、「筆順と字形」では、整った字形にするために、直しが必要な「左右」の文字が提示されている。「左右」の筆順には数字がふられ、同じ画には同じ色が示されているとともに、画が表す人の体の部分がイラストで説明されている。

⑨ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	第6学年の10ページ、②「組み立て方」では、「①見つけよう」「②確かめよう」「③生かそう」そして「ふり返って話そう」と学習の進め方が4段階で構成されている。3つの部分から組み立てられた漢字「湖」を書く際、「斗」「古」「月」の3つに色分けされた欄が設定されている。
学図	第2学年の26ページ、「点や画のつき方と交わり方」では、漢字とイラストが並列に並べられた構成で示されている。点や画の「つく」ところには、割りばしが割られる前のイラストが示され、「はなれる」ところには、割りばしが割られたイラストが示され、「交わる」では交差点のイラストが示されている。
教出	第4学年の36ページでは、「学習の進め方」について3コマ漫画で示されている。前の時間に学習したことを振り返り、これから「土地」を題材として左右の組み立て方を学習するのか、あるいは「岩山」を題材として上下の組み立て方を学習するのか、どちらにするのかを自分のめあてをもとに選択し展開していく学習が設定されている。
光村	第2学年の10ページ、「『はらい』の方向」では、4つの「左はらい」の形が比べられている。矢印の向きとキャラクターの体勢で方向を示している。その後、「左はらい」が使われている漢字を線で結び付けたり、「左はらい」と「右はらい」の方向に気を付けて練習したりする学習構成となっている。
日文	第6学年の6ページ、「自分の文字と向き合っ」では、課題の「やしの実」の詩を書いた後、自分の文字と手本の文字を比べ、友だちと話し合い意見を聞くことで、自分の文字の課題を知り、今後の学習課題に生かしていく設定がされている。

⑩ 毛筆と硬筆との関連を持たせるための工夫や配慮	
東書	第6学年の20ページ、⑥の「ひらがな」では、「ありがとう」をなぞることで文字と文字のつながりを考えさせた後、毛筆でつながりを確かめながら書く学習となっており、その後、再び硬筆で点画どうしや文字どうしのつながりがわかるように「めあて」を書く設定になっている。
学図	第3学年の36ページ、「画の長短と文字の中心に注意して書こう」では、毛筆で「山里」を画の長短と文字の中心に注意して書いたことが、37ページの「生かして書こう」のコーナーで硬筆学習につなげられている。また、単元最後の「ふり返ろう」では、自分や友だちの名前を書く欄が設定されている。
教出	第6学年の10ページ、「用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて書こう」では、毛筆で「歩む」を書くときに気を付ける点を考えさせた後、硬筆で「歩む」や「歌う」を文字の大きさを確かめて書く学習が設定されている。
光村	第5学年の22ページ、「めざせ！新聞記者」では、「筆」「筆ペン」「フェルトペン」「ボールペン」それぞれの筆跡が並べて表示されており、筆記具の特徴をふまえ、場面に合わせて使い分ける必要が示されている。
日文	第6学年の10ページ、「部分の組み立て方」では、「かまえ」のある「仲間」を毛筆で文字の組み立て方に気を付けて書いた後、「かまえ」のある硬筆で書かれた漢字「関」「閣」「風」「医」の4つを例示し、「かまえ」のある他の文字を書くときに生かせるよう設定されている。

⑪ 適切に運筆する能力を育成するための工夫や配慮	
東書	第6学年の8ページ、「毛筆で書いてみよう」では、2ページ内に9つのこれまでに学習した点画が取り上げられており、穂先の通るところを朱色で示すとともに、穂先をイメージしたキャラクターを配置するなどして、適切な運筆をするための工夫がされている。
学図	第5学年の21ページ、「穂先の動きと点画のつながりを考えて書こう」では、「あこがれ」を書く際、穂先の動き方を線で示すとともに、「指でなぞって、点画のつながりを確かめよう」と提示しており、適切な運筆をするための工夫がされている。
教出	第3学年の40ページ、「点画のしゅるい」では、筆圧の違いを数字で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「始筆」を「とん」、「送筆」を「すうっ」、「終筆」を「びたっ」と提示するなどして、適切に運筆することができるように工夫されている。
光村	第3学年の22ページ、「②漢字の筆使い」では、筆使いに気を付けて「右はらい」を書くことが提示されている。筆圧の違いを数字や言葉で示したり、穂先の通り道を赤で表し、キャラクターの動きで「止めるところ」や「はらうところ」をそれぞれ「ぐっ」、「すうっ」と提示するなどして、適切に運筆することができるように工夫されている。
日文	第2学年の16ページ、「点と画」では、運筆を人のイラストの動きで表したり、筆を止める場所を赤の点で表すなどして、適切に運筆する能力を育成するための工夫がされている。

⑫ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮	
東書	各学年とも、2つ「生活に広げよう」という項目が設定されている。第2学年の15ページ、「れんらくちょうを書こう」では、連絡帳の中でかたかなの「止め」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」が使われているところを探し、既習事項を確認して、これから連絡帳を書く際に生かすことが提示されている。
学図	各学年、巻後半に「書写の資料館」が設定されている。第6学年の38ページには、日常生活に役立てる態度を育てるための工夫として、「都道府県を書こう」や「アルファベットとローマ字」「はがき・原こう用紙」「手紙の書き方」等が設定されている。
教出	各学年に「レッツ・トライ」として、日常生活や他教科での活用場面を想定した例が提示されている。第4学年の26ページでは、学習内容がわかりやすい理科のノートのまとめ方として、書き方のひみつ①②③が示されている。
光村	第6学年の19ページに「書写ブック」が設置されている。第1学年の「横書きの書き方」、第2学年の「げんこう用紙の使い方」、第3学年の「手紙の書き方」、第4学年の「はがきの表書き」、第5学年の「新聞の書き方の工夫」、第6学年の「ポスターを作るときの工夫」そして「筆記具図かん」が示されている。
日文	生活に役立てる観点から、各学年「生活と書写」というページが設定されている。手紙の書き方、封筒の書き方を示す。お礼状、依頼状の書き方を縦書きと横書きの例が示されている。

4 分量・装丁・表記等

① 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
学図	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
教出	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
光村	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習が設定されている。
日文	各学年の配当時間に照らして適切な分量で硬筆と毛筆の学習設定されている。

② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	判型はA B版で、図版が大きく提示されている。また、第3学年以上では、6年間で学習する書写の内容一覧「書写のかぎ」がインデックスとして設定されている。
学図	判型はB 5判で、二文字以上の毛筆教材はすべて半紙と同じ大きさで掲載されており、そのまま手本として活用できるよう設定されている。全学年とも「学習の進め方」が3ステップと振り返りという流れに統一されている。
教出	判型はB 5判で、低学年は4つのステップ、中・高学年は7つのステップで学習の進め方が統一されている。表紙には、墨や汚れに強い撥水コーティングが施されている。
光村	判型はB 5判で、「手紙の書き方」などの3項目について、見開きの2ページ分を開いて見られるように配置されている。強度が高く鉛筆で書きやすい用紙が開発され、採用されている。
日文	判型はB 5判で、低学年は3ステップ、中・高学年は6ステップの「学習の進め方」が設定されている。用紙は再生紙で書き込みに適した用紙が採用されている。手本の文字が映えるように、用紙の白さも重視されている。

③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	裏表紙には、「ゴシック体には、見やすく読みまちがいにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。
学図	裏表紙には、「多くの人が使いやすいように、ユニバーサルデザインの観点に立ち、色使いやフォント、レイアウトなどに配慮して作成しました」と記載されている。
教出	裏表紙には、「より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。
光村	裏表紙、「タイトルや『たいせつ』には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています」と記載されている。
日文	裏表紙には、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	神奈川県に関連することとして、文字に込められた思いを紹介する資料として、第4学年53ページに「相模原市の『相模の大だこ』」の写真が掲載されている。
学図	神奈川県に関連することとして、身の回りで使われているローマ字の資料として、第5学年49ページに「横浜市内の道路標識」の写真が掲載されている。
光村	神奈川県に関連することとして、町にある文字を紹介する資料として、第4学年29ページに「横浜市のマンホールのふた・標識」の写真が掲載されている。
日文	神奈川県に関連することとして、身の回りには文字があふれていることを紹介する資料として、第5学年2ページに「神奈川県立金沢文庫」の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			学図			教出		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	光村			日文					
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年			
	有	有	有	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量 (g)							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	6	135	126	146	137	137	136
学図	6	112	105	122	133	130	121
教出	6	113	89	124	124	110	110
光村	6	106	90	125	111	116	114
日文	6	118	118	130	130	121	121

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪社会≫

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習のキーワードの「ことば」や、「見る・聞く・ふれる」・「読み取る」のコーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、くらしの安全を守るために自分たちができることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「日本の未来と日本の役割」で、持続可能な開発目標(SDGs)が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、目の不自由な人のためのペンを設計した町工場が紹介されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、「食品ロス」の問題や、これからの日本の食料生産について考える内容が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地震からくらしを守る取組を「自助・共助・公助・互助」の観点でまとめる活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すように、学習の流れを理解するための「つかむ」「しらべる」「まとめる」のマークや「本時のめあて」が掲載されている。 □ 各学年の該当ページに「教科関連マーク」を表示して、理科・国語・家庭科等の関連する教科の学習内容が個別に記載されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、単元の終末「まとめる」や「いかす」で、話し合い活動をもとに宣伝シールをつくる活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「きょう土の伝統・文化と先人たち」で、伝統芸能を年表にまとめる活動が取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第4学年「自然災害からくらしを守る」で、避難所を疑似体験して「共助」について考える活動が設定されている。 □ 第6学年の巻末「中学校に向けて」で、「歴史」「地理」「公民」に分けて紹介され、中学校への期待について書く活動が記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「四コマCMをつくろう」や、第5学年「プレゼンテーションの資料をつくる」などの情報のまとめ方が示されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図において、色の違いだけでなく、模様や形などでも判別することが可能となっている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 全学年の巻頭に「○年生で学んだこと」「○年生で学ぶこと」が、巻末に「○年生で学んだこと」が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、地球儀における距離や方位の調べ方などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年下「情報化した社会と産業の発展」で、さまざまな立場に立って話し合う場面が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年において、「社会的事象の見方・考え方」を働かせた問いが、キャラクターを目印にした囲みで示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 第3学年及び第4学年は各1冊、第5学年は上下巻で2冊、第6学年は政治・国際編と歴史編の2冊である。 □ 「つかむ」「しらべる」「まとめる」単元の学習活動について、各活動ごとに、マークの形や色が統一されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《社会》

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「キーワード」や、情報を「集める」・「読み取る」コーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、地震や津波への備えなど、自分たちに行えることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、世界での日本人の活躍とともに、ともに助け合う大切さとして、東日本大震災が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、聴覚に障がいのある人が自動車工場で働く写真が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、フードマイレージや地産地消について取り上げられ、また、郷土料理について取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地震や津波からの身の安全について、自分にできることを選択・判断する活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すために、「この時間の問い」と「次につなげよう」や、「みんなでつくった学習問題」が掲載されている。 □ 第3・4学年の巻頭に「他の教科とのかかわり」として、国語・算数・理科・英語・道徳の学習内容が記載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、単元の終末「まとめる」で、販売側と消費者側の双方の立場に立った資料を基に話し合う活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「地域でうけつがれてきたもの」で、阿波踊りが古くから受け継がれてきたことを示す年表や写真が掲載されている。 □ 体験活動に関して、第3学年「わたしたちの市の歩み」で、課題を追究する活動として市のうつつりかわりを聞き取るインタビューが設定されている。 □ 第6学年の巻末「中学生になったら…」で、第6学年の学習を、中学校での「地理・歴史・公民」の分野の学習につなげて記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第3学年の巻末「ワクワク!社会科ガイド」で、本やインターネットの調べ方などについて掲載されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図や資料において、分布について色だけでなく形で判別することが可能となっている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 全学年の巻頭に「前の学年をふり返ろう」が、巻末に「○年生の学習をふり返ろう」が掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、世界地図と地球儀の違いを読み取る活動などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年「未来を考える食料生産」で、生産者・消費者の立場をもとに考えをまとめる場面が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年の巻頭に、具体的な学習の場面を想定した「社会科の見方や考え方」のコーナーが設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 各学年とも、1冊である。 □ 複数の資料を処理するのが困難な児童が資料を見分けやすいように、地図や写真などの資料には、カタカナで記号がつけられている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《社会》

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(社会-4～社会-9)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学社会
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「キーワード」「むずかしいことば」や、「見る・調べる」「読み取る」のコーナーが、全学年に系統的に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、安全な暮らしを守るなど、自分たちができることを考えたり、選択・判断したりする活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、世界で起こっている戦争・紛争地などを表した地図や、世界の環境保全の必要性が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、第5学年の工業生産の単元で、介護ロボットの開発について掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、食料廃棄の問題や、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されていることなどが取り上げられている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、自然災害にそなえ、自分たちができることを話し合う活動が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しをもった学習活動を促すために、1時間ごとの問いである「わたし(たち)の問題」や、「学習問題」や「さらに考えたい問題」が掲載されている。 □ 他教科との関連として、第4学年では、生活に使われる水の量を調べるために、第5学年の算数科で学ぶ体積(m³)の表し方が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、「学び方・調べ方コーナー」の「表現する」で、ノートに調べたことを自分の言葉でまとめる活動などが設定されている。 □ 伝統・文化に関して、第4学年「くらしのなかに伝わる願い」で、長崎くんちの様子を描いた屏風の写真や後世に伝える事例などが掲載されている。 □ 体験活動に関して、全学年の巻頭に「見学しよう」「やってみよう」等、児童の体験的な学習の様子が写真で示されている。 □ 第6学年の巻末で、中学校の社会科で学ぶ内容を「地理」「歴史」「公民」三分野に分け、学びたいことなどをカードにまとめる活動が記載されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第4学年「インターネットの使い方」や、第5学年「インターネットでの調べ方」などの情報の集め方が示されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図や資料において、色だけでなく模様や地図記号で判別することが可能となっている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 単元の終末に「わたしたちの学びをいかそう」が設けられ、発展的な学習として児童が考えるきっかけになる資料が取り上げられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 基礎的な知識・技能の習得に関して、地図帳の使い方や、地球儀における方位と距離の調べ方などが、具体的に取り上げられている。 □ 多面的・多角的な考察に関して、第5学年「私たちの食生活を支える食料生産」で、異なる考えを発表し合い、話し合う場が設定されている。 □ 問題解決的な学習に関して、全学年で「見方・考え方コーナー」が設けられ、「空間」「時間」「関係」の3つの考える視点がマークで示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。 □ 各学年とも、1冊である。 □ 学習活動の中心となる写真や絵などの資料が大きく掲載されている。また、キャラクターが投げかける問いの吹き出しが掲載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《社会（社会）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において学習内容のキーワードとなる「ことば」が掲載され、巻末に一覧でまとめられている。また、「まなび方コーナー」では、社会的事象について調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「見学の計画を立てる」や、第5学年上の「折れ線グラフを読み取る」「土地利用図の読み取り方」などについて記載した「見る・聞く・ふれる」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
教出	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において「キーワード」が掲載され、巻末に「さくいん」として一覧にまとめられている。さらに、高学年においては、本文中でも太字で示されている。また、「学びのてびき」では、社会的事象について調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「買い物調べカードをつくる」や、第4学年の「二つのグラフに共通する動きを読み取る」などについて記載した「集める」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
日文	基礎的・基本的な知識の定着を図るよう、全学年において「キーワード」が掲載され、巻末に一覧でまとめられている。さらに「むずかしいことば」の項目による説明が掲載されている。また、「学び方・調べ方コーナー」では、社会的事象を調べまとめる技能を習得できるよう、第3学年の「買い物調べカードの書き方」や、第4学年の「二つのグラフの読み取り方」などについて記載した、「見る・調べる」「読み取る」が、全学年に系統的に設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「まなび方コーナー」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年下「フローチャートにまとめよう」などの「表現する」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において「つかむ→調べる→まとめる」の単元構成になっており、その中の「まとめる」では、単元における「学習問題」を確認しながら、自分の考えを文章でまとめる活動や、話し合ったり発表したりする活動が提示されている。第3学年の「くらしを守る」の単元の終末において「自分たちにもできること」や、第6学年政治国際編「わたしたちの生活と政治」の「公園づくりについて話し合おう」など、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
教出	「学びのてびき」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年の「三つの立場の関係を図に表す」などの「表す」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において「つかむ→調べる→まとめる→つなげる」の単元構成になっており、その中の「まとめる」では、「みんなでつくった学習問題」を確認しながら、課題の解決に向けて考えたことを話し合ったり発表したりする多様な活動が具体的に例示されている。第4学年「自然災害にそなえるまちづくり」の単元の終末で、地震や津波へのそなえとして大切だと思ったことややってみてみたいと思った取り組みを標語に表す活動など、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
日文	「学び方・調べ方コーナー」では、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えられるよう、第5学年の「調べて考えたことを交流する」等の「表現する」が、全学年に系統的に掲載されている。全学年において、本文が「学習活動の説明→キャラクターの会話→学習内容の説明」に分けられている。また、キャラクターの会話を事例とした話し合い活動が例示された構成になっている。第3学年「安全なくらしを守る」の終末で、安全なくらしを守るためにできることは何かを話し合い、「さらに考えたい問題」についてノートにまとめる活動等、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする活動が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年政治国際編「世界の未来と日本の役割」において、持続可能な開発目標（SDGs）が取り上げられている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年「地球規模の課題解決と国際協力」において、ともに助け合う大切さとして、世界の平和や環境を守るための日本人の活躍とともに、東日本大震災で世界の国々に日本が助けられたことが取り上げられている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の社会科の目標である「世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う」の涵養に関して、第6学年の「国際連合と日本の役割」において、世界で起こっている戦争・紛争地などを地図に表した資料や、世界の環境保全の必要性が求められていること、SDGsが取り上げられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第5学年下「工業生産」で、車いすのまま乗りおりにできる自動車や手だけで運転できる自動車が写真で掲載されている。また、目の不自由な人がさわって文字をたしかめられるペンを設計した東京都大田区の町工場が紹介されている。 第6学年歴史編「長く続いた戦争と人々の暮らし」で、「元ひめゆり学徒の証言」が掲載されている。また、「戦争の犠牲になった子どもたち」として、小学生を含む多くの人々が乗っていた対馬丸の沈没について掲載されている。
教出	第5学年「工業生産」で「さまざまな願いにこたえる自動車づくり」として、ユニバーサルデザインが取り上げられている。また、車いすに乗ったまま乗り降りできる自動車や、「だれもが働きやすい工場」として、聴覚に障がいのある人が自動車工場で働く写真が掲載されている。 第6学年「戦争と人々の暮らし」で、ひめゆり学徒隊の手記が掲載されている。また、第6学年「世界の中の日本」で、世界から集まって話し合った小学生の代表が広島での平和記念式典で行った「平和の誓い」が掲載されている。
日文	第5学年「工業生産」で、ベットと車いすのあいだの乗り移りの動作を補助する介護ロボットを開発した人物の話と写真が掲載されている。 第6学年「アジア・太平洋に広がる戦争」で、沖縄戦について取り上げられ、ひめゆり学徒隊やひめゆりの塔などの慰霊碑が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の「食料生産」の単元において、「食品ロス」の問題や、食の安全・安心の確保について学んだり、これからの日本の食料生産について考えたりする内容が取り上げられている。 全学年において、いくつかの単元の終末に、児童が相互に説明や話し合いを行う学習を促す「いかす」が設定されている。
教出	第5学年の「食料生産」の単元の終末で、フードマイレージや地産地消について取り上げられている。また、郷土料理を中心とした地域ならではの食料生産について取り上げられ、地域の食文化を守ることの大切さについて触れられている。 全学年において、いくつかの単元の終末に、児童が話し合いや発表活動を行う学習を促す「つなげる」が設定されている。
日文	第5学年の「食料生産」の単元の終末で、これからの日本の食料生産のあり方を考えさせる際に、食料廃棄の問題が取り上げられている。また、日本の伝統的な食文化である和食がユネスコ無形文化遺産に登録されていることなどについて取り上げられている。 全学年において、学習問題について、キャラクターによる意見交換や話し合いの場面が例示されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第4学年「自然災害から暮らしを守る」において、地震から暮らしを守る取り組みについて調べてきた内容を「自助・共助・公助・互助」の観点でまとめる作業をとおして、自分たちには何ができるのかについて、整理して考えられる構成になっている。
教出	第4学年「自然災害にそなえるまちづくり」の単元の終末において、地震や津波にそなえたさまざまな人々の取り組みを通して、自然災害に対するそなえについて自分が大切だと思うことややってみようことを標語にする活動が示されている。
日文	第4学年「わたしたちの学びを生かそう」において、自然災害にそなえて自分たちができることについて話し合う場面が設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	全学年において、学習の流れをわかりやすく示す「つかむ」「しらべる」「まとめる」のマークが掲載され、それらのマークの下には本時のめあてが記載されている。また、単元のまとまりごとで「学習問題」が枠囲みで掲載されている。
教出	全学年において、学習の展開を「つかむ」「しらべる」「まとめる」「つなげる」で示し、「この時間の問い」と「次につなげよう」がセットで掲載されている。また、単元のまとまりで「みんなでつくった学習問題」が枠囲みで掲載されている。
日文	全学年において、おおむね1時間を見開きで示し、何について考えていくのかを明確に示す「わたし（たち）の問題」が掲載されている。また、単元のまとまりで「学習問題」や「さらに考えたい問題」が枠囲みで掲載されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	各学年の該当ページに「教科関連マーク」を表示して、理科・国語・家庭科等の関連する教科の学習内容が個別に記載されている。また、第3学年の巻頭に「生活科でまなんだこと」として、学んだことやできるようになったことが想起できるように記載されている。
教出	第3学年の巻頭に「生活科をふりかえろう」として、学んだことやできるようになったことが想起できるように記載されている。また、第3・4学年の巻頭に「他の教科とのかかわり」として国語・算数・理科・英語・道徳の学習内容が記載されている。
日文	第4学年の「けんこうなくらしを支える仕事」で、生活に使われる水の量を調べるために第5学年算数科で学ぶ体積（ m^3 ）の表し方や、第3学年「わたしたちのすんでいるところ」で、生活科での学習を想起させる会話を取り上げられている。第3学年で「安全マップ」を地域の人に発表する場面を設けている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第3学年「農家（工場）の仕事」の単元の終末「まとめる」で、学んだことを生かした宣伝シールをつくる活動や、第5学年下「わたしたちの生活と環境」の単元の終末「いかす」で、自然に対する2つのことなる立場から考えてまとめる活動等が記載されている。
教出	第3学年の「店ではたらく人と仕事」の単元の終末「まとめる」で、販売側と消費者側の双方の立場に立った資料を基にして話し合う活動や、第5学年「未来をつくりだす工業生産」の単元の終末「まとめる」で、順位付けをしてそれぞれの考えを説明する活動などが記載されている。
日文	第3学年の「店で働く人びとの仕事」で、スーパーの調べ学習のまとめにキャッチコピーを作る学習を「学び方・調べ方コーナー」で示し、調べて分かったことを自分の言葉でまとめさせる場面が設定されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第4学年「きょう土の伝統・文化と先人たち」の単元で、伝統芸能を年表にまとめることで、「時間の経過」について理解するとともに、古くから地域の人に親しまれながら受け継がれてきたということを理解する学習活動が取り上げられている。さらに、古いものを受け継ぎ、守っていくために自分たちにできることについて考える場面が設定されている。
教出	第4学年「地域でうけつがれてきたもの」の単元で、児童の興味関心を喚起する阿波踊りの迫力のある大きな写真が掲載されている。また、昔の阿波踊りの写真や阿波踊りに関する年表を掲載することで、「時間の経過」について理解するとともに、伝統文化がいかんして受け継がれてきたのかを示す資料構成になっている。さらに、古いものを受け継ぎ、守り伝えるために大切なことは何かを考える場面が設定されている。
日文	第4学年「くらしのなかに伝わる願い」の単元で、長崎くんちの様子を描いた屏風の写真が掲載され、「時間の経過」について理解するとともに、長崎くんちを後世に伝えていくために、長崎の様々な地域で取り組んでいる事例を紹介し、伝統芸能に対する姿勢や、思いを理解する構成になっている。さらに、「受けつぐ、広げる、もり上げる」をテーマに、キャラクターが話し合う場面が漫画で掲載されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第4学年「自然災害からくらしを守る」の単元の終末で、避難所を疑似体験して「共助」について考える「ひなん所シミュレーション」が設定されている。
教出	第3学年「わたしたちの市の歩み」の単元において、課題を追究する活動として市のうつりかわりを聞き取るインタビューが設定されている。
日文	全学年の巻頭に見開きで、「見学しよう」「やってみよう」等、児童の体験的な学習の様子が写真で示されている。また、全単元に「やってみようコーナー」が設けられ、地図帳で調べたり、作業したりする体験活動が設定されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第6学年の巻末で、「6年生で学んだこと」を単元別に写真も使用してまとめ、つぎに「中学校に向けて」で「歴史」「地理」「公民」に分けて写真も使用して示されている。さらに、中学校の社会科への期待について書く活動が取り入れられている。
教出	第6学年の巻末で、「6年生の学習をふり返ろう」で、学んだことを「政治・歴史・国際協力」ごとに「学んだこと」「考えたこと」「見方や考え方」に分けて記載されている。さらに、「中学生になったら…」で、中学校での「地理・歴史・公民」の学習の紹介が記載されている。
日文	「中学校の社会科では、どんなことを学ぶのかな。」として、中学校の社会科で学ぶ内容を「地理」「歴史」「公民」の三つの分野に分けて整理して記載されている。さらに、「学びたいことや、やってみたいこと」を、カードにまとめる活動例が記載されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	「学び方コーナー」で、第4学年「特色ある地域と人々の暮らし」の「四コマCMをつくろう」や、第5学年上「わたしたちの生活と食料生産」の「プレゼンテーションの資料をつくる」など、発達段階に応じた情報のまとめ方が示されている。
教出	第3学年の巻末「ワクワク！社会科ガイド」で、本やインターネットの調べ方やデジタルカメラの使い方について掲載している。また、「学びのてびき」で、第5学年「日本の国土とわたしたちの暮らし」の「インターネットでけんさくする」において、情報収集や発信元の信用性などについて掲載されている。
日文	「学び方・調べ方コーナー」で、第4学年「自然災害から人々を守る運動」の「インターネットの使い方」や、第5学年「情報社会に生きるわたしたち」の「インターネットでの調べ方」など、発達段階に沿った調べ方、表現の仕方が示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	見分けがしやすいように、挿絵や写真等の資料に番号をつけている。地図では、色の違いだけでなく、模様や形などで判別することが可能となっている。
教出	見分けがしやすいように、分布を示す地図資料において、色だけでなく形で判別することが可能となっている。また、帯グラフにおいて、見分けが付きやすい配色がなされている。
日文	見分けがしやすいように、分布を示す地図資料において、色だけでなく、模様や地図記号で判別することが可能となっている。
⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	全学年において「つかむ→調べる→まとめる→(いかす)」の単元構成になっており、学習の流れが分かりやすく示されている。巻頭に「○年生で学んだこと」「○年生で学ぶこと」、巻末に「○年生で学んだこと」が掲載されている。
教出	全学年において「つかむ→調べる→まとめる→つなげる」の単元構成になっており、学習の流れが分かりやすく示されている。巻頭に「生活科の学習をふり返ろう」「前の学年をふり返ろう」、巻末に「○年生の学習をふり返ろう」が掲載されている。
日文	単元の終末に「わたしたちの学びをいかそう」が設けられ、発展的な学習として児童が考えるきっかけになる資料が取り上げられている。資料から情報を得るため、いくつかの単元において、ページいっぱいの大きな一枚の写真が掲載されている。

⑩ 社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	第3学年「地図帳を使おう」や、第4学年「まなび方コーナー」の「地図帳を使ってみよう」において、地図帳のさくいんの使い方や距離の測り方などが取り上げられている。また、第5学年上「まなび方コーナー」の「地球儀の見方・使い方」において、距離や方位の調べ方が紹介されている。さらに、第5学年上「わたしたちの国土」の世界地図の学習では、大陸が色別に示されている。
教出	第3学年巻末「ワクワク！社会科ガイド」で「地図帳を使って調べよう」において、地図の見方やさくいんの使い方等について掲載されている。また、第5学年「学びのてびき」において、地球儀からさよりや方位を読み取る活動が掲載されている。さらに、第5学年「日本の国土とわたしたちの暮らし」で、世界地図と地球儀のちがいを読み取る活動が大きく取り上げられている。
日文	第3学年「学び方・調べ方コーナー」の「地図帳の使い方」において、地図帳のさくいんの使い方や地図の見方等について大きく取り上げられている。また、第5学年「学び方・調べ方コーナー」の「地球のすがたを知る」において、地球儀と地図のちがいや、方位と距離の調べ方等が大きく取り上げられている。さらに、第5学年の「日本の国土と人々の暮らし」で、地球儀や世界地図に慣れ親しむように、宇宙から見た地球の写真が取り上げられている。

⑪ 社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	第5学年下「わたしたちの暮らしと環境」の単元の終末で、さまざまな立場から鴨川をきれいにする取り組みについて掲載し、それぞれの立場で話し合う等、児童が多角的に考えられる題材が取り上げられている。また、「情報化した社会と産業の発展」で発信者側のそれぞれの立場で児童が多角的に考えられる題材を取り上げている。
教出	第5学年で、これからの日本の自動車生産について、少子高齢化などの社会に見られる課題を関連づけて、多角的に考える教材が掲載されている。また、「未来を考える食料生産」で、国内の食料生産を発展させていくために生産者・消費者の立場をもとに自分の考えをまとめる場面が設定されている。
日文	第3学年「市のようすと暮らしのうつりかわり」で、個人の意見をグループで共有しながら考えを深める様子が掲載されている。第5学年「私たちの食生活を支える食料生産」で、学習問題について異なる考えを発表し合い、多角的に考え話し合う場面が設定されている。

⑫ 学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	全学年において、児童だけでなく授業者にも問題解決的な学習を進めやすくなるように、「社会的事象の見方・考え方」を働かせた問いが、キャラクターを目印にした囲み（「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係（かかわり）」「比較・分類、総合、関連付けなど」で示されている。
教出	全学年の巻頭に「社会科の見方や考え方」のコーナーが設けられ、「社会的事象の見方・考え方」を、具体的な学習の場面を想定した、「場所や広がり」「時期や（時間の）変化」「くふうや関わる」「比べる」「関連づける」「総合する」などで示されている。
日文	全学年において、「見方・考え方コーナー」が設けられ、「空間」「時間」「関係」の3つの項目が、調べ、考えるための視点や方法として、マークで示されている。また、「社会的事象の見方・考え方」を働かせるための具体的なアドバイスが記載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。
教出	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。
日文	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、かつ各単元の内容は偏りなく配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	第3学年及び第4学年は各1冊、第5学年は上下巻で2冊、第6学年は政治・国際編と歴史編の2冊である。
教出	各学年とも、1冊である。
日文	各学年とも、1冊である。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「つかむ」「しらべる」「まとめる」単元の学習活動について、各活動ごとに、マークの形や色が統一されている。また、「読みやすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
教出	複数の資料を処理するのが困難な児童が資料を見分けやすいように、地図や写真などの資料には、カタカナで記号がつけられている。また、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
日文	読み取りやすくかつ注目しやすいように、学習活動の中心となる写真や絵などの資料を大きく掲載している。また、地図や写真などの資料に、見分けやすいように番号がつけられている。キャラクターが投げかける問いの吹き出しが複数掲載されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第6学年歴史編「日本遺産を調べよう」で日本遺産に認定されている鎌倉を調べる事例が掲載されている。第6学年政治・国際編「中国の伝統的な文化」で、春節について横浜の中華街でも「お祝いの行事が盛大に行われます。」と紹介されている。
教出	第3学年のすべての単元で、横浜市や横浜市内の農家・工場等が取り上げている。また、4年「水はどこから」で、神奈川県の水道や水源について取り上げられている。第6学年「政治のはたらきをまちの中からさがして考えよう」で、川崎市の踏切に代わる地下通路の整備の事例が掲載されている。
日文	第4学年「村の立て直しにつくす」で、二宮金次郎（尊徳）が、「地いきの発てんにつくした人びと」の選択教材として掲載されている。第5学年「電力を地産地消する取り組み」で、小田原市での太陽光発電について取り上げられている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			教出			日文		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有		有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)									
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年		6年	
						5年上	5年下	政治国際	歴史
東書	6			302	366	267	298	254	337
教出	4			346	437	508		553	
日文	4			323	382	539		542	

【資料Ⅰ】

教科種目名《社会(地図)》

※詳細については、資料Ⅱ(地図-3～地図-6)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい地図帳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「日本の貿易」において、地図上に、日本の主な貿易相手国の名称と位置、主な輸出品と輸入品が円グラフで示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「日本の歴史」において、日本と世界の関わりについて考えてみるような課題が設定されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、主体的な学習を進められるよう、キャラクターを随所に設定するとともに、学習を生活に生かせるよう、防災や環境保全などに関する題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、多様性や共生について学習できる題材として、「北海道地方」において、アイヌ語に由来する地名のコーナーが設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「地図のぼうげんに出発！」において、世界への興味・関心を高められるようなイラストを盛り込んだ世界地図が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「日本の自然災害」において、ハザードマップを例に自然災害に備えて自分たちの取りうる行動を確認する活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的に地図帳を活用する手立てとして、地図を読み取る手法に加え、児童の問題発見につながる問いを例示した吹き出しが設けられている。 □ 他教科との関連が図れるように、2020年オリンピック・パラリンピック会場を示した記号が設けられている。また、世界地図では国名が英語で表記されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、「日本の産業」において、地図資料から各地域の産業を比較したり関連付けたりして話し合うきっかけになる吹き出しが示されている。 □ 巻頭の「地図のぼうげんに出発！」において、世界各国・地域の伝統・文化や歴史的な建築物などへの関心を高められるようなイラストが掲載されている。 □ 地図帳を活用した活動例として、中国地方の高速道路を指でたどる活動や、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地を探す活動などが示されている。 □ 中学校での歴史学習への関心を高められるよう、「日本の歴史～世界とのかかわり」において、歴史年表や世界地図が掲載されている。 □ 地図帳を活用した情報活用能力の育成を図るために、地図や統計資料などを読み取り、都道府県の面積や農業生産額を調べる活動などが設定されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図における複雑な境界では、判別に配慮した色の塗分けを行っている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第3学年で地図のしくみがわかるよう、「まちを上からながめてみよう」→「真上から見ると地図になるよ」→「市をみわたしてみよう」が示されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「広く見る地図」「地方別に見る地図」「世界地図」「資料地図」や統計表・索引などが、適切に配置されている。 □ 統計のデータは最新のものが使用され、児童の関心を高められるよう、日本と世界の主な山や川の統計に加え、主な高い建物がイラストを含めて掲載されている。 □ 児童が自主的に学習に取り組めるよう、地図を読み取る技能を身に付けられるような問いを示した吹き出しが設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が、すべて掲載されている。また、日本の自然や自然災害、産業、貿易、歴史に関する資料・統計が取り上げられている。 □ A4判で、表紙・裏表紙とも耐水性のあるコーティングが施されている。また、折り込みページが取り入れられている。 □ 「広く見る地図」「○○地方」「資料地図」などは、インデックスが色分けされている。また、地名には太くて読みやすいフォントが使用されている。 		

【資料 I】

教科種目名 ≪ 社会(地図) ≫

※詳細については、資料Ⅱ(地図-3～地図-6)を参照

発行者の略称	帝国	書名	楽しく学ぶ 小学生の地図帳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「地図のやくそく(2)」において、地図記号を使う意味が図解され、地図記号の成り立ちの説明がイラストなどで示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、地図から必要な情報は何かを判断し、課題に答える「地図マスターへの道」が設定されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、発達の段階に応じた「広く見わたす地図」を設定するとともに、学習を生活に生かせるよう、防災に関する題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、多様性や共生について学習できる題材として、「手話で表す都道府県」において、都道府県名を手話で表現する活動が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「集まれ！世界の子どもたち」において、主な国の子どもたちのくらしのようすを示した写真と解説が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「日本の自然災害と防災」において、防災マップづくりの活動例をもとに、避難方法や避難経路を考える活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪ 教科・種目共通部分 ≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的に地図帳を活用する手立てとして、位置や空間的広がりなどの社会的な見方・考え方につながる問いに答える「地図マスターへの道」が設けられている。 □ 他教科との関連が図れるように、「音楽のぶたい」を示した記号が設けられている。また、世界地図では国名や首都名が英語で表記されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、「日本の自然のようす(2)」において、地図資料や雨温図をもとに根拠をもって話し合うきっかけになる吹き出しが示されている。 □ 奈良と京都の中心部を示した5万分の1図において、日本の伝統・文化や歴史的な建築物などへの関心を高められるような寺院や仏像などのイラストが掲載されている。 □ 地図帳を活用した活動例として、九州地方の新幹線の線路を指でたどる活動や、庄内平野で米づくりがさかんな理由を調べる活動などが示されている。 □ 中学校での地理学習へつながる知識・技能を習得できるよう、「陸の高さと地図」において、断面図をつかった等高線の読み取り方が掲載されている。 □ 地図帳を活用した情報活用能力の育成を図るために、北海道と沖縄県の面積を、地図を見比べたり統計資料で調べたりして比較する活動などが設定されている。 □ 学習上の困難さに関して、地図における果樹園・畑・田などは、色だけでなく地図記号の様相がある。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第3学年で地図のしくみがわかるよう、学校を「真横から」→「ななめ上から」→「真上から」見た写真を示し、続いて「学校のまわりの地図」が示されている。 <p>≪ 各教科・種目独自の観点 ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「広く見わたす地図」「都道府県を見る地図」「くわしく見る地図」「世界の地図」「資料図」や統計・索引などが、適切に配置されている。 □ 統計のデータは最新のものが使用され、児童の関心を高められるよう、日本の統計の項目に「ふるさと自慢」として各都道府県の農産物などが掲載されている。 □ 児童が自主的に学習に取り組めるよう、地図を読み取る技能を身に付けられるような「地図マスターへの道」や答えを直接書き込める「トライ！」が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 日本の各地方地図や世界の州を示す地図が、すべて掲載されている。また、日本の自然や自然災害、産業、貿易、歴史に関する資料・統計が取り上げられている。 □ 現行版(AB版)より縦に拡張したA4判で、表紙・裏表紙とも耐水性のあるコーティングが施されている。また、折り込みページが取り入れられている。 □ 「広く見わたす地図」「○○地方」「資料図」などは、インデックスが色分けされている。また、地名には太くて読みやすいフォントが使用されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《社会（地図）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「日本の貿易」において、地図上に、日本の主な貿易相手国の名称と位置を示し、さらに主な輸出品と輸入品を一度に読み取れるよう、円グラフで示されている。
帝国	「地図のやくそく(2)」において、地図記号を使う意味が図解され、さらに地図記号の成り立ちの説明がイラストなどで示されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「日本の歴史」において、地図に掲載されているイラストや矢印をもとに、日本と世界の関わりについて考えてみるような課題が設定されている。
帝国	地図から必要な情報は何かを判断し答える「地図マスターへの道」という課題が、設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	主体的な学習を進められるよう、キャラクターを随所に設定するとともに、よりよい社会を考え学習したことを社会生活にいかそうとする態度を養う事例として、防災や環境保全などに関する題材が設定されている。
帝国	発達の段階に応じた「広く見わたす地図」を設定するとともに、よりよい社会を考え学習したことを社会生活にいかそうとする態度を養う事例として、防災マップづくりに関する題材が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	多様性を認め合い、共生について学習できる題材として、「北海道地方」において、アイヌ語に由来する地名のコーナーが設けられている。
帝国	様々な立場や状況の人を認め合い、思いやる力を育む題材例として、「手話で表す都道府県」において、都道府県名を手話でどう表現するのかを調べ、表現する活動が「トライ！」で示されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	「地図のぼうげんに出発！」において、世界への興味・関心を高められるようなイラストを盛り込んだ世界地図が掲載されている。
帝国	「集まれ！世界の子どもたち」というコーナーが設けられ、主な国の主要データとともに世界の主な国の子どもたちのくらしのようすを示した解説と写真が掲載されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	「日本の自然災害」において、様々な災害について地図で位置関係を示したり、写真を掲載したりしている。また、ハザードマップを例に自然災害に備えて自分たちの取りうる行動について確認する活動が示されている。
帝国	「日本の自然災害と防災」において、過去の災害事例の対策や減災への取り組みを取り上げ、防災マップづくりや避難方法・避難経路を考える活動が示されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的に地図帳を活用する手立てとして、地図を読み取る手法に加え、児童の問題発見につながる問いを例示した「吹き出し」が設けられている。 「さくいん」の各地名にはチェック欄が設けられている。
帝国	主体的に地図帳を活用する手立てとして、位置や空間的広がりなどの社会的な見方・考え方につながる問いに答える「地図マスターへの道」及び「まとめのぬりつぶし」が設けられている。

② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	他教科との関連として、2020年オリンピック、パラリンピック会場(体育・総合)、国名の英語表記(外国語活動、外国語)、外国の料理や郷土料理(家庭科)などが取り上げられている。
帝国	他教科との関連として、「音楽のふたい」を示す記号(音楽)、過去のオリンピック・パラリンピックの開催地(体育)、国名や首都名の英語表記や外国から日本へ伝わった言葉(外国語活動、外国語)を取り上げられている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「日本の産業」において、各産業別の地図資料が並列して示され、各地域の産業を比較したり関連付けたりしながら話し合うきっかけになる吹き出しが示されている。
帝国	「日本の自然のようす(2)」において、夏と冬の気温と降水量の地図資料や雨温図が並列して示され、児童たちが根拠を示しながら話し合うきっかけになる吹き出しが示されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	巻頭の「地図のぼうげんに出発!」において、世界各国・地域の伝統・文化や歴史的な建築物などへの関心を高められるようなイラストが掲載されている。日本の世界遺産が写真付きで掲載され、さらに世界文化遺産と世界自然遺産が分けて掲載されている。また、昔の地名やその地方のお祭り、歴史的な名所が掲載されている。
帝国	奈良と京都の中心部を示した5万分の1図において、日本の伝統・文化や歴史的な建築物などへの関心を高められるような寺院や仏像などのイラストが掲載されている。日本の世界遺産が写真付きで掲載され、さらに年表も掲載されている。また、昔の都道府県の名前を示した地図やクイズが掲載されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	イラストによる吹き出しで、中国地方の高速道路を指でたどる活動や、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地を探す活動などが示されている。地図上の距離の測るための「ものさし」が、イラストで掲載されている。
帝国	「地図マスターへの道」において、九州地方の新幹線の線路を指でたどる活動や、庄内平野で米づくりがさかんな理由を調べる活動などが示されている。地図上の距離を測るための「ものさし」が、「広く見渡す地図」に掲載されている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	中学校での歴史学習への関心を高められるよう、「日本の歴史～世界とのかかわり」において、歴史年表や世界地図が掲載されている。様々な国々での時刻の違いや人々の生活の様子がイラストで示されている。
帝国	中学校での地理学習へつながる知識・技能を習得できるよう、「陸の高さと地図」において、断面図をつかった等高線の読み取り方が掲載されている。世界地図の中に、日本が午前9時のときに、世界の国々の人々が何時で何をしているか、イラストによる吹き出しで表現されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	地図や統計資料の活用を促すために、北海道の面積やじゃがいもの生産量などを調べるよう促す問いが吹き出しで掲載されている。地球儀を使った「方位」「距離」「大きさ、形」の調べ方がわかるように、2ページにわたって写真と解説が記載されている。
帝国	地図や統計資料の活用を促すために、沖縄県の面積と北海道を目で見比べて比較したり、「地図マスターへの道」において、北海道の面積は沖縄県のおよそ何倍かを統計資料を使って調べたりする活動が掲載されている。地球儀を使った「方位」「距離」「面積、形」の調べ方がわかるように、2ページにわたって写真と解説が記載されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	地図における複雑な境界では、判別に配慮した色の塗分けを行っている。「地図帳の使い方」において、この地図帳の地図記号の凡例がまとまって掲載されており、さらに、「さくいん」「方位」「縮尺」について2ページにわたってイラストや解説が記載されている。
帝国	地図における果樹園・畑・田などは、色だけでなく地図記号の様相がある。また、世界地図において、国の色分けを統一している。「地図のやくそく」「地図帳の使い方」において、「方位」「地図記号」「距離の求め方」「記号と色(凡例)」「さくいん」「縮尺」について10ページにわたってイラストや解説、問いである「トライ!」が記載されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	地図を初めて使う第3学年でわかりやすく地図のしくみが理解できるように、「まちを上からながめてみよう(鳥瞰図)」→「真上から見ると地図になるよ」→「市をみわたしてみよう(地図)」と、6ページにわたってイラストを使って順に示されている。
帝国	地図を初めて使う第3学年で地図のしくみが理解できるように、学校のまわりのようすを、「真横から見た学校」→「ななめ上から見た学校」→「真上から見た学校のまわり」→「学校のまわりの地図」と、2ページにわたって写真やイラストを使って順に示されている。

⑩ 一般図・拡大図・主題図・索引などは適切に配列されているか。	
東書	「広く見る地図」「地方別に見る地図」「世界地図」「資料地図」などの一般図・拡大図・主題図が、適切に配置されている。また、統計表や索引などが、適切に配置されている。
帝国	中学年に対応した「広く見わたす地図」や、「都道府県を見る地図」「くわしく見る地図」「世界の地図」「資料図」などの一般図・拡大図・主題図が、適切に配置されている。また、統計・索引などが、適切に配置されている。

⑪ 統計・各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達の段階に即したものが適切に取り上げられているか。	
東書	「日本の統計」の人口・面積において、2017年のデータが使用されているなど、最新のデータが使用されている。また、平成30年理科年表に基づいた数値が使用されている。日本と世界の主な山の高さ、川の長さ、湖や島の面積、さらに日本と世界の主な高い建物の高さが、児童にわかりやすいイラストで示されている。
帝国	「日本の統計」の人口・面積において、2017年のデータが使用されているなど、最新のデータが使用されている。また、平成30年理科年表に基づいた数値が使用されている。「日本の統計」の項目に、「ふるさと自慢」として、各都道府県の祭りや伝統芸能、農産物、料理、観光地、自然等を設け、さらに、主な農産物や工業製品の生産上位都道府県を示す帯グラフが掲載されている。

⑫ 児童が自主的に学習に取り組み、読み取る技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	児童が自主的に学習に取り組めるよう、中部地方で「標高3000m以上の高い山にしるしをつける」などの地図を読み取る技能を身に付けられるような問いを示した吹き出しが設けられている。
帝国	児童が自主的に学習に取り組めるよう、「中国地方で一番高い山は何mあるか」などの地図を読み取る技能を身に付けられるような「地図マスターへの道」が設けられている。また、方位や距離の測り方について問う「トライ！」に、答えを直接書き込める欄がある。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が、すべて掲載されている。また、日本の自然や自然災害、産業、貿易、歴史に関する資料・統計が取り上げられている。
帝国	日本の各地方地図や世界の州を示す地図が、すべて掲載されている。また、日本の自然や自然災害、産業、貿易、歴史に関する資料・統計が取り上げられている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	A4版で、表紙・裏表紙とも耐水性のあるコーティングが施されている。また、位置や空間的な広がりをとらえやすいよう、折り込みページが取り入れられている。
帝国	現行版地図帳(AB版)より縦に拡張したA4判を採用し、表紙・裏表紙とも耐水性のあるコーティングが施されている。また、位置や空間的な広がりをとらえやすいよう、折り込みページが取り入れられている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「広く見る地図」「○○地方」「資料地図」などは、インデックスが色分けされている。また、地名には太くて読みやすいフォントが使用されている。地名にはルビがつけられている。
帝国	「広く見わたす地図」「○○地方」「資料図」などは、インデックスが色分けされている。また、地名には太くて読みやすいフォントが使用されており、イラストと文字が重ならないように示されている。地名にはルビがつけられている。5万分の1図の地図は、地図帳の向きを変えなくても見ることができる。

【参考】

① ○題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	巻頭の「まちを上からながめてみよう」「真上から見ると地図になるよ」「市をみわたしてみよう」において、小田原市がモデルとして取り上げられている。 「日本の歴史と文化 日本の世界遺産」で、地図に鎌倉の鶴岡八幡宮がイラストで掲載されている。
帝国	「日本の産業の様子(2)」で「港に面した工業地域」として横浜市の写真が掲載されている。 「日本の歴史と世界文化遺産」で「3 鎌倉のようす」として鎌倉の地図と切通しの写真・説明が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書	帝国
	有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)	
発行者名	重量
東書	376
帝国	338

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪算数(算数)≫

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、知識や技能の定着の度合いを継続的に確認できるように、各単元末に「たしかめよう」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「今日の深い学び」や「算数マイノートを学習に生かそう」が設定され、課題解決の過程や説明の仕方等が掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習の振り返りとして、学習の価値付けや、次の学びに向かうような発言をする児童のイラストが随所に掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第5学年の「算数で読みとこう」では、日本を訪れる外国人の人数のデータが題材として設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「データの調べ方」では、学習のしあげとして、データを整理して、自分たちの生活を見直す例が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第2学年以降の「今日の深い学び」では、主体的に問題を捉え、対話を通して課題解決が図られるような活動例が設定されている。 □ 他教科との関連として、第4学年の「大きい数の区切り」では、英語での大きい数の表し方や大きい数のコンマの区切り方を学習する題材等が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降の「今日の深い学び」では、キャラクターになったつもりで、数・図・式を用いて考え方などを説明する場面が設定されている。 □ 伝統や文化に関して、第2学年では、体を使った長さの単位「あた・ひろ・つか」を用いて、昔のものの長さの調べ方が掲載されている。 □ 体験活動として、第1学年の「かたちあそび」では、具体物を用いたかたち作りを通して、算数を見だし、気付いたことを考えさせる場面が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、小学校での学習に慣れるためのサポートとなる別冊が設けられ、遊びの中で得た経験による学習が設定されている。 □ プログラミング教育の一環として、第6学年の「数の並べかえ方」では、プログラミングの体験ができる「プログラミングを体験しよう！」が設定されている。 □ 第2学年以降の「たしかめよう」では、問題解決の仕方が想起できる手引きが掲載され、以前学習したページに戻って学習を見直すことができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「おぼえているかな？」が設けられ、既習内容を復習するための問題や次の単元に関連した既習事項を確認することができる問題が設定されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第2学年以降の「今日の深い学び」では、数学的活動を通じた学習ができる「学習を深めよう」「使ってみよう」などが設定されている。 □ 第3学年以降では、数直線、表などで多様な考えを表現し、その考えをもとに対話を通じた課題解決が図られるよう「考える力をのばそう」が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、日常生活の問題をデータから読み取り、特徴を理解し、解決を図るよう、第4学年以降に「算数で読み解こう」が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめよう」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅうのもんだい」と「おもしろもんだいにチャレンジ」が設定されている。 □ 判型は、B5判(第1学年はA4判とB5判)で、第1学年は①、②の分冊、第2～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、合冊である。 □ 「視認性をいっそう高めた新開発のユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以降の巻末に前学年までの既習事項をまとめた「〇年までのまとめ」や補充問題「プラス・ワン」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した見方・考え方をメモする「ひらめきアイテム集」が設けられ、その後の学習に活用できるよう構成されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元の導入では、学校行事や遊びなど、日常生活場面から児童自身が課題や疑問を見出す題材が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、巻頭の「算数まなびナビ」などで他の児童の考えの良いところを見つける学習方法が取り上げられ、多様性を認め合う場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、外国にルーツをもつキャラクターと一緒に学習する仲間として設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年以降では、気象予報士や建築家など、算数を生かした仕事に就いた人々を紹介するコーナーが設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決学習の流れをイラストを用いて示した「算数まなびナビ」や「じっくり深く学び合おう！」が設けられている。 □ 他教科との関連として、棒グラフや折れ線グラフ等の指導時期を早め、理科や社会に対応できるよう構成されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降の「算数まなびナビ」では、話し合いながら学ぶための話し方、聞き方等が解説されている。 □ 伝統や文化に関して、第6学年では、メートル法以外の単位として尺貫法の「尺」「間」「坪」などが取り上げられている。 □ 体験活動として、第2学年の「かさのたんい」では、入れものに1Lとしかさだけ水を入れ、実際にはかかったかさと予想したかさを比べる活動などが設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第5、6学年巻末の「中学の数学ではこんなことを学ぶよ」が設けられ、算数と関連づけた数学の内容が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングにちょうせん！」が設定されている。 □ ページ端のタグにより問題解決の流れが示されている。また、単元末の「たしかめ問題」には、フィードバックマークが掲載され、自主学習ができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降では、毎時間ごとに「学習のめあて」が示されている。また「ふりかえろう」では、学習を振り返るために、感想を述べるための文頭例が掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、単元末の「算数たまたまばこ」では、学習内容を日常生活に生かしたりする活動を通して、知識及び技能の定着を図るよう構成されている。 □ 第2学年以降の「じっくり深く学び合おう」では、よく考えて話し合いながら学習できる課題が設けられ、図や式などを用いた多様な考えや話し合いの例が掲載されている。 □ 統計的な内容の充実として、グラフや表などの資料を正しく読み取る力を育むために、他者の考えが正しいかどうかを考察するような問いが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめ問題」が設けられている。また、巻末には、「プラス・ワン」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、全学年とも合冊である。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	学 園	書 名	みんなと学ぶ 小学校 算数
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元末の「できるようになったこと」「まなびをいかそう」や巻末の「ほじゅう問題」で学習内容を振り返る問題が設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第2学年以降の巻頭の「3つの学びの力をそだてよう」では、3つの力の具体例が掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習したことを生活や社会の中で生かしていく「生活にいかそう 深めよう」が設定されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第4学年の「2けたでわるわり算」の学習では外国のわり算の仕方が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第5学年の「生活にいかす 深めよう」では、データ分析の学習として、二酸化炭素の排出量を考える題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が課題に興味を持ち、考えていく中で生まれた疑問を「めあて」として、主体的に課題解決をしていくよう設定されている。 □ 他教科との関連として、第2学年では、生活科と関連した「そだてたいやさしい」で表とグラフを学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、課題解決した後に、その場面に応じた言語活動が行われるように「説明したいな」「話し合いたいな」「伝えたいな」などが設定されている。 □ 伝統や文化に関して、第3学年では、長さを比べる学習として、祭りで利用する綱や古墳のなどの長さが取り上げられている。 □ 体験活動として、第5学年の「正多角形と円」では、折り紙を折り、切って広げることでどんな形ができあがるかを考え、疑問を発見する活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第6学年では別冊「中学へのかけ橋」が設けられ、中学数学の例題が取り上げられている。 □ プログラミング教育の一環として、発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングの○」が設定されている。 □ 第3学年以降では、児童がつまづきやすい「倍の計算」が特設単元として設定され、さらに整数、小数、分数の乗除の学習が終わってから学習ができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元に、習熟を確認する適用問題として「確かめたいな」が設けられている。また、図や4マス関係表が設けられ、系統的に図の学習ができるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、単元の導入「?を発見」では、日常の中から算数の問題を見つけ、課題解決の中で知識・技能を身に付けていく活動が設定されている。 □ 各学年の「かつどう!!」「活動!!」「アクティブ!!」では、図・言葉・数・式・表・グラフなどを用いて、根拠を伝え合う活動が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、「整理単元」と「活用単元」に分け、グラフ等に整理するだけでなく、傾向を読み取り、改善点などを考えることができるよう構成されている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「できるようになったこと」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅう問題」が設定されている。 □ 判型は、A B判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、別冊がある。 □ 「誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、典型的な誤答に対して「考えるヒント」が示されたり、学年を越えて既習事項が確認できる「学びのマップ」が設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、他の児童のノートを参考にする「友だちのノートを見てみよう」や、学びを振り返る「なるほど!」が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第4学年以降では、学んだことを生かして探究的に取り組める「広がる算数」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、「友だちのノートを見てみよう」では児童同士でノートを見合う活動が設けられ、他者の考えのよさを認め合う場面が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、情報化の観点から、第6学年の「広がる算数」では、並べ方と組み合わせの発展で、安全なパスワードを考える題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年のたし算・ひき算の問題では、牛乳パック回収のリサイクル活動について取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示が示され、問いの連続による学習で構成されている。 □ 他教科との関連として、第3学年では、社会科と関連した「町たんけん」で時刻と時計を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降では、「算数で使いたい考え方」が設けられ、自分の考えを説明する際に使う言葉「はじめに」「なぜなら」などが掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、江戸時代の「塵劫記」が紹介され、第4学年では「油わけ算」、第6学年では「小町算」「俵杉算」の問題が取り上げられている。 □ 体験活動として、第2学年の「長さ」では、実際に手やゆびを用いて10cmの長さを作り、さらに10cmくらいのもを見つける活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第6学年では、「数学へのとびら」が設けられ、中学数学を体験できる問題が取り上げられている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「正多角形の作図」では、実際にプログラミングが体験できる「プログラミングにちょう戦しよう」が設けられている。 □ 第2学年以降の巻末「学びの手引き」では、コンパスや分度器、三角定規などによる作図の仕方について、作業の手順を示した連続した図や写真が掲載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 典型的な誤答に対して、「考えるヒント」が設けられ、着眼点や誤答例を示すことで、仕組みや計算の仕方を理解できるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、「算数を使って考えよう」では、身の回りから算数の問題を見出し、課題解決の中で知識や技能を身に付けていく活動が設定されている。 □ グラフで「いちばん」を伝えるために、円グラフや帯グラフを用いて、一番であるものを考え、さらにその考えをもとに気付いたことを話し合う題材が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、第5学年の「学んだことを使おう」では、身近な題材からデータを集め、分析し、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「まとめ」が設けられている。また、巻末には、「ステップアップ算数」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6学年は合冊である。 □ 「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	わくわく 算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以降の巻末には、単元ごとの基礎的事項を習熟度別に学習することができる「もっと練習」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各単元末の「学びのまとめ」では、学習したことを振り返り、学びを生活などに生かそうとする題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、話し合いの場面では、自他の考えを比較し、異なる意見を尊重したり、類似点を見つけたりする活動が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第5、6学年の「みらいへのつばさ」では、日本の食料自給率や国際協力に関する題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストなど様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元導入の「じゅんび」では、日常生活と関連を図った課題が設けられ、課題解決を通して理解を深めていくよう構成されている。 □ 他教科との関連として、第3学年では、社会と関連した「都道府県の人口」で一万を超える数を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降で「わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」が設けられ、自分の考えを分かりやすく説明する仕方が掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、第6学年では、平等院鳳凰堂など日本の歴史的建造物が図形の題材として取り上げられている。 □ 体験活動として、第4学年の「角とその大きさ」では、作成した扇を使って様々な角の大きさを作る活動が設けられている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、「わくわくすたあと」が設定され、算数と関連する幼児期の体験活動が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「算数ラボ」では、プログラミング的思考を育むような内容として、正多角形の作図のアルゴリズム体験が設定されている。 □ 「数と計算」の領域では、練習問題の第一問目に主問題に似た問題が取り上げられ、知識・技能が確実に身につくよう細かいステップが設定されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降では、単元の導入として「じゅんび」が設けられ、単元の学習に入る前に既習事項を確認することができるように構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第4学年の「垂直・平行のかき方」では、手順を細かく示した連続写真を参考にかきながら技能の定着が図られるよう設定されている。 □ 学びをいかそう「わくわく算数ひろば」では、身近な日常生活の題材を通して、図、数、式、表などを用いて、伝え合う活動が取り上げられている。 □ 統計的な内容の充実として、第3学年以降の巻末の「みらいへのつばさ」では、日常生活や社会問題の題材を取り上げ、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「学びのまとめ」が設けられている。また、巻末には、「もっと練習」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6年は合冊である。 □ 「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元末の「わかっているかな？」では、学習内容の確実な定着が図れるよう間違えやすい問題が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「算数ノートをつくろう」が設けられ、考えの過程や他者の考えなどを記述したノートが掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「ハロー！さんすう」「ハロー！算数」「Hello! Math」では、学んだことを生かそうとする題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、各学年とも、「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合うような場面が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第6学年の「場合の数」では、5カ国の子どもたちが手をつなぐときの並び方を考える題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年の「たし算やひき算」では、牛乳パックや空き缶を回収するリサイクル活動が題材として取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が考え、話し合い、答えを導き出すまでの学習展開が示された「自分で みんなで」が設定されている。 □ 他教科との関連として、第6学年では、家庭科と関連した「一汁三菜の献立を考えよう」で比や場合の数を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年とも、式や図などを互いに関連づけて説明する力を身に付けさせるための「算数ノートをつくろう」が掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、第3学年の「なるほど算数」では、「昔の九九」、第5学年では「和算」について掲載されている。 □ 体験活動として、第3学年の「ハロー！算数」では、1kmの道のりを歩くには何歩かかり、何分かかるかを予想し、実際に1kmを歩いて調べてみる活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、「さんすうのはじまり」が設けられ、積木遊びなど算数に関わる写真や挿絵が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「正多角形」では、コンピュータで正多角形をかくプログラムを考える題材が取り上げられている。 □ 各学年とも、「たしかめポイント」では、問題を解く際のポイントを想起させる手引きが掲載され、さらに学習したページに戻って見直すことができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降の「わかっているかな？」では、つまづきやすい問題が設けられ、注意点やヒントが掲載され、繰り返し問題に取り組めるように構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第4学年の「角と角度」では、「かたむき分度器」を用いて身の回りのいろいろな角度を測る活動が設定されている。 □ 第2学年以降の「数と計算」の領域では、表を用いて掛け算のきまりごとについて説明したり、計算の仕方を図や言葉をもとに話し合う場面が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、第5学年の「活用」では、いもの生産量と消費量のデータを分析し、傾向について考える題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめポイント」が設けられている。また、巻末には、「算数マイトライ」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は合冊である。 □ 「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《算数（算数）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	単元末の「たしかめよう」では理解や技能の定着の度合いの確認や、巻末の「ほじゅうのもんだい」では習熟に応じた問題が設けられ、理解を継続的に確認できるように構成されている。
大日本	第2学年以降の巻末に前学年までの既習事項をまとめた「〇年までのまとめ」や補充問題「プラス・ワン」で、知識・技能を繰り返し振り返ることができるように設定されている。
学図	単元末の「できるようになったこと」「まなびをいかそう」や巻末の「ほじゅう問題」で学習内容を振り返る問題が設けられている。
教出	典型的な誤答に対して「考えるヒント」が示されたり、学年を越えて既習事項が確認できる「学びのマップ」が設けられている。
啓林館	第2学年以降の巻末には、単元ごとの基礎的事項を習熟度別に学習することができる「もっと練習」が設定されている。また、既習事項をまとめた「〇年生のまとめ」が掲載されている。
日文	単元前に既習事項を確認できる「次の学習のために」が設けられ、また単元末の「わかっているかな？」では、学習内容の確実な定着が図れるよう間違えやすい問題が設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「今日の深い学び」や「算数マイノートを学習に生かそう」が設定され、課題解決の過程や説明の仕方等が掲載されている。
大日本	巻末には習得した見方・考え方をメモする「ひらめきアイテム集」のシートが設けられ、その後の学習に活用できるよう構成されている。
学図	第2学年以降の巻頭の「3つの学びの力をそだてよう」では、3つの力の具体例が掲載されたり、「算数で見つきたい考え方」を働かせている場面では、キャラクターによる解説が設定されている。
教出	他の児童のノートの長所を参考にする「友だちのノートを見てみよう」や、毎時間で学んだことを振り返ることができる「なるほど！」が設定されている。
啓林館	思考の助けとなる図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が設定されている。
日文	「算数ノートをつくらう」が設けられ、考えの過程や友達の考えなどを記述したノートが掲載されている。また、「つなげよう！学びとノート」が設けられ、学び方の4つのステップが掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	学習の振り返りとして、学習の価値付けや、次の学びに向かうような発言をする児童のイラストが随所に掲載されている。また、学んだことを生かす課題として「いかしてみよう」が設けられている。
大日本	単元の導入では、学校行事や遊びなど、日常生活場面から児童自身が課題や疑問を見出す題材が掲載されている。
学図	学習したことを生活や社会の中で生かしていく「生活にいかそう 深めよう」や、条件を変えて発展的に考える「ふりかえろう つなげよう」が設定されている。
教出	各学年とも、授業開きの題材として「算数が好きになる はじめの一步」が設けられている。また、第4学年以降では、学んだことを生かして探究的に取り組める「広がる算数」が設けられている。
啓林館	各単元末の「学びのまとめ」では、学びを深める3ステップで構成され、学習したことを振り返り、学びを生活などに生かそうとする題材が設定されている。
日文	「つなげる算数」や「ハロー！さんすう」「ハロー！算数」「Hello! Math」では、学んだことを生かそうとする題材が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。
大日本	巻頭の「算数まなびナビ」などで友だちの考えの良いところを見つける学習方法が取り上げられ、多様性を認め合う場面が掲載されている。
学図	第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されている。
教出	「友だちのノートを見てみよう」では児童同士でノートを見合う活動が設けられ、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」と問いかけ、他者の考えのよさを認め合う場面が設定されている。
啓林館	話し合いの場面では、自他の考えを比較し、異なる意見を尊重したり、類似点を見つけたりする活動が設定されている。
日文	各学年とも、教室での学習場面を示した「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合うような場面が設定されている。

② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の「算数で読みどころ」では、日本を訪れる外国人の人数のデータが題材とされたり、第6学年の「算数卒業旅行」では、9か国の筆算の仕方が紹介されている。
大日本	第3学年では、外国のおつりの渡し方、第4学年では英語の数字の数え方などを掲載されたり、外国にルーツをもつキャラクターと一緒に学習する仲間として設定されている。
学図	第4学年の「大きい数」では、世界各国の人口が題材として設けられ、「2けたでわるわり算の学習」では外国のわり算の仕方が掲載されている。
教出	第6学年の「広がる算数」では、並べ方と組み合わせを発展させた内容として、安全なパスワードを考える題材が設定されている。
啓林館	第5、6学年の「みらいへのつばさ」では、日本の食料自給率や国際協力など、今日的な課題に関する題材が設定されている。
日文	第6学年の「場合の数」では、5カ国の挨拶とともに、5カ国の子どもが手をつなぐ時の並び方を考える題材が設定されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第5学年の「帯グラフと円グラフ」や第6学年の「データの調べ方」では、学習のしあげとして、データを整理して、自分たちの生活を見直す例が掲載されている。
大日本	第3学年以降では、気象予報士や建築家、パティシエなど、算数を生かした仕事に就いた人々を紹介するコーナーが設けられている。
学図	第5学年の円グラフの読み取り方の学習では、小学生の将来なりたい職業が取り上げられている。また「生活にいかす 深めよう」では、データ分析の学習として、二酸化炭素の排出量を考える題材が設定されている。
教出	第3学年のたし算・ひき算の問題では、牛乳パック回収のリサイクル活動について取り上げられ、また第4学年の「算数を使って考えよう」では、エコ活動の3Rについて取り上げられている。
啓林館	第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストや古生物学者など様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されている。
日文	第3学年の「たし算やひき算」では、牛乳パックや空き缶を回収するリサイクル活動が題材として取り上げられている。また、第2学年では、空き缶拾いが問題の題材として設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「学びのとびら」や「今日の深い学び」では、深い学びにつながる学習過程を示し、主体的に問題を捉え、対話を通して課題解決が図られるような活動例が設定されている。
大日本	問題解決学習の流れをイラストや写真等を用いて示した「算数まなびナビ」や「じっくり深く学び合おう！」が設けられている。
学図	児童が興味を持ち、その課題を考えていく中で生まれた疑問を「めあて」として、主体的に課題解決をしていくよう設定されている。
教出	第2学年以降の「算数をはじめよう」では、学習の進め方が掲載されている。また、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示が示され、問いの連続による学習で構成されている。
啓林館	単元の導入場面の「じゅんぴ」では、日常生活と関連を図った課題が設けられ、児童自らが見通しや課題意識を持ち、課題解決をしながら理解を深めていくよう構成されている。
日文	各学年とも、児童が考え、話し合い、答えを導き出すまでの学習展開が示された「自分で みんなで」が設定されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	第4学年では、英語科と関連した「大きい数の区切り」で英語での大きい数の表し方が掲載されている。また、理科と関連した「天気と気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
大日本	「他教科リンクマーク」により他教科との関連がある学習を示し、棒グラフや折れ線グラフ等の指導時期を早め、理科や社会に対応できるよう構成されている。
学図	第4学年では、理科と関連した「月別気温」で折れ線グラフを早期に学習できるよう設定され、また第2学年では、生活科と関連した「そだてたいやさい」で表とグラフを学習する題材が設定されている。
教出	第3学年では、社会科と関連した「町たんけん」で時刻と時計を、また第4学年では、理科と関連した「気温調べ」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
啓林館	第3学年では、社会と関連した「都道府県の人口」で一万を超える数を、第4学年では、理科と関連した「気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
日文	第4学年では、理科と関連した「気温」で折れ線グラフと表を、第6学年では、家庭科と関連した「一汁三菜の献立を考えよう」で比や場合の数を学習する題材が設定されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「今日の深い学び」では、キャラクターになったつもりで、数・図・式を用いて考え方を説明したり、共通点を話し合う場面が設定されている。
大日本	第2学年以降の「算数まなびナビ」では、話し合いながら学ぶ方法や対話的学習のための話し方、聞き方が掲載されている。特に「数と計算」の領域では具体物と図、式を関連させて考えを説明する場面が設けられている。
学図	課題解決した後、その場面に応じた言語活動が行われるように「説明したいな」「話し合いしたいな」「表したいな」「伝えたいな」などの場面が設定されている。
教出	第2学年以降の巻頭では、「算数で使いたい考え方」が設けられ、自分の考えを説明する際に使う言葉「はじめに」「もしも」「なぜなら」などが掲載されている。
啓林館	第2学年以降の巻末では、「算数しりょう集 わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」が設けられ、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明する仕方や他者の考えを聞くポイントが掲載されている。
日文	各学年とも、言葉、数、式、図を互いに関連づけて説明する力が身につくように、ノート書き方を示した「算数ノートをつくらう」が掲載されている。また、第2学年以降では「よみとろう あらわそう」が設定されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第2学年では、体を使った長さの単位「あた・ひろ・つか」を用いて、昔のものの長さの調べ方が掲載されている。また、第6学年では、「算数卒業旅行」で江戸時代の算術や算額が取り上げられている。
大日本	第6学年では、江戸時代の和算の歴史や和算家、算額が紹介されている。また、メートル法以外の単位として尺貫法の「尺」「間」「坪」が取り上げられている。
学図	第4学年では、位置の表し方の学習として将棋が設けられている。また第3学年では、長さを比べる学習として、祭りで利用されている綱や古墳などが取り上げられている。
教出	第4、6学年では、江戸時代の算術書「塵劫記」が掲載され、第4学年では「油わけ算」、第6学年では「小町算」「俵杉算」の問題が取り上げられている。
啓林館	第2学年では、昔の長さの単位として「ひろ・あた・つか」が掲載されている。また、第5、6学年では、日本の歴史的建造物が計算や図形の題材として取り上げられている。
日文	第3学年の「なるほど算数」では、「昔の九九」、第5学年では「和算」について掲載されている。また、第6学年での「活用」では、和食の献立を考える題材が取り上げられている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第1学年の「かたちあそび」では、複数の具体物を用い、様々なかたちを作る体験活動を通して、算数を見だし、気付いたことを考えさせる場面が設定されている。
大日本	第2学年の「かさのたんい」では、いろいろな入れものに、1Lと思うかさだけ水を入れ、実際にはかったかさと予想したかさを比べるなどの体験活動が設定されている。
学図	第5学年の「正多角形と円」では、折り紙を折り、切って広げることでどんな形ができあがるかを考え、疑問を発見する体験活動が設定されている。
教出	第2学年の「長さ」では、実際に手やゆびを用いて10cmの長さを作り、さらに10cmくらいのもを見つける体験活動が設定されている。また、第6学年の切り紙遊びを通して、図形の対称性を学ぶ体験活動が設けられている。
啓林館	第4学年の「角とその大きさ」では、作成した扇を使って様々な角の大きさを作る体験活動が設けられている。また、第5学年の「合同な図形」では、巻末の付録を用いて合同な図形を探す体験活動が設定されている。
日文	第3学年の「ハロー！算数」では、1kmの道のりを歩くには何歩かかり、何分かかかるかを予想し、実際に1kmを歩いて調べてみる体験活動が設定されている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第1学年では、小学校での学習に慣れるためのサポートとなる別冊が設けられ、遊びの中で得た経験による学習が設定されている。また、第6学年では「中学校体験入学コース」が設けられ、数学が学べるよう設定されている。
大日本	第1学年では、巻頭に3つの「さんすうのまなびかた」が示され、第5、6学年巻末の「中学の数学ではこんなことを学ぼう」では、算数と関連づけた数学の内容が掲載されている。
学図	第1学年では、生活経験の中で自然と触れ合う場面が大きな絵で掲載されている。また第6学年では、別冊「中学へのかけ橋」では、中学数学の例題が取り上げられている。
教出	第1学年では、数を数えたり、形を見つけたりする絵が掲載されている。また第6学年では、中学校の数学を体験してみる「数学へのとびら」が設けられている。
啓林館	第1学年では、「わくわくすたあと」が設定され、算数の学習につながっている幼児期の体験活動が掲載されている。また、第6学年の巻末では、中学で学ぶ数学の簡単な紹介が掲載されている。
日文	第1学年では、「さんすうのはじまり」が設けられ、積木遊びなど算数に関わる様々な生活場面の写真や挿絵が掲載されている。第6学年では、「もうすぐ中学生」が設けられ、中学数学の内容が取り上げられている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第5学年では「倍数の求め方」「正多角形の作図」、第6学年では「数の並べかえ方」において、実際にプログラミングの体験ができる「プログラミングを体験しよう！」が設定されている。
大日本	発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングにちょうせん！」が設定されている。
学図	発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングの○」が設定されている。
教出	第5学年の「正多角形の作図」では、実際にプログラミングが体験できる「プログラミングにちょうせんしよう」が設けられている。
啓林館	第5学年の「算数ラボ」では、プログラミング的思考を育むような内容として、正多角形の作図のアルゴリズム体験が設定されている。
日文	第5学年「正多角形」で、コンパスを使って作図する学習に続けて、コンピュータで正多角形をかくプログラムを考える題材が取り上げられている。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「たしかめよう」では、問題に対して解決の仕方が想起できる手引きが掲載され、学習したページに戻って学習を見直すことができるよう構成されている。
大日本	ページ端のタグにより問題解決の流れが示されている。また、単元末の「たしかめ問題」には、フィードバックマークが掲載され、自主学習ができるよう構成されている。
学図	第3学年以降では、児童がつまづきやすい「倍の計算」が特設単元として設定され、さらに整数、小数、分数の乗除の学習が終わってから学習ができるよう構成されている。
教出	第2学年以降の巻末「学びの手引き」では、コンパスや分度器、三角定規などによる作図の仕方について、作業の手順を示した連続した図や写真が掲載されている。
啓林館	「数と計算」の領域では、練習問題の第一問目に主問題に似た問題が取り上げられ、知識・技能が確実に身につくよう細かいステップが設定されている。
日文	各学年とも、「たしかめポイント」では、問題を解く際のポイントを想起させる手引きが掲載され、さらに学習したページに戻って見直すことができるよう構成されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	「おぼえているかな？」が設けられ、既習内容を復習するための問題や次の単元に関連した既習事項を確認することができる問題が設定されている。
大日本	第2学年以降では、学習することが明確になるように毎時間ごとに「学習のめあて」が示されている。また「ふりかえろう」では、学習を振り返るために、学習の感想を述べるための文頭例が掲載されている。
学図	各単元に、習熟の度合いを確認する適用問題として「確かめたいな」が設けられている。また、問題文から式を立てる際に、図や4マス関係表が設けられ、系統的に図の学習ができるよう構成されている。
教出	典型的な誤答に対して、「考えるヒント」が設けられ、着眼点や誤答例を示すことで、仕組みや計算の仕方を理解できるように構成されている。
啓林館	第2学年以降では、単元の導入として「じゅんぴ」が設けられ、単元の学習に入る前に既習事項を確認することができるように構成されている。
日文	第2学年以降の「わかっているかな？」では、つまづきやすい問題が設けられ、注意点やヒントが掲載され、繰り返し問題に取り組めるように構成されている。

⑩ 数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか	
東書	第2学年以降の「今日の深い学び」では、数学的活動を通して学習ができる「学習を深めよう」「まとめよう」「使ってみよう」が設けられ、知識及び技能の定着を図る問いが設定されている。
大日本	単元末の「算数たまてばこ」では、日常生活から算数を見つけたり、学習内容を日常生活に生かしたりする活動を通して、知識及び技能の定着を図るよう構成されている。
学図	単元の導入「？を発見」では、日常生活の中から算数の問題を見つけ、課題解決の中で必要となる知識・技能を身に付けていく活動が設定されている。
教出	「算数を使って考えよう」では、身近な題材から算数の問題を見だし、既習事項を生かした課題解決を通して、知識及び技能の定着を図られるよう設定されている。
啓林館	第2学年の「直線のかき方」や第4学年の「垂直・平行のかき方」では、手順を細かく示した連続写真を参考にかきながら技能の定着を図られるよう設定されている。
日文	第4学年の「角の大きさをはかるう」では、「かたむき分度器」を用いて身の回りのいろいろな角度を測る活動を通して知識及び技能の定着を図られるよう設定されている。

⑪ 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか	
東書	第3学年以降では、数直線、表などで多様な考えを表現し、その考えをもとに対話を通じた課題解決が図られるよう「考える力をのばそう」が設定されている。
大日本	第2学年以降の「じっくり深く学び合おう」では、よく考えて話し合いながら学習できる課題が設けられ、図や式などを用いた多様な考えや話し合いの例が掲載されている。
学図	各学年の「かつどう！！」「活動！！」「アクティブ！！」では、図・言葉・数・式・表・グラフなどを用いて、根拠を伝え合う活動が設定されている。
教出	グラフで「いちばん」を伝えるために、円グラフや帯グラフを用いて、一番であるものを考え、さらにその考えをもとに気付いたことを話し合う題材が設定されている。
啓林館	学びをいかそう「わくわく算数ひろば」では、身近な日常生活の題材を通して、図、数、式、表などを用いて、伝え合う活動が取り上げられている。
日文	第2学年以降の「数と計算」の領域では、表を用いて掛け算のきまりごとについて説明したり、計算の仕方を図や言葉をもとに話し合う場面が設定されている。

⑫	目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか	
東書	第4学年以降では、「算数で読み解こう」が設けられ、日常生活や社会の問題をデータから読み取り、特徴を理解し、解決を図るよう、第4学年以降に「算数で読み解こう」が設定されている。	
大日本	各学年とも、単元の導入時に統計的な問題として見いだす場面が設けられている。また、グラフや表などの資料を正しく読み取る力を育むために、他者の考えが正しいかどうかを考察するような問いが設定されている。	
学図	統計的な学習として、「整理単元」と「活用単元」に分け、表やグラフに整理することだけでなく、分析して傾向を読み取り、予測や改善点を考えることができるよう構成されている。	
教出	第5学年の「学んだことを使おう」や「算数を使って考えよう」では、身近な題材からデータを集め、分析し、表やグラフで伝えるなど、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。	
啓林館	第3学年以降の巻末の「みらいへのつばさ」では、日常生活や社会問題の題材を取り上げ、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。	
日文	第5学年の「活用」では、いもの生産量と消費量のデータ分析や、第6学年では、100m走のデータをもとにリレーについて考える題材が設定されている。	

4 分量・装丁・表記等

①	○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	補充や発展問題として、単元末に「たしかめよう」と「つないでいこう」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅうのもんだい」と「おもしろもんだいにチャレンジ」が設定されている。	
大日本	補充や発展問題として、単元末に「たしかめ問題」が設けられている。また、巻末には、「プラス・ワン」が設定されている。	
学図	補充や発展問題として、単元末に「できるようになったこと」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅう問題」が設定されている。	
教出	補充や発展問題として、単元末に「まとめ」が設けられている。また、巻末には、「ステップアップ算数」が設定されている。	
啓林館	補充や発展問題として、単元末に「学びのまとめ」が設けられている。また、巻末には、「もっと練習」が設定されている。	
日文	補充や発展問題として、単元末に「たしかめポイント」が設けられている。また、巻末には、「算数マイトライ」の中に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」が設定されている。	

②	○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	判型は、B5判（第1学年はA4判とB5判）で、第1学年は①、②の分冊、第2～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、合冊である。	
大日本	判型は、B5判で、全学年とも合冊である。	
学図	判型は、A4判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、別冊がある。	
教出	判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6学年は合冊である。	
啓林館	判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6年は合冊である。	
日文	判型は、B5判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は合冊である。	

③	○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」「視認性をいっそう高めた新開発のユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。」と記載されている。	
大日本	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。	
学図	「誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。」と記載されている。	
教出	「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。	
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」「個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色、デザインを用いました。」と記載されている。	
日文	「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。	

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	神奈川県に関連することとして、比例の単元において、東海道新幹線の新横浜駅からの乗車時間と進んだ道のりの関係を考える問題が設定されている。
大日本	神奈川県に関連することとして、反比例の単元において、水族館の水槽の水の量と時間の関係を考える問題の資料として、新江ノ島水族館の写真が掲載されている。
学図	神奈川県に関連することとして、概数の単元において、動物園に行く際にかかる費用の見積もりを考える問題の資料として、よこはま動物園ズーラシアの写真が掲載されている。
教出	神奈川県に関連することとして、拡大図と縮図の単元において、横浜市の地図をもとに面積を求める問題の資料として、横浜市の縮図が掲載されている。
啓林館	神奈川県に関連することとして、割合のグラフの単元において、データの読み取り問題の資料として、神奈川県が全国第5位であるキャベツの都道府県別収穫量の円グラフ等が掲載されている。
日文	神奈川県に関連することとして、単位あたりの大きさの単元において、人口密度を求める問題の資料として、神奈川県の人口と面積の値が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無													
	総冊数	1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5年上	5年下	6年上	6年下
東書	11	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
大日本	6	有		有		有		有		有		有	
学図	12	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
教出	9	有		有	無	有	無	有	無	有		有	
啓林館	9	有		有	有	有	有	有	有	有		有	
日文	11	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	

③ 一冊ごとの重量 (g)													
	総冊数	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5年上	5年下	6年上	6年下
東書	11	148	236	245	225	282	251	277	288	273	264	469	
大日本	6	301		404		432		467		471		437	
学図	12	236	202	303	294	295	330	341	331	341	370	482	114
教出	9	307		256	249	261	242	297	278	499		445	
啓林館	9	293		259	267	272	246	292	240	488		479	
日文	11	186	170	273	231	285	237	290	275	272	288	471	

※東書（東京書籍）の「1年①」を「1年上」、「1年②」を「1年下」として表記しています。
 ※学図（学校図書）の「6年」を「6年上」、「6年別冊」を「6年下」として表記しています。

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習の前と後で自分がどのように変わったかがわかるコーナーとして、「学ぶ前の私」「学んだ後の私」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方が例示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「まとめ」の後に「次の問題を見つけよう」が設けられえている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「かんきょうマーク」が表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「学びを生かして深めよう」では、SDGsが取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「あんなところに理科!こんなところにも理科!」では、職業とのつながりについて掲載されている。 		
3 内容と構成	<p><<教科・種目共通部分>></p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「レベルアップ理科の力」では、他の児童の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の例が示されている。 □ 各学年の巻末に、「算数科で学んだことを活用しよう」が設定されている。また、「学んだことを使おう」では、他学年の学習やくらし等とのつながりが示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、題材の冒頭に、対話を通して思考を広げたり深めたりしていく様子がイラストや写真で例示されている。 □ 伝統文化に関して、第5学年では、「夕焼け空は明日晴れ」という日本の昔から伝わることわざが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、単元の冒頭で、遊びやマンガの読み物を通して体験活動を促す場面が設定されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、巻末の「何がわかったかな」で、第6学年で学んだ内容に合わせて「中学校1年で学習すること」が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気と私たちのくらし」の単元の中で、「プログラミングをやってみよう」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、巻末にこれまで学習した器具等の使い方が順序立てて示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の冒頭の「レッツスタート!」ではこれから学ぶ内容が示されている。また、問題解決のプロセスが紙面の端に「学びのライン」として示されている。 <p><<各教科・種目独自の観点>></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方が単元内に示されている。また、巻末の器具の使い方や理科室の使い方は、発達の段階に応じた内容が示されている。 □ 巻頭の「理科の学び方」や、単元内の「レベルアップ理科の力」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が示されている。 □ 単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。一定時間内に指導できる分量で、時数にゆとりをもって設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第6学年では、巻末に人体模型の工作の付録がある。 □ 判型はA4であり、写真、図、文章等が大きく記載されている。各単元の導入のページでは、本文のすべての漢字にルビが施されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習問題について「わかったこと」や「結論」に、内容の説明と結論とが区別して示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、問題解決のプロセスの中で、各学年で重点をおいて育成すべき問題解決の力が★マークを使って示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元末に学習した内容と身近な生活とのかかわりを考える「学んだことを生かそう」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第6学年の「生物と地球環境」など、持続可能な社会に関連する場面では「ESD」マークが表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、英語マークを活用し、海外や地球規模の情報・資料など国際理解を深める内容が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「理科のたまてばこ」では、「理科としごと」マークが設定されており、理科に関係する職業の話題が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決の場面では、他の児童の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の例が示されている。 □ 第4学年では、「算数で学ぶこと」で、折れ線グラフの表し方や読み方について示されている。第3学年では、「生活科とのつながり」でおもちゃづくりが示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、学習問題を見つける場面や、「考えよう」「考察」の場面では、キャラクターによる対話の例が示されている。 □ 伝統文化に関して、「伝統マーク」が設定されている。第6学年では、「りかのたまてばこ」で昔からの鉄づくりが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第6学年では、巻末に「科学館・博物館に行ってみよう」のコーナーが設けられている。また、各学年の裏表紙にはジオパークが掲載されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、巻末の「中学生になったら…」で、中学校第1学年で学習する内容が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「私たちの生活と電気」の単元の中で、「プログラミングを体験してみよう！」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、すべての児童にとって学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスが示されている。また、ページの上端に問題解決のプロセスが色分けして示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方は、巻末に掲載されており、実験のページには巻末のページに導くページ数が書かれている。 □ 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスの中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が★マークとともに示されている。 □ 学習問題とは別の自然の事物や現象にあてはめることで、学んだことを生かす場面が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。第5学年では「災害に備えようブック」など、各学年の巻末に学習内容に応じた付録がある。 □ 「問題」や「わかったこと」「結論」部分等は、それぞれ色が塗られている。写真や図版は角丸で切られている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	学号	書名	みんなと学ぶ小学校理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学びを振り返り、自分の成長をわかるよう、単元の冒頭の「調べていこう」、単元末の「できるようになった」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「問題を見つける」「計画を立てる」「学びをつなげる」などのマークを使って示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、生命尊重などを意識した箇所にはハートマークが示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、各学年で自然保護や生物愛護等に関する場面では、マークが表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「やってみよう！持続可能な社会をつくるために」では、自分たちの行動に取り入れたい工夫が例示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「科学者の伝記を読もう」では、科学者の写真や偉業が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスにおいて、問題を見つける場面では、「話し合い」が設けられている。 □ 第3学年では、生活科と関連した「風車で遊ぶ」という題材が設定されている。各学年の巻末では、次の学年で学習する内容の一部が掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年の巻末に、「伝える・聞く」のページが設けられており、予想したことや考えを伝えたり、聞いたりする例が示されている。 □ 伝統文化に関して、「文化・歴史」マークが設定されている。第6学年では、蘭学者が取り上げられている。また、第5学年では、天気のことわざが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第5学年では、「やってみよう！」で、たい児の成長の様子をグラフで表したり、体重を身近なものの重さに例えたりする活動が掲載されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年でこれまで学習したことを簡潔にまとめ、中学校への円滑な接続ができるよう設定されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気と私たちの生活」の単元の中で、プログラムやセンサーを利用して、LEDを点滅させるプログラムについて例示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、実験での試薬の色の変化などは、色の写真とともに色名が書かれている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 問題解決の過程がページの端にバーで示され、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。観察、実験の結果からわかったことと解説が分けて示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 巻末の実験器具の扱い方では、スモールステップに分け、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。 □ 巻頭の「科学の芽を育てよう」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が色付きで示されている。各ページの下には、問題解決の場面がマークで示されている。 □ 生活とのつながりや学びの活用について、多様な資料が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。科学者について掲載されている。 □ 巻末の「考えよう調べよう」では、理科の学習で大切な事柄について示されている。「できるだけ多くの人に見やすいよう配慮して作成しました」と記載されている。 □ 単元の導入ページでは、見開き一枚の大きな写真が掲載されている。単元名や大事な言葉は、フォントを変えたり太字にしたりして示されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	教出	書名	未来をひらく小学理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習問題について、学習した基本的な知識が「結論」として色付き枠で示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、比較により違いを見出し、問題を設定できるような教員の発問や、それに対する児童の考えが例示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元末に、日常生活と学習内容を関連させる「広がる学び」や「科学のまど」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、飼育や栽培を扱う場面には、「地球となかよしマーク」を表示している。第6学年の巻末には「かんきょうミニずかん」が設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年巻末の「科学の研究者たち」では、世界の科学者とその偉業が紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「資料」では、理科に関係する職業の話題が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、キャラクターの主人公が他の児童と関わり合いながら学んでいく対話の例が示されている。 □ 各学年の巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、国語科での学習を活用する例が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第6学年では、「予想しよう計画しよう」で、キャラクターによる気づいたことの話し合いの様子が例示されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年では、日本の祭りが紹介されている。また、第4学年の「しりょう」では、中秋の名月について取り上げられている。 □ 体験活動に関して、各学年とも、児童の直接体験を重視し、観察や体験的な活動が取り上げられている。 □ 中学校への接続に関して、各学年とも、単元の冒頭の「学習のつながり」で、小学校の他学年や中学校との学習内容のつながりが示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気の利用」の単元の中で、「プログラムを作成して、コンピュータに命令をだしてみよう」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、問題解決の過程の各ステップにマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭「学習の進め方」が設けられており、問題解決の順序が示されている。また、「ノートの取り方」では、「学習の進め方」に対応した例示が示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、注意点等が、児童の発達段階に応じた内容で、それぞれの単元内に示されている。 □ 単元の中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について、児童と教員のキャラクターが対話を通して例示している。 □ 子どものキャラクターを通して、多様な「見方」を働かせ、また、教員のキャラクターの問いかけにより、多様な「考え方」を引き出す様子が例示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 □ 各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。また、「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 □ 「問題」や「結論」の部分には、それぞれ色が塗られ強調されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	信教	書名	楽しい理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、直接体験できない内容については、モデル実験が示されている。また、観察におけるスケッチのポイントが示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「考えてみよう」では、互いの予想や考えを練り合う場面が設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の育成に関して、児童が自ら発展的に学習を進めていく「はってん」が設けられ、発展的な内容を学習する校種や学年が示されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第6学年では、里山の自然を守る資料の中で、人里に出てきた動物との共生についての取組が取り上げられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「しりょう」では、地域の環境の保全に関する取組が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「身近な植物や動物の様子」では、信州地域にみられる動植物の写真が複数掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童のキャラクターによる話し合い活動を通して、気づきや感想を出し合う学習場面の例が示されている。 □ 第3学年の音のせいしつでは、音楽科と関連した木琴や太鼓などの楽器を演奏する写真が複数掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第5学年では、人の誕生について、調べたことをクラスで発表する例が示されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年では、天明3年の浅間山噴火の写生図が掲載されている。また、第3学年では、日がさやよしずが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第6学年では、単元で学んだことを生かしたものづくりが例示されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、「はってん」の中で、中学校で扱う学年や内容が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、コンピュータを用いてプログラミングを扱う単元が設けられている。人がいる時だけ明かりがつく装置を作る例が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭に「理科の学習の進め方」が設けられており、問題解決の進め方や、教科書にでてくるマークについての説明が示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、「やってみよう自由研究」の小単元が設けられており、発達の段階に応じて、問題解決の手順や結果を記録する方法などが示されている。 □ 各学年とも、巻頭の「理科の学習の進め方」では、問題解決のプロセスに、各学年で主に育成を目指す問題解決の力や、主に働かせる見方・考え方が例示されている。 □ 第5学年のふりこの運動では、ふりこの観察から、ふりこの動きを決める条件を見つけ、条件を制御しながら問題を解決する実験が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 □ 目次に「器具などの使い方」としてその学年で主に扱う器具とページが示されている。「カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています」と記載されている。 □ 数種類のマークを使い、学習内容や注意事項が示されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	わくわく理科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関連して、単元末の「まとめノート」の例示を通して学習を振り返る場面が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関連して、問題解決の過程の問題発見の場面、予想や計画の場面、考察の場面では、話し合い活動が設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関連して、単元末に「もっと知りたい」や「活用しよう」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、「理科の広場」では、E S Dの視点から持続可能な社会をつくることについて考える内容が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、各学年の巻末には、I C T機器を活用した調べ方や利用場面が紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第4～6学年では、「くらしページ」が設けられ、くらしと防災や自然からの恵みについて掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、児童のキャラクターによる対話を通して学んでいく様子が例示されている。 □ 中学校マークや他教科関連マークが設定されている。各学年とも、巻末に「算数のまど」が設けられ、算数科との関連が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年の巻末の「話し合いのしかた」では、話し合いのルールやポイントが示されている。 □ 伝統文化に関して、自然や人々の生活に関する昔からの知恵や工夫の紹介が取り上げられている。第6学年では、地震を語りつぐ「稲村の火」が掲載されている。 □ 体験活動に関して、各学年とも、単元の導入では、児童が身近に感じるものに着目させたり、遊んだりする内容を紹介する活動の場面が設けられている。 □ 中学校への接続に関して、「理科の広場」では、中学校マークが設けられ、中学校で学習する内容が取り上げられている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「プログラミングを体験しよう」が設けられている。巻末のプログラミング用シートとシールを使った学習例が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、巻末だけでなく、単元の中にも使用する器具の使い方が示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で、問題解決のプロセスや、教科書で使われているマークについての説明が示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 器具の使い方について、該当する単元だけでなく、巻末にもまとめている。器具の扱い方を振り返り、技能を身に付けられるようにしている。 □ 各学年とも、巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」では、科学者が具体例を交えながら、その学年で主に育てたい問題解決の力が示されている。 □ 各学年とも、「理科の考え方をはたらかせよう」や、「理科をふり返ろう」が設けられ、理科の見方や考え方が例示されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第3学年と第5学年の巻末には、取り外して野外で使える付録がある。 □ 「注意」を表すマークとして、「かん気」や「強い光」など数種類の具体的なマークが設けられている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《理科（理科）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得を図るために、学習の前後で自分がどのように変わったかがわかるコーナーとして、第5学年と第6学年では、「学ぶ前の私」「学んだ後の私」が設定されている。また、器具の使い方等が巻末にまとめて掲載されている。
大日本	「知識・技能」の習得を図るために、学習問題について、「わかったこと」や「結論」に、内容の説明と結論とが区別して示されている。また、「使い方を覚えよう」では、器具の使い方が巻末にまとめて掲載されている。
学図	「知識・技能」の習得を図るために、学びを振り返り、自分の成長をわかるよう、単元の冒頭の「調べていこう」、単元末の「できるようになった」が設定されている。また、各学年で、道具の使い方が巻末にまとめて掲載されている。
教出	「知識・技能」の習得を図るために、学習問題について、学習した基本的な知識が「結論」として色付き枠で示されている。また、初めて器具を使用する場面では、器具の使い方が示されている。
信教	「知識・技能」の習得を図るために、直接体験できない内容については、モデル実験が示されている。
啓林館	「知識・技能」の習得を図るために、単元末の「まとめノート」の例示を通して学習を振り返る場面が設定されている。各学年とも、巻末に「器具の使い方」が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。
大日本	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、問題解決のプロセスの中で、各学年で重点をおいて育成すべき問題解決の力が、★マークを使って示されている。
学図	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、「問題を見つける」「計画を立てる」「学びをつなげる」などのマークを使って示されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、比較により違いを見出し、問題を設定できるような教員の発問や、それに対する児童の考えが例示されている。
信教	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、「考えてみよう」では、互いの予想や考えを練り合う場面が設けられている。理科の用語や図・グラフ・表などを取り入れた学習のまとめ方が例示されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、問題解決のプロセスにおける、問題発見の場面、予想や計画の場面、考察の場面では、話し合い活動が設けられている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、「まとめ」の後に「次の問題を見つけよう」が設けられている。「考察しよう」では、自分の考えを振り返り、まとめるプロセスが示されている。
大日本	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に、学習した内容と身近な生活とのかかわりを考える「学んだことを生かそう」が設けられている。また、生き物の観察、実験についての注意事項を示す「かんきょう」マークが設定されている。
学図	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末の振り返りの場面には「できるようになった」が設けられている。また、生命尊重などを意識した箇所にはハートマークが示されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に、日常生活と学習内容を関連させる「広がる学び」や「科学のまど」が設けられている。
信教	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、児童が自ら発展的に学習を進める「はってん」が設けられ、発展の内容を学習する校種、や学年が示されている。
啓林館	「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に「もっと知りたい」や「活用しよう」が設けられている。また、「自然を大切に」の環境マークが設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「かんきょうマーク」が表示されている。観察、実験、栽培、飼育などで扱った動植物について、実験後も大切に育てていくこと等が記されている。
大日本	「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「環境」マークが表示されている。また、第6学年の「生物と地球環境」など、持続可能な社会に関連する場面では「ESD」マークが表示されている。
学図	「思いやる力」に関連して、各学年で自然保護や生物愛護等に関する場面では、マークが表示されている。また、第3学年の巻末では、野外の危険な生物に対する注意を促すとともに、生き物の立場から考える文章が掲載されている。
教出	「思いやる力」に関連して、飼育や栽培を扱う場面には、「地球となかよしマーク」を表示している。学習や観察後の生き物の扱いについて例示し、生命尊重に関連させている。また、第6学年の巻末には、「かんきょうミニずかん」が設けられている。
信教	「思いやる力」に関連して、第5学年では、ニホンメダカの減少から生命尊重を考える資料が掲載されている。また、第6学年では、里山の自然を守る資料の中で、人里に出てきた動物との共生についての取組が取り上げられている。
啓林館	「思いやる力」に関連して、第6学年では、自然とともに生きる単元が設定されている。また、「理科の広場」では、ESDの視点から持続可能な社会をつくることについて考える内容が掲載されている。

② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「学びを生かして深めよう」では、SDGsが取り上げられている。また、ICT機器の活用場面が設定され、マークで示されている。
大日本	「たくましく生きる力」に関連して、英語マークを活用し、海外や地球規模の情報・資料など国際理解を深める内容が取り上げられている。また、ICT機器の活用場面が設定されており、マークで示されている。
学図	「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「やってみよう！持続可能な社会をつくるために」では、自分たちの行動に取り入れた工夫が例示されている。また、食育と関連付けた学習の展開が示されている。
教出	「たくましく生きる力」に関連して、第6学年巻末の「科学の研究者たち」では、世界の科学者とその偉業が紹介されている。また、インターネットにつながっているコンピュータを活用する場面が設定され、コンピュータマークで示されている。
信教	「たくましく生きる力」に関連して、「しりょう」では、地域の環境の保全に関する取組が紹介されており、第6学年では、自分たちができることを調べる場面が設定されている。
啓林館	「たくましく生きる力」に関連して、各学年の巻末には、ICT機器を活用した調べ方や利用場面が紹介されている。また、図鑑や模型のほかに、コンピュータやビデオなどで調べることが取り上げられている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	「社会とかかわる力」について、第6学年の巻頭の「あんなところに理科！こんなところにも理科！」や、各学年の「理科のひろば」では、働く人からのメッセージや、職業とのつながり等について掲載されている。
大日本	「社会とかかわる力」について、各学年の「理科のたまてばこ」では、「理科としごと」マークが設定されており、理科に関する職業の話題が掲載されている。
学図	「社会とかかわる力」について、各学年の「科学者の伝記を読もう」では、科学者の写真や偉業が掲載されている。また、「仕事に生きる」では、理科に関する職業の話題が掲載されている。
教出	「社会とかかわる力」について、各学年の「資料」では、理科に関する職業の話題が掲載されている。
信教	「社会とかかわる力」について、身近な植物や動物の様子では、信州地域にみられる動植物の写真が複数掲載されている。
啓林館	「社会とかかわる力」について、第4～6学年では、特設小单元として「くらしページ」が設けられ、くらしと防災や自然からの恵みについて掲載されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びとなるように、「レベルアップ理科の力」では、友達の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の具体例が示されている。
大日本	主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの「予想」「計画」「考察」などの場面では、友達の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく、キャラクターによる対話の例が示されている。
学図	主体的・対話的で深い学びとなるように、ハートマークで振り返りの視点が例示されている。また、問題解決のプロセスにおいて、問題をみつける場面では、「話し合い」が設けられている。
教出	主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、單元ごとにキャラクターの主人公が、友達と関わり合いながら学んでいく対話の例が示されている。
信教	主体的・対話的で深い学びとなるように、児童のキャラクターによる話し合い活動を通して、気づきや感想を出し合う学習場面の例が示されている。
啓林館	主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、児童のキャラクターによる対話を通して学んでいく様子が例示されている。また、單元末の「まとめノート」では、学習を振り返る例が示されている。

② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	各学年の巻末に、「算数科で学んだことを活用しよう」が設定されている。また、「学んだことを使おう」では、他学年の学習やくらし等とのつながりが示されている。第6学年の「何がわかったかな」では、関連する中学校の内容が掲載されている。
大日本	第4学年では、折れ線グラフの表し方や読み方について、「算数で学ぶこと」で示されている。第3学年では、生活科と関連した「おもちゃづくり」が「生活科とのつながり」で示されている。各学年の「はってん」では、中学校の学習内容が「中学校で学ぶこと」に掲載されている。
学図	第3学年では、生活科と関連した「風車で遊ぶ」という題材が設定されている。各学年の巻末では、次の学年で学習する内容の一部が掲載されている。
教出	各学年の巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、国語科での学習を活用する例が示されている。また、第3学年の音の単元では、「音楽で学んだこと」が掲載されている。
信教	第3学年の音のせいしつでは、音楽科と関連した木琴や太鼓などの楽器を演奏する写真が複数掲載されている。また、「しりょう」の「はってん」として、中学校で扱う学年と内容が掲載されている。
啓林館	中学校マークや他教科関連マークが設定されている。第4学年の「これまでの学習につなげよう」では、複数の単元にまたがる学習内容をまとめて掲載されている。また、各学年とも、巻末に「算数のまど」が設けられ、算数科との関連が示されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	題材の冒頭に、対話を通して思考を広げたり深めたりしていく様子がイラストや写真で例示されている。また、各学年の巻末には「話し合いのしかた」が掲載されている。学習問題の場面では、話し合いの様子から自分の意見をもてるよう設定されている。
大日本	学習問題を見つける場面では、児童の気づきの例が示されている。また、「考えよう」「考察」の場面では、キャラクターによる対話の例が示されている。学習したことを言語化する活動が取り入れられている。
学図	各学年の巻末に、「伝える・聞く」のページが設けられており、問題解決を進める中で、予想したことや考えを伝えたり、聞いたりする例が示されている。図などを使った伝え合いの例が取り上げられている。
教出	第6学年では、「予想しよう計画しよう」で、キャラクターによる気づいたことの話合いの様子が例示されている。また、第5学年では、「結果から考えよう」で、キャラクターによる考えを発表し合う様子が例示されている。
信教	各学年の「まとめよう」では、学習した内容を言語化し、図なども交えてまとめる例が示されている。また、第5学年では、人の誕生について、調べたことをクラスで発表する例が示されている。
啓林館	各学年の巻末の「話し合いのしかた」では、話し合いのルールやポイントが示されている。また、「問題をつかもう」や「予想・計画」を立てる場面では、話し合い活動が設定されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第5学年では、「夕焼け空は明日晴れ」という日本の昔から伝わることわざが取り上げられている。また、「理科のひろば」では、回復した多摩川の自然について掲載されている。
大日本	「伝統マーク」が設定されている。第6学年では、「りかのたまてばこ」で昔からの鉄づくりが、第5学年では、日本の伝統的な塩づくりが取り上げられている。
学図	「文化・歴史」マークが設定されている。第6学年では、「資料」に蘭学者について取り上げられている。また、第5学年では天気のことわざが取り上げられている。
教出	第6学年では、日本の祭りが紹介されている。また、第4学年の「しりょう」では、中秋の名月について取り上げられている。
信教	第6学年では、天明3年の浅間山噴火の写生図が掲載されている。また、第3学年では、日がさやよしずが取り上げられている。
啓林館	自然や人々の生活に関する話題を取り上げ、昔からの知恵や工夫の紹介が取り上げられている。第6学年では、「過去から未来へ」地震を語りつぐ「稲村の火」が掲載されている。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	単元の冒頭で、単元に入る前に、遊びやマンガの読み物を通して体験活動を促す場面が設定されている。各学年の巻末には「しせつを活用しよう」が設けられている。また、学んだことを生かしたものづくりの例が掲載されている。
大日本	第6学年では、巻末に「科学館・博物館に行ってみよう」のコーナーが設けられている。また、各学年の「りかのたまてばこ」では、科学館での体験や地域の活動について掲載されている。また、各学年の裏表紙には、ジオパークが掲載されている。
学図	第5学年では、「やってみよう！」のコーナーで、たい児の成長の様子をグラフで表したり、体重を身近なものの重さに例えたりして、たい児の大きさを体感する活動の例が掲載されている。
教出	各学年とも、児童の直接体験を重視し、観察や体験的な活動が取り上げられている。また、その体験をもとに「願い」や「疑問」をもてるように設定されている。
信教	第6学年では、単元で学んだことを生かしたものづくりが例示されている。また、第4学年では、「とじこめた空気」について、児童の身の回りにある物で実験をしていく例が示されている。
啓林館	各学年とも、単元の導入では、児童が身近に感じるものに着目させたり遊んだりする内容を紹介する活動の場面が設けられている。また、「理科の広場」では、単元の学習内容に関連する体験活動が取り上げられている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第6学年では、巻末の「何がわかったかな」で、第6学年で学んだ内容に合わせて「中学校1年で学習すること」が示されている。また、「理科のひろば」でも、「はってん」として中学校で学ぶ学年が示され、関連する内容が取り上げられている。
大日本	第6学年では、巻末の「中学生になったら…」で、中学校第1学年で学習する内容が示されている。また、各学年とも、「はってん」では、「中学校で学ぶこと」中学校で学習する内容が取り上げられている。
学図	第6学年では、巻末の「6年生でまなんだこと」から「もうすぐ中学生」では、小学校から中学校への学習のつながりが記されている。
教出	第6学年の「ステップアップ」では、中学校で扱う内容が示されている。また、各学年とも、単元の冒頭の「学習のつながり」で、小学校の他学年や中学校との学習内容のつながりが示されている。
信教	第6学年では、「はってん」の中で、中学校で扱う学年や内容が示されている。
啓林館	「理科の広場」では、中学校マークが設けられ、中学校で学習する内容が取り上げられている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第6学年では、「電気と私たちの暮らし」の単元の中で、「プログラミングをやってみよう」が設けられている。人感センサーを使って発光ダイオードを点灯、消灯するプログラムをつくる学習活動が例示されている。また、インターネットを使って学びを深める場面にはマークが示されている。各学年の最終ページには、マークを示したページとデジタルコンテンツの内容の一覧が記されている。
大日本	第6学年では、「私たちの生活と電気」の単元の中で、「プログラミングを体験してみよう！」が設けられている。明るさセンサーを使って暗い時だけ発光ダイオードを点灯するプログラムを学習活動が例示されている。また、インターネットを活用して学びを深める場面にはマークが示されている。各学年の巻末には、「コンピュータで調べよう」のページが設けられている。
学図	第6学年では、「電気と私たちの生活」の単元の中で、プログラムやセンサーの利用が取り上げられ、LEDを点滅させるプログラムについて例示されている。また、第5学年、第6学年の巻末の「調べる」では、インターネットの活用の仕方や注意が示されている。
教出	第6学年では、「電気の利用」の単元の中で、「プログラムを作成して、コンピュータに命令をだしてみよう」が設けられている。Scratchを用いて、ミニ信号機を動作を制御する例が示されている。また、インターネット活用して学びを深める場面には、コンピュータマークが設定されている。
信教	第6学年では、コンピュータを用いてプログラミングを扱う単元が設けられている。人感センサー付き照明器具を参考にして、人がいる時だけ明かりがつく装置を作る例が示されている。気象、天体などの単元では、インターネット、テレビ、新聞コンピュータを活用して情報を集めることが取り上げられている。
啓林館	第6学年では、「発電と電気の利用」の単元に続けて、「プログラミングを体験しよう」という小単元が設けられている。巻末に用意されているプログラミング用シートとシールを使った例が示されている。また、人感センサーや明るさセンサーを使って、必要な時だけ明かりがつくよう、ScratchやMeshでプログラミングを体験する学習が取り上げられている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	配色やデザインについて、カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。巻末に、これまで学習した器具等の使い方が順序立てて示されている。単語の途中で改行せず、文節で改行されている。
大日本	配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。ページ番号が丸枠で囲まれている。すべての児童にとって学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。実験、結果の部分など、問題解決の場面ごとに色が違い、区別がされている。単語の途中で改行せず、文節で改行されている。
学図	配色やデザインについて、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいよう配慮して作成しました」と記載されている。多様な色覚に対応した領域ごとの単元マークが設けられている。実験での試薬の色の変化などは、色の写真とともに色名が書かれている。「問題」や「わかったこと」は、文節での改行や箇条書きで記されている。
教出	配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。模様をつけることで、色以外でも区別ができるように示されている。また、すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、問題解決の各ステップにマークが用いられている。本文やキャラクターのふきだしなどの記述は、文節で改行されている。
信教	配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。器具の使い方が、項目立てて示されている。
啓林館	配色やデザインについて、メディアユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。また、巻末だけでなく、単元の中にも使用する器具の使い方が示されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	単元の冒頭の「レッツスタート！」ではこれから学ぶ内容が、「学んだことを使おう」では既習内容が示されている。問題解決のプロセスが紙面の端に「学びのライン」として、「問題をつかもう」から「まとめ」まで示されている。
大日本	各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスが示されている。また、ページ上に、問題解決のプロセスが色分けして示されている。第5学年、第6学年では、結果、・考察、・結論が1ページにまとめられている。
学図	問題解決の過程がページの端にバーで示され、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。観察、実験の結果からわかったことと、解説等が分けて示されている。
教出	各学年とも、巻頭「学習の進め方」が設けられており、問題解決の順序が示されている。また、「ノートの取り方」では、「学習の進め方」に対応した例示がされている。
信教	各学年とも、巻頭に「理科の学習の進め方」が設けられており、問題解決の進め方や、教科書にでてくるマークについての説明が示されている。
啓林館	各学年とも、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で、問題解決のプロセスや、教科書で使われているマークについての説明が示されている。また、巻末の「表す」では、ノートのまとめ方や伝えるときのまとめ方が例示されている。

⑩ ◇ 観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達の段階に即した工夫や配慮はなされているか。	
東書	観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、観察、実験の注意点等がそれぞれの単元内に示されている。また、巻末の器具の使い方や理科室の使い方では、発達の段階に応じた内容が示されている。
大日本	観察、実験に使う器具や薬品の使い方は、巻末に掲載されており、実験のページには巻末のページに導くページ数が書かれている。また、第4～6学年では、巻末の「私たちの理科室」で、発達の段階に応じた「理科室のきまり」が示されている。
学図	巻末の実験器具の扱い方では、スモールステップに分け、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。各学年の巻末の「理科室の使い方」では、発達の段階に応じた内容が示されている。
教出	観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、注意点等が、児童の発達の段階に応じた内容で、それぞれの単元内に示されている。
信教	各学年とも、「やってみよう自由研究」の小単元が設けられており、発達の段階に応じて、問題解決の手順や結果を記録する方法などが示されている。
啓林館	器具の使い方について、該当する単元だけでなく、巻末にもまとめている。器具の扱い方を振り返り、技能を身に付けられるようにしている。

⑪ ◇ 観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。	
東書	巻頭の「理科の学び方」や、単元内の「レベルアップ理科の力」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が示されている。また、巻末には「学んだことを振り返ろう！」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について振り返るページが設定されている。
大日本	各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスの中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が★マークとともに示されている。また、ページ上に、問題解決のプロセスが色分けして示されている。
学図	巻頭の「科学の芽を育てよう」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が色付きで示されている。各ページの下には、問題解決の場面がマークで示されている。
教出	それぞれの単元の中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について、第3学年は「見つけよう」、第4学年は「予想しよう」、第5学年は「計画しよう」、第6学年は「結果から考えよう」で、児童と先生のキャラクターが対話を通して例示している。
信教	各学年とも、巻頭の「理科の学習の進め方」では、問題解決のプロセスに、各学年で主に育成を目指す問題解決の力や、主に働かせる見方・考え方が例示されている。
啓林館	各学年とも、巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」では、科学者が具体例を交えながら、その学年で主に育てたい問題解決の力が示されている。単元の学習では、ページの端に「フラッグ&ライン」として問題解決の流れが示されている。

⑫ ◇ 「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。	
東書	学びを生かすことや社会とのつながりを示す資料が掲載されている。単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。
大日本	学習問題とは別の自然の事物や現象にあてはめることで、学んだことを生かす場面が設定されている。
学図	生活とのつながりや学びの活用について、多様な資料が掲載されている。また、単元の冒頭では、その単元で働かせる「見方・考え方」が例示されている。
教出	子どものキャラクターを通して、多様な「見方」を働かせ、また、先生のキャラクターの問いかけにより、多様な「考え方」を引き出す様子が例示されている。
信教	第5学年のふりこの運動では、ふりこの観察から、ふりこの動きを決める条件を見つけ、条件を制御しながら問題を解決する実験が設定されている。
啓林館	各学年とも、「理科の考え方をはたらかせよう」や、「理科をふり返ろう」が設けられ、理科の見方や考え方が例示されている。また、「結果から考えよう」では、より科学的に話し合う活動が示されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。

東書	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「たしかめよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。一定時間内に指導できる分量で、時数にゆとりをもって設定されている。
大日本	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「確かめよう」と「学んだことを生かそう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。
学図	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「まとめてみよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。科学者について掲載されている。
教出	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「確かめ」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。
信教	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末には「まとめよう」が設けられており、観察・実験の結果の整理や、考察が例示されている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。
啓林館	「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「たしかめよう」「活用しよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

東書	「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。1年間の学習内容が見通せるよう裏表紙に目次が記載されている。軽量化した紙が使用されている。全ページにわたってカラーユニバーサルデザインが施されている。第6学年では、巻末に人体模型の工作の付録がある。
大日本	「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。目次と理科の学び方が、見開きにまとまっており、1年間の見通しと学び方が一時に見られる。目次の単元の番号が、領域ごとに色分けされている。第5学年では「災害に備えようブック」など、各学年の巻末に、学年の学習内容に応じた付録がある。
学図	ページを開かなくても1年間の学習内容が見通せるよう、裏表紙に目次が設けられている。また、裏表紙には長さをはかるためのものさしが設けられている。各単元の最初のページには、紙面の端に全学年の巻末の「考えよう調べよう」では、理科の学習で大切な事柄についてインデックスとともに示されている。
教出	各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。目次の単元の番号が、領域ごとに色分けされている。第3学年では、巻末に「生き物ミニずかん」として、図巻と観察で用いる定規の付録がある。
信教	各学年とも、目次には単元名とページに加えて、「器具などの使い方」に、その学年で主に扱う器具とページが示されている。1年間の学習を見通すページが設けられている。「カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています」と記載されている。
啓林館	「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第3学年と第5学年の巻末には、取り外して野外で使える付録がある。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮

東書	判型はA4であり、写真、図、文章等が大きく記載されている。各単元の導入のページでは、本文のすべての漢字にルビが施されている。
大日本	「問題」や「わかったこと」「結論」部分等は、それぞれ色が塗られている。写真や図版は角丸で切られている。
学図	単元の導入ページでは、見開き一枚の大きな写真が掲載されている。単元名や大事な言葉は、フォントを変えたり太字にしたりして示されている。
教出	「問題」や「結論」の部分は、それぞれ色が塗られ強調されている。
信教	数種類のマークを使い、学習内容や注意事項が示されている。
啓林館	「注意」を表すマークとして、「かん気」や「強い光」など数種類の具体的なマークが設けられている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第6学年では、三浦市にある馬の背洞門の土地の隆起が取り上げられている。
大日本	第5学年では、厚木市にある神奈川県総合防災センターが取り上げられている。
学図	第3学年では、小田原市にある県立生命の星・地球博物館が取り上げられている。
教出	第6学年では、箱根町にある大涌谷が取り上げられている。
啓林館	第6学年では、藤沢市にある江の島の土地の隆起が取り上げられている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			大日本			学図		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有		有	有
URL、二次元コード等の掲載の有無	教出			信教			啓林館		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有		有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	4			406	483	434	515
大日本	4			429	461	398	462
学図	4			430	484	457	537
教出	4			465	539	495	524
信教	4			384	439	362	427
啓林館	4			395	414	412	488

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	東書	書名	どきどき わくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへ ジャンプ 新しい 生活 下
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、あんぜん、くらし、あいさつ、きもちの伝え方などが明記された「かつどうべんりてちょう」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、問いかけから学習をスタートし、子どもたちが思考する活動例が示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、ものや人と関わることで感じたことや発見したことを大切にして、これからの生活に見通しをもつ題材が提示されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、高齢者と関わる姿や外国人が掲載されていて、社会には多様な人々がいることを捉えられる内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、社会の一員として誰とでも仲良く生活できるよう「かつどうべんりてちょう」に具体例が示されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで働く人とふれあう活動例が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の冒頭に「？」ではじまる課題を設定している。 □ 他教科との関連として、具体的なつながりの例をページ右端や関連マークで各教科と生活科で往還できるよう、設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、特に対話による交流について具体的に掲載している。上巻では個のつぶやきが例示され、下巻ではつながりのある発言が例示されている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、けん玉など昔から伝わる文化や古くから受け継がれている伝統行事や遊びなどを例示している。 □ 体験活動の充実に関して、「ポケット図鑑」や「やってみよう」のページで、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じられるよう構成されている。 □ 就学前との円滑な接続について、「幼児期までに育てほしい姿」が掲載され、子どもの実現状況をみとる共通の物差しとして使用できる構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、ICT機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して交流したり発信したりする学習活動の様子が掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、観察記録カード(みつけたよカード)の書き方を詳しく例示したり、表現作品が掲載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、友達と交流する場面のイラストの吹き出しには解決策のヒントが書かれており、深い学びにつながる構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、イラストを用い、季節を比較した気付きやリード文と会話文により気付きを引き出す構成となっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、障がいのある方の写真や挿絵が掲載されている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、「もっとよく動く」という目標をもった活動の中で「どうしたらいいのかな？」と投げかけることで、「試す」活動へとつなげている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい せいかつ 上 なかよし たのしい せいかつ 下 はっけん
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、生活上必要な習慣や技能が楽しみながら学べるよう、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どものイラストの会話に投げかけや気付きにつながる言葉が使われている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、単元の終末ページにイラストと吹き出しで、生活を豊かにしようとする具体の姿を取り上げている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、うさぎやモルモットなどの飼育を通して命のあたたかさを感じることができるような内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、下巻末「がくしゅうどうぐばこ」に「せかいのなかま」の項目を設け、世界の子どもの姿や挨拶などの具体例が示されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、働く人との交流や取材・まとめ・発表など一連の学習活動を通して、地域の働く人と積極的に関わろうとする内容になっている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元の導入ページで、見開きの大きな写真を掲載し、活動への思いや願いが生じるよう設定されている。 □ 他教科との関連として、巻末に「がくしゅうどうぐばこ」が設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、「せいかつことば」を設け、気付きがより深まり、広がるための言葉の例を右端コラムに取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統行事や文化のイラストや写真、昔遊びやおりがみなどの活動が掲載されている。 □ 体験活動の充実に関して、繰り返し身近な社会や自然と関われるよう学習に関連した図鑑が掲載され、例示が随所に示されている。 □ 就学前との円滑な接続について、幼児期に慣れ親しんだ遊びで仲間づくりを進めることや安心して新たな環境になじめるような内容を上巻巻頭に取り上げている。 □ 情報活用能力の育成に関して、学習活動の例示の中に伝達活動やICT機器について掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」と対応するマークが記載され、確認しながら学習を進めることができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、本時の活動のめあてが各ページの「風船の絵」に書かれており、見通しをもって学習を進められるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、ズームや並列した写真掲載などで、四季の移り変わりの気付きを引き出すページ構成となっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、関わる対象が明確となり、身近な事物や人を捉えるために、友達や家族の写真が掲載されている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、おもちゃづくりから発見したことや工夫したことを交流することで、次の活動で、「試す」「見通す」などの場面につながる構成となっている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	学図	書名	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、ものの作り方や植物の育て方などを掲載した「ものしりノート」が巻末の図鑑を活用しながら見られるように設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、おもちゃをもっとパワーアップさせるために試行錯誤を繰り返すなど、子どもに考えさせる活動が例示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各大単元を4つの段階に区分し、4つ目にやってきて思ったことなどは何かを考える題材が取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、体の不自由な人の生活の様子や高齢者との交流の写真が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、写真や挿絵に外国につながりのある子を登場させたり、外国語が併記されている看板を掲載し、異文化にふれる内容が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで働く人と関わる活動が2段階の学びで構成されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「他者との考えの交流」に関連して、個々の活動の後にペアやグループ、全体で考えを共有する場面を取り上げている。 □ 他教科との関連として、国語科などとの関連が図られた作文や手紙などの学習の展開が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、発達段階に合わせて、「レポートの作成」に関連した多様な方法を取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、全国各地や生活の中で根付く伝統に関する記載があり、自分との比較を促す構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、記録やもの作りなどの活動の補助となる「ものしりノート」や、巻末の生活科で身に付けたい資質・能力を「学び方図かん」が設けられている。 □ 就学前との円滑な接続について、上巻巻頭の「がっこうだいすき」では、児童が安心して学校生活を始められるよう、登校から下校までの1日の生活の様子を絵で示している。 □ 情報活用能力の育成に関して、QRコードなど情報活用する方法についてや学習の中で活用できるものが記載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、「ものしりノート」で記録カードの書き方、巻末の「学び方図かん」で作文などの書き方のポイントが詳しく示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、単元毎に4段階の学習展開やそれぞれの活動の視点が持ちやすい投げかけが表示されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、低学年の児童にも視覚的に分かりやすいように絵や写真が掲載されている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、視覚にとらえやすく、自分事として物を感じとれる構成となっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、分析的に考える(見つける、比べる)活動や創造的に考える(試す、見通す)活動を絵や吹き出しで表現している。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で、「この教科書は、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 □ 「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 		

【資料 I】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	教出	書名	せいかつ上 みんな なかよし せいかつ下 なかよし ひろがれ
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元ごとのコラム「やくそく」や、巻末の「学びのポケット」で、「生活上必要な技能」が取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、子どもと同じ目線で一緒に学習するキャラクターが設定され、児童が考える働きかけがされている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、自分ができるようになったことなどを書くことで、自信をもってこれからの学びに向かうための活動例が示されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、まちの中のバリアフリーを写真やイラストで取り上げている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、まちで働く人に迫る活動を単元化し取り上げている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「振り返り」に関連して、単元最後の「なにをかんだかな」で、自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されている。 □ 他教科との関連として、「コラムはってん」の「社会科へのまど」「理科へのまど」で、生活科の学びの中学年以降へのつながりを示している。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、板書例や思考ツールを取り上げている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が、全国にわたり地名と写真とともに取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、各単元巻頭の児童の大きな写真や吹き出し、先生の投げかけなど、単元を通し様々な活動や物事を紹介している。 □ 就学前との円滑な接続について、スタートカリキュラムで、幼稚園で身に付けた資質・能力を小学校で発揮する姿が対比して示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、各単元はじめには、「まなびのポケット」で確認しながら学習を進めることができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、「まんぞくはしご」で、自分の学習の振り返りをするすることで、深い学びにつながる構成になっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、巻末の「学びのポケット」では、比較できるように写真構成がされている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、身近な事象と繰り返しかわり、子どもに考えさせるような内容が取り上げられている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、ページ右上のヒント欄で見つける、比べる、例える、試す、見通す、予測するなどの学習活動を繰り返し提示している。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	信教	書名	せいかつ 上 あおぞら せいかつ 下 そよかぜ
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、課題の解決に必要な知識や技能の習得につながるように、「詩」の内容や子どもの吹き出しに「疑問」の投げかけが行われている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、現在と比較して考えたり、写真やイラストで多様な表現方法が紹介されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、児童が見通しをもてるような活動例を紹介している。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、上下巻を通してヤギを継続飼育する内容構成とし、動植物との継続的にかかわる活動が取り上げられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、畑・栽培・調理・食の流れを実体験を通して感じる内容となっている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、四季を通して、自然や動植物、地域の人と繰り返し関わる直接体験が取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「問題発見・問題解決」について気付いたことから思いや願いをもって活動へ取り組む内容構成となっている。 □ 他教科との関連等として、国語科と関連した「たんぼぼのふしぎ」という題材が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、詩を掲載することで生活と言葉がつながるような構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、季節ごとの年中行事や季節に関連する歌などを掲載している。 □ 体験活動の充実に関して、身近な生活での体験や地域での直接体験が取り上げられている。 □ 就学前との円滑な接続について、巻頭で家族や登校直前の写真、扉絵で学校生活の様子に触れることで、希望を持ち登校できるような構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、ICT機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して発信したりする学習活動の様子が掲載されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、絵本を読み進めるように単元が構成されており、活動のつながりが分かりやすく設定されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、絵本形式で地域住民の生活に密着した写真・イラストなどで、自分事として学習を進める視点が持てる構成となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、絵や写真とともに詩を掲載し、詩からも気付きを引き出す内容の構成になっている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、身近な風景の写真と行事の写真を例に挙げ、自分との関わりで捉える内容になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、見開きの絵や扉絵で学習意欲を高めたり、見通しをもてる構成になっている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 「この教科書は、必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と表記されている。 □ 「必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	光村	書名	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、着目・考えさせたいポイントが、ページの下や横に、「どうすれば」というコーナーとして取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した「知識・技能」を発展させる投げかけが随所にあり、巻末の「ひろがるせいかつじてん」にもまとめて取り上げている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、シールを用いて1年間でできるようになったことを振り返り、今後の自分にできることを探す題材が設定されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、自分ができるようになったことを振り返り、友だちのことにも目を向け、お互いのよさを伝え合えられるような内容になっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあいを通して、地域への親しみや愛着がもてるよう活動が設定されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、自然と関わる体験活動への意欲を高めるため、上下巻「きせつのおくりもの」で、定位置の季節の写真などで四季の変化を示している。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、各単元はじめの、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で、活動の見通しをもち、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるように配慮している。 □ 他教科との関連として、巻末に「ひろがるせいかつじてん」が設けられている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、言語活動を用いて学びを深めるための伝えることのポイントが示されており、能力を高めやすい構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化・行事に関し、いろいろな都道府県の写真やイラストが掲載されていて、各地の文化に目を向けるような構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、体験を広げ、繰り返し対象と関わり、気付きを自覚したり、関連付けたり、視点を変えて捉えたりすることで、気付きの質を高め、深い学びとなるように、「もっとやってみよう」を設定している。 □ 就学前との円滑な接続について、「できる。」「やってみよう。」という投げかけで児童のワクワクする気持ちと期待感を最大限に引き出す「スタートカリキュラム」ページを設けている。 □ 情報活用能力の育成に関して、各単元、情報を活用する活動する場面を随所に設け、その様子を絵や写真等で示し、情報活用能力を育成できるよう促している。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫について、子どもが日常使う言葉を吹き出しで示され、写真やイラストが掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、上下巻とも3段階での学習展開と単元ごとの振り返りが充実している。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、上下巻を通して、茶色の枠で気付きの視点を視覚的に選べる構成になっている。 □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、比較して考える写真などで、気付きの様子が関連付けられるようにしている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、ポイントとなる視点を10文字とイラストで複数掲載している。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「特設コーナーの見出しなどには見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。 □ 「児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「がくしゅうずかん」が複数掲載されており、アドバイスや日常生活に必要な情報が取り上げられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、単元の中での、毎時間のつながりを意識した指導計画が例示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各大単元の終末ページに、学習を通して学んだことを、さらに深く学ぼうとしたり、生活に生かしたりしようとする姿を取り上げている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、イラストで車いすを使用する児童が設定され、ともにいきいきと活動している様子を取り上げている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために巻末の「がくしゅうずかん」には、国際化につながる内容が掲載されている。 □ 「社会とのかかわる力」に関連して、働く人への親しみや愛着がもてるように地域の働く人とふれ合ったり、インタビューする活動を取り入れている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「見通しと振り返り」に関連して、各単元を3段階で構成し、生活科の学びのプロセスを分かりやすく取り上げている。 □ 他教科との関連として、巻末に「がくしゅうずかん」が設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、考えを深める話し方についてまとめたページがあり、児童が言語能力を習得しやすい構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、学習に関連づけた地域の行事・文化の写真を掲載し、自分たちの身の回りにも目を向ける構成となっている。 □ 体験活動の充実に関して、「わくわくぼっくす」が設定され、児童が自ら体験活動をするよう促している。 □ 就学前との円滑な接続について、巻頭ページに幼・保の写真が複数使用されていて自己の成長を想起しやすく、学校間の接続にもつながりやすい構成となっている。 □ 情報活用能力の育成に関して、学習のまとめ、表現について情報機器の使用に関する項目があり、情報活用能力につながる構成となっている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応について、単元名や各欄などが定位置への配置、マークの統一がされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、学んだことを活用する欄があり、生きた知識・技能につながる構成になっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、小単元名が具体的にめあてをもちやすく、いぬや鳥のキャラクターが気付きのポイントを示している。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、学んだことをより広げていく構成になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、身近な材料が使われ、どのように遊べばよいか試したり、工夫したりすることで、見通しももてるようになっている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 □ 「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《生活(生活)》

※詳細については、資料Ⅱ(生活-9～生活-19)を参照

発行者の略称	日文	書名	わたしとせいかつ 上 みんななかよし わたしとせいかつ 下 ふれあいだいすき
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、見開きページの右端や図鑑ページで、関連する知識を習得することができるようになっている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、比べながら考えるための、山折りを使った写真提示や比較対象物を並べた写真提示がされている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学んだことを活かしたり、発展させたりするための投げかけがあり、活動の継続性を促す構成となっている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童の成長に関わってきた人や体の不自由な人の生活に視点を挙げた写真、イラストを掲載することで児童の意識を引きつける構成となっている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、育てた野菜をおいしく食べるための工夫や大豆を使った料理で地域の食についての題材が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域に愛着や親しみをもつために、公共施設に出かけたり、働く人に取材したりし発表したりする単元が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元ごとの終末ページには、「ふりかえるつなげる」が設定されている。 □ 他教科との関連として、巻末に「ちえとわざのたからばこ」が設けられている <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の確実な育成に関して、上下巻ともに伝えることを重視した単元が設定されていて、言語能力の育成につながる構成となっている。 □ 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化や地域の行事、昔から伝わる遊び等に関心をもって関われるような学習活動や「伝統文化や郷土の特色」に関連した、写真、吹き出しなどが示されている。 □ 体験活動の充実に関して、学習したことを広げたり、関連づけて考えたりできるページがあり、体験活動を深められるような構成となっている。 □ 就学前との円滑な接続について、上巻頭「いちねんせいになったら」では、学校の日、身の回りの安全などが写真や絵と共に示されていて、安心して学校生活をスタートできるよう配慮されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、板書、話し合い活動、まとめの表現作品、発表の場面などの例が具体的に複数示している。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫について、観察のコツや各種技能のまとめが巻中と巻末に記載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 分かりやすく理解が深まるような構成について、「ポケットずかん」が適所に設けられており、気付いたことをすぐに調べ理解が深まるよう設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材について、比較して考える写真などで、気付きの様子が関連付けられるようにしている。 □ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材について、高齢者の写真や挿絵を意図的に使用し、年少期から身近な人々としてとらえる構成になっている。 □ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、様々な「ページたんけんたい」が登場し、気付きにつながると同時に、先を見通した活動のヒントになっている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 上巻には学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻には身近な地域やおもちゃ作りなどに関する単元などが設けられ、各単元とも偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と、表記されている。 □ 「ユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《生活（生活）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	あんぜん、くらし、あいさつ、きもちの伝え方などが明記された「かつどうべんりてちょう」が上下に設けられている。
大日本	生活上必要な習慣や技能が楽しみながら学べるよう、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」には、児童にとって身近な素材が掲載されている。
学図	ものの作り方や植物や生き物の育て方などが掲載されている「ものしりノート」に、巻末の図鑑を活用しながら見られるように設定されている。また「ちゅうい」という大切なことも書かれてあり、自分の中で活かしていける知識・技能につながる。
教出	単元ごとのコラム「やくそく」や、巻末の「学びのポケット」で、「生活上必要な技能」が取り上げられている。また、「えがおのひみつたんけんたい」、「しごとにチャレンジしよう」、「まちが大すきたんけんたい」とは別に、大単元として取り上げられている。
信教	課題の解決に必要な知識や技能の習得につながるように、「詩」の内容や子どもの吹き出しに「疑問」の投げかけが行われている。
光村	着目・考えさせたいポイントが、ページの下や横に、「どうすれば」というコーナーとして取り上げられている。また、「生活上必要な習慣」に関連して、巻末の「ひろがるせいかつじてん」でまとめて分かりやすく取り上げている。
啓林館	「がくしゅうずかん」が複数掲載されており、アドバイスや日常生活に必要な情報が取り上げられている。
日文	見開きページの右端や図鑑ページで、関連する知識を習得することができるようになっている。また、四季について学んだことを生かした遊びを考えたり、他の季節と比べたりすることができるようになっている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	問いかけから学習をスタートし、子どもたちが思考する活動例が示されている。子どもたちが思考する場面が保障され、繰り返されている。単元ごとに「見つけたよカード」も掲載されており、ほかの表現方法も複数あり、自分に合った表現方法を選択できる。
大日本	子どものイラストの会話に投げかけや気付きにつながる言葉が使われている。上巻では「なかよし」、下巻では「はっけん」を全単元名に共通してつけ、一人ひとりが主体的に活動するようになっている。
学図	おもちゃをもっとパワーアップさせるために試行錯誤を繰り返す活動の例示や、見たり聞いたりしながら学ぶ方法を詳しく解説したページなどがあり、子どもの思考学習が取り上げられている。
教出	子どもと同じ目線で一緒に学習するキャラクターが設定され、児童が考える働きかけがされている。また、教科書見開きの右欄に思考・判断・表現に働きかける投げかけがある。
信教	現在と比較して考えたり、生活や他教科との関連を生かした表現方法、作品を写真やイラストで多様な表現方法が具体的に紹介されている。
光村	習得した「知識・技能」を発展させる投げかけが教科書に随所であり、また、巻末の「ひろがるせいかつじてん」にまとめて取り上げている。
啓林館	単元の中での、毎時間のつながりを意識した指導計画が例示されている。また、「くらべる」、「ためす」、「くふうする」ことについてイラストや写真で紹介している。
日文	比べながら考えるための、山折りを使った写真提示や比較対象物を並べた写真提示がされている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	ものや人と関わることで感じてきたことや発見したこと大切にして、これからの生活に見通しをもつ題材が提示されている。
大日本	単元の終末ページにイラストと吹き出しで具体の姿として取り上げている。
学図	各大単元を4つの段階に区分し、1つ目を「どきどき」、2つ目を「いきいき」、3つ目を「ふむふむ」、4つ目を「にこにこ」として、「やってきて思ったこと、もっとやってみたいことはなにか」という問いかけが掲載されている。
教出	これまでの自分の成長をふりかえり、できるようになったことをまとめ、自分に拍手したいことを書くことで、自信をもってこれからの人生に向かっていく活動例を示されている。また、巻末が次の学年につながる構成となっている。
信教	児童が見通しをもてるような活動例を紹介することで、「やってみたい。」という気持ちを高める構成となっている。
光村	単元末に自分自身の振り返りをシールに書いて貼ったり、1年間の学びをふりかえり、できるようになったことを実感するとともに、これからの自分には何ができるのかできることを探して行動しようと思うことができる。
啓林館	各大単元の終末ページに、学習を通して学んだことを、さらに深く学ぼうとしたり、生活に生かしたりしようとする姿を取り上げている。
日文	学んだことを活かしたり、発展させたりするような投げかけがあることで活動の継続性を促す構成となっている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	生活上での高齢者と関わる姿やイラストで外国人が掲載されていて、社会には多様な人々がいることを捉えられる構成となっている。
大日本	「いのちの大切さ」に関連して、飼育を通して命のあたたかさを感じとることができるよう、小動物を取り上げている。(学校図書と光村図書と大日本図書)
学図	体の不自由な人の生活の様子などや高齢者との交流の写真が複数使われていて、共生につながる構成となっている。
教出	「共生」に関連して、まちの中のバリアフリーや学校、施設を写真やイラストで取り上げている。また、写真やイラストに登場する人物の中に、車いすの児童や外国につながる児童も一緒に取り上げている。
信教	「いのちの大切さ」について、上下巻を通してヤギを継続飼育する内容構成とし、動植物との継続的なかわりを内容の中核としている。
光村	自分ができるようになったことを振り返り、友だちのことにも目を向け、お互いのよさを伝え合うことで、他者を思いやることができる。
啓林館	「共生」に関連して、イラストで車いすを使用する児童が設定され、ともにいきいきと活動している様子を取り上げている。
日文	子どもたちの成長に関わってきた人や体の不自由な人の生活に視点を挙げた写真、イラストを掲載することで子供の意識を引きつける構成となっている。

②	[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	身近な様々な人たちと、互いの関係を一層豊かにし、社会の一員として誰とでも仲良く生活できるコミュニケーション能力を育くめるように、上下巻末の「かつどうべんりてちょう」に、具体例が示されている。	
大日本	下巻末「がくしゅうどうぐばこ」には、「せかいのなかま」の項目を設け、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために子どもの姿や挨拶などの具体例が示されている。	
学図	写真や挿絵に外国につながりのある子を登場させたり、外国語が併記されている看板を掲載したりして、広い視野を持って異文化を理解する内容が設定されている。	
教出	「情報化」に関連して、発達段階に応じ、パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した学習活動が取り上げられている。	
信教	「食育」に関連して、畑・栽培・調理・食の流れを実体験を通して感じる内容となっている。	
光村	地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあい体験を持ち、地域への親しみや愛着がもてるよう身近な地域と関わる活動が、二段階の学びで構成されている。	
啓林館	巻末の「がくしゅうずかん」には、異文化を理解し尊重する態度を育て国際理解を深めるために、「せかいとつながろう」という題名で、国際化につながる内容が掲載されている。	
日文	育てた野菜をおいしく食べるための工夫や大豆を使った料理で地域の食についての題材が掲載されている。	
③	[社会とかがわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
	(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあう体験から、2つの単元で身近な地域と関わる活動例が取り上げられ、地域への親しみや愛着がもてるよう掲載されている。	
大日本	働く人との交流や取材・まとめ・発表など一連の学習活動を通して、彼らが自分たちの生活を支えていることに気付くとともに、地域の働く人に積極的に関わろうとする気持ちももてるようになっていく。	
学図	身近な地域と関わる活動が、2段階の学びで構成されており、地域の公共施設や店、そこで活動する(働く)人とのふれあい体験を持たせ、地域への親しみや愛着がもてるようになっていく。	
教出	「働くことの大切さ」に関連して、まちで働く人に迫る活動を単元化し取り上げている。	
信教	四季を通して、自然や動植物、家族や友だち、地域の人と繰り返し関わり、地域の良さを知り、地域の一員として思いをもち行動できるような直接体験が設定されている。	
光村	上下巻「きせつのおくりもの」で、定位置の季節の写真(なかよしの木)や町の様子、自然の様子(植物・昆虫など)の絵で、日本の四季の変化を示し、自然と関わる体験活動への意欲を高めるよう表記されている。	
啓林館	地域の働く人とふれ合ったり、インタビューする活動を取り入れ、働く人への親しみや愛着とともに、憧れ、夢や希望をもち、児童が意欲をもって生活することができるよう工夫されている。	
日文	公共施設に出かけたり、働く人に取材したりし発表したりする活動を通して、地域に愛着や親しみを持ち、適切に接したり安全に生活したりできるよう単元が設定されている。	

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	「見通しと振り返り」に関連して、上下巻で子どもの発達段階に応じた内容を取り上げている。また、単元の冒頭に「？」ではじまる課題を設定している。
大日本	主体的な学びへのいざないとして、単元の導入ページで、見開きの大きな写真を掲載し、活動への思いや願いが生じるよう設定されている。
学図	「他者との考えの交流」に関連して、個々の活動の後にペアやグループ、全体で考えを共有する場面をイラストで取り上げている。
教出	振り返りの活動が重視された構成になっており、単元最後の振り返り「なにをかんだかな」で、自身の学びや変容を自覚できる場面が設定されている。 「まんぞくはしご」で自己評価したことを視覚化できるようになっている。
信教	「問題発見・問題解決」について、多様な内容がつながる内容構成となっている。単元初めのページでは、学習活動を示唆する写真や絵が大きく掲載され、気付いたことから思いや願いをもって活動へ取り組む意欲を高められるよう工夫されている。
光村	各単元初めの、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で、活動の見通しをもち、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるように配慮している。
啓林館	「見通しと振り返り」に関連して、各単元を3段階で構成し、生活科の学びのプロセスを分かりやすく取り上げている。 あわせて、めくり言葉をページ右横に挿入したり、「わくわくボックス」を各大単元の導入ページに取り上げている。
日文	単元ごとの終末ページには、「ふりかえるつなげる」が設定されており、活動を振り返り、自分の成長に気付くとともに、自分の生活や学習につなげ広げ、深い学びとなるよう工夫されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	「他教科との学びのつながり」に関連して、具体的なつながりの例をページ右端に掲載したり、関連マークを掲載したりして、資質・能力が各教科と生活科で往還できるよう配慮している。
大日本	生活科の学習が今後につながるように「がくしゅうどうぐばこ」が巻末に設けられている。
学図	国語科などとの関連が図られた作文や手紙などの学習展開が示されるなど、他教科との関連が図られた学習が設定されている。
教出	生活科の学びの中学年以降へのつながりを示し、生活科最後の学習として、「楽しかったね生活科」を設定し、社会科や理科へのつながりを示している。
信教	他教科との関連として、国語科や社会科、理科とのつながりをイラストや写真で示している。
光村	他教科との関連として、巻末の「ひろがるせいかつじてん」で他教科や日常生活へ生かすことをイラスト付きでまとめている。
啓林館	他教科との関連として、巻末に「がくしゅうずかん」が設けられており、「しらべよう」など他教科で活用する内容をまとめて示している。
日文	他教科との関連として、巻末に「ちえとわざのたからばこ」が設けられている。他教科や日常生活へ生かすことをイラスト付きでまとめている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「言語活動の充実」に関連して、特に対話による交流について具体的に例示している。上では、発表の際、個のつぶやきが例示され、下では、つながりのある発言が例示されている。
大日本	「せいかつことば」を設け、気付きがより深まり、広がるための具体例を右端コラムに取り上げている。
学図	発達段階に合わせて、「レポートの作成」に関連した多様な方法を取り上げたり、話し方・聞き方のポイントを示したりと、表現や交流に役立つ構成となっている。
教出	「立場や根拠を明確にして議論するなどの言語活動の充実」に関連して、板書例や思考ツールを複数取り上げている。
信教	詩を掲載することで生活と言葉がつながるような構成となっている。
光村	言語活動を用いて学びを深めるための伝えることのポイントが示されており、能力を高めやすい構成となっている。
啓林館	考えを深める話し方についてまとめたページがあり、子供が言語能力を習得しやすい構成となっている。国語科や書写で学習したことも生かした多様な表現物を取り上げている。
日文	上下巻ともに伝えることを重視した単元が設定されていて、言語能力の育成につながる構成となっている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	昔から伝わる文化や古くから受け継がれている伝統行事や風習の写真、昔から伝わる遊びや草花を使った遊びなどを例示し、自分の生活を想起したり、郷土愛を育めたりする構成となっている。
大日本	見開きページ右端やページ内に伝統行事や文化のイラストや写真、昔遊びやおりがみなどの活動が掲載されていて、目を向けやすい構成となっている。
学図	全国各地や生活の中で根付く伝統に関する記載があり、自分との比較を促す構成となっている。
教出	地域の慣習や行事に目を向ける活動や資料が、全国にわたり地名と写真とともに複数取り上げられている。
信教	「伝統や文化に関する教育」について、季節ごとの年中行事や季節に関連する歌などを掲載し、生活の中で年中行事などを感じる心に触れる内容を掲載している。
光村	伝統文化・行事に関し、いろいろな都道府県の写真やイラストが掲載されていて、日本の文化に目を向けるような構成となっている。
啓林館	学習に関連づけた地域の行事・文化の写真に掲載し、自分たちの身の回りにも目を向ける構成となっている。
日文	伝統文化や地域の行事、昔から伝わる遊び等に関心をもって関わられるような学習活動や「伝統文化や郷土の特色」に関連した、写真、吹き出しなどが示されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	活動の補助となる「○○図かん」や活動を広げる「やってみよう」で、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じ、これらを参考に体験活動がより充実するよう配慮されている。
大日本	繰り返し身近な社会や自然と関わられるよう学習に関連した図鑑が掲載され、繰り返し試行錯誤できるよう、例が複数示されている。
学図	記録やもの作りなどの活動の補助となる「ものしりノート」や、巻末の生活科で身に付けたい資質・能力を「学び方図かん」で、子どもたちの思いや願い、気付きの高まりに応じ、これらを参考に体験活動がより充実するよう配慮されている。
教出	各単元巻頭の児童の大きな写真や吹き出しや先生の投げかけ等、単元を通し様々な活動や物事を紹介する写真や絵、クイズ形式の写真、「～図鑑」などで、児童が自分事として活動を捉えられるようになっている。
信教	身近な生活での体験や地域での活動（地域の自然や季節の行事など）を大切にできるよう、直接体験を通じた活動が行えるよう工夫されている。
光村	体験を広げ、繰り返し対象と関わり、気付きを自覚したり、関連付けたり、視点を変えて捉えたりすることで、気付きの質を高め、深い学びとなるように、「もっとやってみよう」を設定している。
啓林館	「体験活動の充実」に関連して、QRコンテンツを複数掲載し、学習意欲を高めるとともに、家庭で主体的に学習する際にも参考となるようにしている。
日文	学習したことを広げたり、関連づけて考えたりできるページがあり、体験活動を深められるような構成となっている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	巻頭が冊子になっており、円滑な接続につながる工夫と教師への参考となる「幼児期までに育てほしい姿」が掲載され、子供をみとる共通の物差しとして使用できる構成となっている。
大日本	幼児期に慣れ親しんだ遊びで仲間づくりを進めることや体験を想起させる投げかけにより安心して新たな環境になじめるような内容を上巻巻頭に取り上げている。
学図	巻頭に特設ページを設定し、校種間の接続が意識できる構成となっている。
教出	上はじめのスタートカリキュラムでは、幼稚園で身に付けた資質・能力を小学校で発揮する姿が対比して表現されており、幼稚園保育園と学校のつながりを示している。
信教	巻頭で家族や登校直前の写真、扉絵で学校生活の様子に触れることで、希望を持ち登校できるような構成となっている。
光村	「できる。」、「やってみよう。」という投げかけで児童のワクワクする気持ちと期待感を最大限に引き出す「スタートカリキュラム」ページを設けている。
啓林館	巻頭ページに幼・保の写真が複数使用されていて自己の成長を想起しやすく、学校間の接続にもつながりやすい構成となっている。
日文	上巻頭「いちねんせいになったら」では、学校の日、学習の様子、授業中のルール、身の回りの安全などが写真や絵と共に示されていて、安心して学校生活をスタートできるよう配慮されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	I C T機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して交流したり発信したりする学習活動の様子が例示されており、情報活用能力が育成できるように配慮されている。
大日本	学習活動の例示の中に伝達活動やI C T機器についての記載があり、情報機器の使用を意識できる構成となっている。
学図	情報活用の方法についての記載と学習の補助をするための工夫がある構成となっている。
教出	上下巻末の「まなびのポケット」には、身に付けたい情報活用能力が整理され、まとまっている。
信教	情報活用能力の育成に関して、I C T機器を活用して、情報を収集し、整理・分析して発信したりする学習活動の様子が掲載されている。
光村	各単元、情報を活用する活動する場面を随所に設け、その様子を絵や写真等で示し、情報活用能力を育成できるよう促している。
啓林館	学習のまとめ、表現について情報機器の使用に関する項目があり、情報活用能力につながる構成となっている。
日文	板書、話し合い活動、まとめの表現作品、発表の場面などの例が具体的に複数示している。巻末「ちえとわざのたからばこ」に身に付けたい情報活用能力が整理され示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	観察記録カード（みつけたよカード）の書き方を詳しく例示し、表現力の基礎や、科学的な見方・考え方の基礎を育むよう配慮されている。 （振り返り）カードや、表現作品が複数掲載されている。
大日本	身に付けたい資質・能力について、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」と対応するマークが記載されており、確認しながら学習を進めることができるよう配慮されている。
学図	「ものしりノート」で記録カードの書き方、巻末の「学び方図かん」で（上）カード（下）作文・手紙が、大きく表現作品を掲載するとともに、書き方のポイントが詳しく示されている。
教出	各単元はじめには、その単元で身に付けたい資質・能力と「まなびのポケット」の対応が記され、「まなびのポケット」で確認しながら学習を進めることができるよう配慮されている。
信教	絵本を読み進めるように単元が構成されており、活動のつながりが分かりやすいような構成がされている。
光村	上下巻ともイラストや写真が見やすく大きく、書かれている言葉も、端的で、分かりやすい。
啓林館	単元名や各欄などが定位置への配置され、学習活動を示す統一のマークが用いられている。学習活動ごとにページが色分けされている。
日文	観察のコツや各種技能のまとめが巻中と巻末に記載されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	友達と交流する吹き出しには解決策のヒントが書かれており、深い学びにつながる構成となっている。「ポケットずかん」を持って観察することで、気付きの質を高めることができる工夫がされている。
大日本	各ページの「風船の絵」に書かれたことが、本時の活動のめあてになっており、見通しをもって学習を進められるよう構成されている。
学図	単元毎に4段階の学習展開やそれぞれの活動の視点が持ちやすい投げかけがあり、子供が把握しやすい構成となっている。
教出	「まんぞくはしご」で、自分の学習の振り返りをするすることで、主体的な学びにつながり、それをくり返していくことで、深い学びにつながっていく。
信教	絵本形式で地域住民の生活に密着した写真・イラストなどで、自分事として学習を進める視点が持てる構成となっている。
光村	上下巻とも3段階での学習展開と単元ごとの振り返りが充実している。
啓林館	学んだことを活用する欄があり、生きた知識・技能につながる構成になっている。
日文	「ポケットずかん」が適所に設けられており、気付いたことをすぐに調べ理解が深まるよう設定されている。

⑩ 知識及び技能の基礎としての「気付き」や「生活上必要な習慣や技能」を育成する題材として、工夫や配慮がなされているか。	
東書	イラストを用い、年間を通した比較による気付きを生み出す構成となっている。リード文と会話文により気付きを引き出す構成となっている。
大日本	写真掲示の工夫により、気付きを引き出すページ構成となっている。 (並列、白黒、ズーム) 巻末「がくしゅうどうぐばこ」に、生活上必要な技能が複数提示されている。
学図	低学年の児童にも視覚的に分かりやすいよう、絵や写真が大きく掲載されている。
教出	左ページ上部にヒント、右ページ上部に巻末の「学びのポケット」がわかりやすい。比較できるように写真構成がされている。 右ページに「やくそく」がイラストと文字でわかりやすく示されている。
信教	単元最初のページが大きな写真やイラストで構成され、気付きを引き出す内容になっている。 絵や写真とともに詩を掲載し、詩からも気付きを引き出す内容になっている。
光村	上下巻を通して、茶色の枠で気付きの視点を視覚的に選べる構成になっている。 「どうすれば」のコーナーを特設し、技能や習慣につなげている。
啓林館	いぬや鳥のキャラクターが気付きのポイントとなっている。 小単元名が具体的でめあてをもちやすい。
日文	写真が比較しやすい構成になっている。巻末に技能をまとめる構成になっていて気付きの様子が関連付けられるような写真が載っている。

⑪ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉える題材として、工夫や配慮がなされているか。	
東書	インクルーシブな視点を挿絵で表現している。写真や挿絵を効果的に用い、身近な事物をとらえやすい内容構成となっている。
大日本	写真の工夫により、身近な人々や事物をとらえやすくしている。(ともだちがたくさん、地域、家族の写真) かかわる対象が明確となり、子どもがめあてをもちやすくなっている。
学図	視覚にとらえやすい配慮がなされていて、自分事として事物を感じとれる構成となっている。見出しや写真で対象をはっきりとさせ身近な人に注目する内容となっている。
教出	身近な事象と繰り返しかかわり、子どもに考えさせるような内容が取り上げられている。写真に外国の児童も掲載している。
信教	身近な風景の写真と行事の写真を例に挙げかかわりやすい内容になっている。身近な地域の様子が写真とともに表されている。
光村	多様な人とのかかわりを挿絵で表現している。挿絵が工夫されていて、身近な人々や年間を通しての人とのかかわりとらえやすい内容構成である。
啓林館	学んだことをより広げていく構成になっている。自分たちのまちのよさや安心を吹き出しであらわしている。
日文	高齢者の写真や挿絵を意図的に使用。年少期から身近な人々としてとらえる構成になっている。双方向のかかわりを表す写真を載せている。生活の中の気づきを吹き出しのことばで具体的に表現している。

⑫ 児童の興味・関心を喚起させるような題材として、「試す」、「見通す」などの工夫や配慮がなされているか。	
東書	「もっとよく動く」という目標をもって、活動できるように、「どうしたらいいのかな?」と、投げかけることでいろいろ試してみたいくなる工夫がされている。繰り返すことで特徴を捉え、先を見通した試行もできるようになる。
大日本	おもちゃづくりから発見したことや工夫したことを交流することで、次の活動で、「試す」「見通す」などの場面につながる。
学図	友達とのやり取りを通して、分析的に考える(見つける、比べる、例える)活動や創造的に考える(試す、見通し)活動を、友達とのやり取りを通して自然に行っている様子を絵や吹き出しで表現している。
教出	ページ右上のヒント欄で見つける、比べる、例える、試す、見通す、予測するなどの学習活動を繰り返し提示している。
信教	見開きの絵や扉絵で学習意欲を高めたり、見通しをもてる構成になっている。
光村	ポイントとなる視点を10文字とイラストで複数掲載している。
啓林館	身近な材料が使われ、どのように遊べばよいか試したり、工夫したりすることで、見通しももてるようになっている。
日文	様々な「ページたんけんたい」が登場し、気づきにつながると同時に、先を見通した活動のヒントになっている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。

東書	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき」や「なつがやってきた」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「どきどきわくわく まちたんけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
大日本	上巻は第1学年を対象として、「みんななかよし」や「なつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「わたしの町はっけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
学図	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき」や「あそびにいこうよ」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちたんけん あのの人に会いたいな」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
教出	上巻は第1学年を対象として、「わくわくどきどきしょうがっこう」や「きせつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちが大すきたんけんたい」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
信教	上巻は第1学年を対象として、「うれしいな いちねんせい」や「まぶしい なつ」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「わたしたちがすむ町」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
光村	上巻は第1学年を対象として、「あたらしい いちねんせい」や「あきといっしょに」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「まちをたんけん 大はっけん」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
啓林館	上巻は第1学年を対象として、「がっこうだいすき あいうえお」や「なつとなかよし」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「とび出せ！町のたんけんたい」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。
日文	上巻は第1学年を対象として、「いちねんせいになったら」や「きせつとあそぼう」など、学校生活や身近な自然などに関する単元、下巻は第2学年を対象として「町たんけん1-みんなでつかう場しょへ行こう-」などの身近な地域に関する単元などがあり、各単元とも偏りなく配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

東書	判型はA4判で、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
大日本	判型はA B判で、「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。
学図	判型はA4判で、「この教科書は、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。
教出	判型はA B判で、「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
信教	判型はA B判で、「この教科書は、必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。
光村	判型はA B判で、「特設コーナーの見出しなどには見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。
啓林館	判型はA B判で、「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。
日文	判型はA B判で、「この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と、表記されている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
大日本	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
学図	「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。各単元のマークやページ数が、学習活動ごとに色分けされている。
教出	「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。また、活動の「ヒント」や「やくそく」が、イラストとマークで示されている。
信教	必要な情報がより多くの人に伝わるよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。また、本文がすべて縦書きで書かれている。
光村	「児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、吹き出しで示している。
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。また、学習活動が色とマークで区別され、単元ごとにインデックス表示されている。
日文	「ユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。また、児童が考えるためのヒントやポイントを、ページの下にマークと色で示している。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	「夏のくらし」の中に、平塚市の「七夕まつり」の写真が掲載されている。
大日本	「つうがくろには あんしん あんぜんがいっぱい」の中に、横須賀市PTA協議会の「こども110番の家」のステッカーの写真が掲載されている。
学図	「まちのきせつ」の冬、「かく地のようす」の中に横浜中華街の「春せつ」の写真が掲載されている。
教出	「見つけたよ すてきなえがお あこがれのしごと」の中に、川崎市消防局の消防士の写真が掲載されている。
光村	「きせつだより」の春の中に、相模原市の「泳げ鯉のぼり相模川」の写真が掲載されている。
日文	ポケット図鑑「町のこともっと知りたい」の中に、川崎市の「こども110番」の看板の写真が掲載されている。

②	URL、二次元コード等の掲載の有無	東書	大日本	学図	教出
		1・2年	1・2年	1・2年	1・2年
②		有	有	有	有
		信教	光村	啓林館	日文
		1・2年	1・2年	1・2年	1・2年
		有	有	有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)									
発行者名	総冊数	上	下	3年	4年	5年	6年	3年	4年
東書	2	378	332						
大日本	2	297	304						
学図	2	351	322						
教出	2	293	292						
信教	2	308	258						
光村	2	333	247						
啓林館	2	324	292						
日文	2	273	266						

【資料Ⅰ】

教科種目名《音楽(音楽)》

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(音楽-3～音楽-5)を参照

発行者の略称	教出	書名	音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年において、仲間との遊びから音の強さや速さ、響きについて学習できるような題材が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「音のスケッチ」では子供のイラストの吹き出しにより、学び方の手順が示されている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、巻頭に掲載された様々な演奏家の言葉により、個性を尊重した表現の良さについて学ぶ機会が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、被災地での演奏経験を例に、人々を勇気づける音楽の力について考えさせる題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、協働活動を通してリズムを共感したり、音楽を楽しんだりできる題材が設定され、コミュニケーション能力の向上を図っている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「音のスケッチ」では音楽づくりや、音楽の構造について、仲間との対話を通して考える活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「学び合う音楽」の項目では、仲間と表現の工夫を深められるよう、学習の手順や話し合うテーマが例示されている。 □ 他教科との関連等について、歌唱・鑑賞活動の中で英語や算数などと関連させた題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動に関して「音楽のもと」「音楽を表すいろいろな言葉」では、表現や鑑賞の学習に活用するための「音楽の要素」に関する用語がまとめられている。 □ 日本の伝統音楽への関心を養うための基礎として、和太鼓の演奏法が掲載されている。また、わらべ歌についても紹介されている。 □ 体験活動に関して「音のスケッチ」では、音楽づくりの手順が示されている。また、指揮をすることで拍節感を感じ取る題材が設定されている。 □ 第1学年では幼児期に学んだ模倣や遊びの題材が設定されている。第6学年では、中学校の学習内容を「はってん中学」として示している。 □ 情報活用に関して、調べ学習の際に図書館やインターネットの活用を推奨しながら、その際のルールやマナーについて注意喚起している。 □ 発達の段階に応じたフリガナや、写真に重ねると説明が読める「透明シート」が学びの転換を可能にしている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「学びナビ」や「音のスケッチ」などの項目では、既習内容の振り返りができる。また、鍵盤ハーモニカの運指や音階の配色が区別されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 表現、鑑賞ともに第1・2学年での遊びなどの音楽と親しむ活動から、第5・6学年では思いや意図をもち、響きを感じ取る学習へと深まっていく。 □ 第3・4学年から伝統音楽の学習として祭囃子の鑑賞と、締め太鼓のリズムを体験できる。第5・6学年では箏や尺八から和楽器の響きを学び、篠笛の音色や奏法の学習へと発展させている。 □ 表現、鑑賞共に紙面右上に音楽の要素が示されている。巻末の「音楽のもと」には、音楽の要素をまとめて掲載している。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 主要部分と選択可能な部分の割合が明確に設定されている。一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞、と系統立てて学習する構成である。 □ 題材名、新出事項、学習目標が、全学年を通じて同じ位置に掲載されている。巻頭には演奏家の特集が掲載されている。 □ 第1・2学年はA B判、第3・4学年以降はA 4判と区別している。裏面に「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪音楽(音楽)≫

※詳細については、資料Ⅱ(音楽-3～音楽-5)を参照

発行者の略称	教芸	書名	小学生の音楽
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年の楽譜には、音の高低やリズムを理解し易いように、折れ線で表した図形楽譜が掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、歌唱表現を工夫する為のヒントが、キャラクターの発言で導かれている。 □ 「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、演奏家の言葉により、音楽が社会で担っている役割や人と音楽との関係について考える題材が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、音楽による地域貢献から、音楽と社会との関わりについて、考えるきっかけとなる題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「仲間と楽しく」という仲間づくりの題材が設定されており、コミュニケーション能力の向上を図っている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、音楽づくりでは仲間との学びあいが示されており、遊びをとおした歌唱により、表現を交流させる活動が示されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見通しを持った学習ができるよう、巻頭に掲載された「音楽の木」によって学習内容の系統性が示されている。 □ 他教科との関連等について、外国語を取り入れた教材が各学年に設定されている。第1・2学年では軽い運動を伴った題材も掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動に関して、板書例と共に学習内容が示されている。表現や鑑賞の題材には、気づいたことや感じたことなどを記入する欄が掲載されている。 □ 日本の伝統芸能や和楽器、童歌について、文化的背景や歌詞の意味が説明されている。併せて関連する手遊びも掲載している。 □ 日本音楽の体験学習として、和楽器の口唱歌や民謡の節回しが紹介されている。また音程感覚を養うための身体表現も例示されている。 □ 第1学年では導入として幼児期に学んだ表現活動が掲載され、第5・6学年になると、中学生に向けた「美しく響く発声」についての掲載がある。 □ 情報活用に関して、もくじ右下に「指導者・保護者の皆様へ」としてインターネット使用の際には保護者と一緒に利用するという記載がある。 □ 発達の段階に応じたフリガナが記載されている。写真上の楽譜の背景を白地にするなど、視認性を高めている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学年間の積み重ねを意識した題材が設定されている。器楽でのリコーダーの運指については、演奏者目線で見られる図が掲載されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 表現は第1・2学年の歌詞のみの記載から、第5・6学年では読譜に沿った表現になる。鑑賞では第1・2学年の「リズム」から「楽器の音色」「構成の聴き取り」へと深まる。 □ 第3・4学年から祭囃子から締め太鼓の奏法の習得が設定され、第5・6学年では雅楽や箏の音色を鑑賞し、和楽器の響きを味わう学習へと発展させている。 □ 表現、鑑賞共に紙面右下には音楽の要素が示されている。巻末の「振り返りのページ」でも一覧で掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「音楽の木」では、全ての領域で学びの関連性が学年ごとに描かれている。また、一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、と系統的に学習する構成である。 □ 文字や背景の色調などにユニバーサルデザインが施されている。学習目標が左上に掲載される形で統一され、他の文字よりも大きく表示されている。 □ 判型はA4判で、紙面は白地を基調としている。裏面に「子どもたちが無理なく取り組める音域や難易度に配慮して、教材を選択・開発しています」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《音楽（音楽）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年の表現では、音の強さや速さ、響きについて日常の行動や遊びから学習する題材が設定されている。
教芸	「知識・技能」の習得に関して、第1・2学年での表現・鑑賞では、音の高低や音色、リズムを理解し易いように図形楽譜が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、音楽づくりを学ぶ「音のスケッチ」での子どもの吹き出しが思考力、判断力、に関わる視点を提示している。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、歌唱表現を工夫する為のヒントが、キャラクターの発言で導かれている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、各学年の巻頭では様々なジャンルの演奏家の言葉によって、文化の固有性と私たち個人の固有性についても考える機会が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関して、著名人のコメントによって、音楽が社会の中で担っている役割を知ること、私と音楽との関わりについて考える機会が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
教出	被災地での演奏経験などから、人々を勇気づける音楽の力について、考えるきっかけとなる題材が設定されている。
教芸	音楽による被災地での復興や地域貢献活動について考えることで、自己の生き方や社会への貢献について考えさせる題材が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
教出	仲間との協働活動を通してリズムを共感したり、音楽を楽しんだりする教材が取り上げられ、コミュニケーション能力の向上を図っている。
教芸	各学年の前半の題材は「仲間と楽しく」というテーマで設定され、コミュニケーション能力の向上を図っている。 (第2学年は「〇〇しよう」というテーマが複数ある)
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
教出	各学年の「学び合う音楽」では表現方法について考えることで、どのように歌うかについて仲間と取り組むことができる。
教芸	音楽づくりでは仲間との協働活動とおした実践が紹介されている。特に低学年では相手の歌や動きをまねる、遊びをメインとした題材が掲載されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	「学び合う音楽」の項目では、仲間と表現の工夫を深められるよう、（第5学年23ページのように）学習の手順や話し合うテーマが例示されている。
教芸	見通しを持った学習ができるよう、巻頭に見開きで「木のイラスト」が描かれており、表現、鑑賞それぞれの系統性が「学びの地図」として示されている。

② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	「他教科との関連等」について、歌唱・鑑賞活動の中で英語や算数（第2学年60ページの九九の歌）などと関連させた題材が設定されている。
教芸	「他教科との関連等」について、外国語を取り入れた教材が各学年に設定されている。第1・2学年では軽い運動を伴った題材（63、68ページ）も掲載されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
教出	言語活動に関して「学びナビ」によって話し合い活動の進行が例示されている。また「音楽のもと」や「音楽を表すいろいろな言葉」などによって、「音楽の要素」を表す用語がまとめられている。
教芸	板書例が示されており、鑑賞では「気づいたこと、感じ取ったこと」を分類して記入する欄が掲載されている。また、曲を聴き比べた感想を発表する活動例が示されている。

④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
教出	日本の音楽に関連する単元では、太鼓の体験やリコーダーでの実践例が挙げられている。また、童歌に手遊びを取り入れている。
教芸	日本の伝統芸能や童謡について、文化的背景や歌詞の意味が説明されている。併せて童謡に関連する手遊びも掲載している。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
教出	「音のスケッチ」では、コードや音階の学習が設定されている。また指揮の体験をとおして2拍子と3拍子の違いを感受し、歌唱表現に関連付けられるような教材が掲載されている。
教芸	和楽器の口唱歌や民謡の節回しが紹介され、日本音楽に対する体験学習が充実している。また、音程感覚の基礎としてハンドサインを用いたり、風船の高さによってイメージさせる例も示されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
教出	第6学年では「はってん中学」というロゴで全休符を掲載し、鑑賞では雅楽や箏の取組を体験できるよう掲載されている。
教芸	第5・6学年では合唱の形態、男声パートの役割、変声期の発声方法について掲載されており、中学校へのつながりとしている。

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
教出	「情報活用」に関して、「日本の民謡（5年p37）」について、その役割を調べる際に図書館やインターネットの活用を推奨している。ルールやマナーについて注意喚起している。
教芸	「情報活用」に関して、もくじの右下には、二次元コードを参考資料に活用することを推奨しながら、「指導者・保護者の皆様へ」として、使用の際には保護者と一緒に利用する旨を掲載している。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
教出	発達の段階に応じたフリガナや、透明シートが設定してあることで学びの展開が可能。落ち着いた色調を使用することで、色覚の特性に応じた配色で印刷されている。
教芸	楽譜を白地にしたり、縦書きの歌詞を写真の無地の上に白抜きで文字で配するなど、色覚特性に対応した配色が工夫され、ユニバーサルデザインが使用されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
教出	「学びナビ」や「音のスケッチ」、「音楽のもと」といった項目によって、学年間での既習内容に系統性がある。鍵盤ハーモニカの運指や音階の配色が区別されている。
教芸	学年間で既習内容を積み重ねられるよう教材が設定されている。器楽では、リコーダーの運指がわかりやすいように奏者の視点で掲載されており、新出の運指は小口に掲載されている。

⑩ 表現や鑑賞の教材は、多様な音楽の中から、児童の発達の段階に応じて適切に選択されているか。	
教出	表現の学習では、前学年での既習内容を踏まえた教材が設定されている。また鑑賞では第1・2学年での身体表現を中心として音楽を感受する活動から、第5・6学年での曲想や構造を関連させて理解する学習へと、段階を追って設定されている。
教芸	第1・2学年の歌唱教材は、歌詞のみを読む歌唱から、第5・6学年では読譜を見て歌唱し、歌詞と音楽の要素の関連から表現方法を工夫する活動へと発展している。また、鑑賞では第1・2学年の遊びなどの「拍子の認識」から、打楽器など「楽器の音色を感受する」、オーケストラでは「曲の構成を理解する」学習へ内容が深まっている。

⑪ 我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に関する工夫や配慮。	
教出	お祭りや締め太鼓のリズムを楽しむ活動が体験でき、第5・6学年では箏や尺八から和楽器の響きを学ぶ。また篠笛の音色や奏法の学習へと発展させている。
教芸	身近な伝統楽器の音楽である太鼓や祭り囃子の体験が示されている。また雅楽や箏の音色を鑑賞することで、和楽器の響きを味わう学習が設定されている。

⑫ 表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞、【共通事項】の学習内容を相互に関連させながら取り扱う為の工夫や配慮。	
教出	表現、鑑賞共に紙面右上に音楽の要素が示されている。また巻末の「音楽のもと」では音楽の要素となる語句をまとめて掲載している。小口には新出の音符や休符が掲載されている。
教芸	表現、鑑賞共に紙面右下には音楽の要素が示されている。巻末の「振り返りのページ」には、本編と同様の部分が抜き出しで、一覧できるように掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	主要部分と選択可能部分との割合が対照的に掲載されている。また、学習をサポートする「学びナビ」や「音楽のもと」などもコンパクトに挿入されている。
教芸	「音楽の木」では、すべての領域における学びの関連性が、学年ごとに描かれている。また、第4学年（10～17ページ）のように一つの単元で歌唱、器楽、音楽づくり、と系統立てて学習する構成である。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
教出	全学年を通じて、巻頭には演奏家のメッセージが見開きで掲載されている。また、左上に題材名、右上には「音楽のもと」、右端には「新出事項」といった掲載のパターンが統一されている。
教芸	文字の色や背景の色調が細かく決められている。楽譜の背景は白地に統一されるなど、ユニバーサルデザインが施されている。また各ページの左上には学習目標が掲載され、周囲の文字よりも大きなフォントで強調されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	第6学年の「箱根八里」では、歌詞の意味が解説され、箱根山や杉並木、関所の写真が掲載されている。
教芸	第3学年の「富士山」では、芦ノ湖から見た富士山の写真が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	教出			教芸		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	有	有	有	有	有	有

③ 一冊ごとの重量（g）							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教出	6	172	172	204	196	204	196
教芸	6	178	178	181	181	181	181

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《**図画工作(図画工作)**》

※詳細については、資料Ⅱ(図工-3～図工-6)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	つながる思い
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、「くふうさん」というキャラクターの言葉で、形や色、方法や材料を知って工夫することができるように示している。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「ひらめきさん」というキャラクターの言葉で、試したり、見つけたりして、考えることができるように示している。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「こころさん」というキャラクターによる言葉で、楽しく活動し、他の児童とかかわることができるように示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第1・2学年上「こころのはなをさかせよう」では、6年生への感謝の思いや、入学してくる新1年生への歓迎の思いを表す題材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第5・6学年上下「つながる造形」では、技術の発達と表現の広がりや、中学進学や将来の自分の姿を想像する活動が示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3・4学年下「学校もりあげマスコット」では、学校全体を楽しませたり、掃除を手伝ったりするものをつくる題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第3・4学年下「へんてこ山の物語」では、児童同士でアイデアを出し合い、発想の能力を高め合う活動が示されている。 □ 他教科との関連では、第5・6学年下において、社会科の歴史学習と関連させた「龍を見る」という鑑賞題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、第1・2学年上の「まなびのしりょう『じぶんのさくひんにだいめいをつけよう』」では、題名を付けると、制作時の思いが伝わることを示している。 □ 各学年とも「みんなのギャラリー」のコーナーを設定し、我が国の伝統的な文化や伝統行事などで見られる作品、工芸作品が掲載されている。 □ 第3・4学年上「へん身だんボール」では、つくったものを身に付けて全身を動かす題材が設定され、作りだした作品で楽しむ活動につながっている。 □ 小中学校間の円滑な接続に関して、第5・6学年下「つながる造形『中学校生活に向けて』」では、中学生と活動したり中学生の作品を鑑賞したりする様子が示されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5・6学年上「Myキャラが動き出す」では、オリジナルキャラクターをつくり、情報機器を扱って動画をつくる題材が掲載されている。 □ すべての題材名の上に材料や用具がイラストと文字で示され、事前に準備をしておくものが、児童にとって理解しやすいように工夫されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材に、資質・能力の3つの柱に基づく「学習のめあて」が示され、めあてに対応する「ふり返り」を設定して掲載している。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材の題材名と主文が、題材の活動内容をイメージできるように示され、一人ひとりの造形的な見方・考え方を働かせた活動や作品が掲載されている。 □ 各題材名の上に、「ここでつかう主な材料や用具」がイラストと文字で示され、それらを使った多様な表現方法や作品が例示されている。 □ 第3・4学年下では、鑑賞活動から表現活動へ関連付け、作家の表し方のイメージの違いを自分の作品づくりに生かす「絵から聞こえる音」という題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の各内容(造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する)の題材が、同じような割合で設定されている。 □ 児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいよう、目次に題材の主なめあてをキャラクターで、内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)を色と形で示している。 □ 配色やフォントでユニバーサルデザインが採用されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名 ≪ 図画工作(図画工作) ≫

※詳細については、資料Ⅱ(図工-3～図工-6)を参照

発行者の略称	日文	書名	見つけて 広げて
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、各題材に児童の感覚や行為を大切にした目標設定を「手のひらマーク」を用いて示している。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各題材に児童が思いや考えを基に構想し、創造していくことを大切にした目標設定を「ハートマーク」を用いて示している。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各題材に児童が主体的に取り組む態度についての目標設定を「ふたばマーク」を用いて示している。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第5・6学年下「水の流れのように」では、「手で見る展覧会」が紹介され、盲学校の児童生徒との作品を通じた交流を掲載している。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、5・6年下「平和をつなげるかたち」では、表現には、見る人に平和や人権を考えるメッセージを伝える力があることを示している。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3・4学年上「みんなとつながる」では、「校内で」「野外で」「地域で」「家で」様々な人との造形活動を通じた交流を掲載している。 		
3 内容と構成	<p>≪ 教科・種目共通部分 ≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第3・4学年上「あの日あの時の気持ち」では、友だちと対話しながら表し、発想の能力を高め合う活動が掲載されている。 □ 他教科との関連では、第5・6学年下において、国語科(書写)と関連させ「墨と水から広がる世界」という墨を使って絵に表す題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、第3・4学年下の鑑賞題材「ポーズのひみつ」では、作品を鑑賞しながら、メモを書き込んだり討論したりする活動が紹介されている。 □ 各学年とも「教科書美術館」のコーナーが設定され、我が国の伝統的な文化や伝統行事などで見られる作品、工芸作品が掲載されている。 □ 第3・4学年上「ふき上がる風にのせて」では、吹き上がる風で動くものをつくり、動きを見てつくり変える題材が設定され、つくりだした作品で楽しむ活動につながっている。 □ 入学前と小学校の円滑な接続に関して、第1・2学年上の冒頭で、「いままでどんなことしてきたのかな」という言葉と共に、幼児の造形活動の写真を掲載している。 □ 情報活用能力の育成に関して、第5・6学年上「形が動く絵が動く」では、ものを少しずつ動かしたり、形を変えたりして撮影し、動画をつくる題材が掲載されている。 □ すべての題材の最後に「気をつけよう」と「かたづけ」の欄があり、児童が安全面や片付けへの意識づけができるように工夫されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材に、資質・能力の3つの柱に基づく「学習のめあて」が示され、めあてに対応する具体的な児童の姿を掲載している。 <p>≪ 各教科・種目独自の観点 ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ すべての題材において、造形的な見方・考え方を一人ひとりが発揮している姿を、活動の姿の随所に吹き出しの言葉を使って示している。 □ 各題材ページの左下に、「学習で使う主な用具」がイラストで示され、それらを使った多様な表現方法や作品が例示されている。 □ 第5・6学年下では、鑑賞活動から表現活動へ関連付け、作家ごとに異なる表し方に気付き、自分の表現に生かす「この筆あと、どんな空？」という題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の各内容(造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する)の題材が、同じような割合で設定されている。 □ 児童がどのような造形活動をするのか理解しやすいよう、目次に題材の内容(造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞)を色とマークで示している。 □ 配色やフォントでユニバーサルデザインが採用されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《図画工作（図画工作）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
開隆堂	キャラクター「くふうさん」によるアドバイスの言葉を示して、「知識・技能」の習得を図っている。 (例) 第1・2学年上14～15ページ「チョッキンパッドでかざろう」→くふうさん「はさみはからだのしょうめんてつかおう。」 (例) 第1・2学年下13ページ「ふしぎないきものあらわれた」→くふうさん「クレヨンが絵のぐをはじくよ。」
日文	題材ごとに手のひらマークを示し、見つけたり工夫したりするめあてが示されている。 (例) 第1・2学年上12～13ページ「ちょきちよきかざり」→手のひらマーク「きってできるかたちを見つけ、くふうしてつくる。」 (例) 第1・2学年下16～17ページ「ふしぎなたまご」→手のひらマーク「おもいにあうかたちやいろを見つけ、くふうしてあわす。」
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るため、キャラクター「ひらめきさん」によるアドバイスの言葉を示している。 (例) 第3・4学年上14～15ページ「ふくろの中には、何が・・・」→ひらめきさん「ふくろの中はどんな世界にしようかな。」 (例) 第3・4学年下12～13ページ「木々を見つめて」→ひらめきさん「感じたことから表したいことを見つけられたかな。」
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るため、題材ごとにハートマークを示し、感じたり考えたりするめあてが記載されている。 (例) 第3・4学年上10～11ページ「カラフルフレンド」→手のひらマーク「ざいりょうを組み合わせたかんじを見つけ、くふうしてつくる。」 (例) 第3・4学年下26～27ページ「わすれられない気持ち」→ハートマーク「表したい様子を思いうかべ、どのように表すのか考える。」
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
開隆堂	キャラクター「こころさん」によるアドバイスの言葉を示して「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図っている。 (例) 第5・6学年上21ページ「わたしのおすすめ」→こころさん「あなたのおすすめを形と色で伝えよう。」 (例) 第5・6学年下26～27ページ「みんなのお話始まるよ」→こころさん「伝えたいことを形と色で表そう。」
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図るため、題材ごとにふたばマークを示し、活動の中で楽しんでするめあてが記載され、学びを生活や社会に生かすための活動後のふり返りの言葉を、ふたばマークが輝くようなマークで示している。 (例) 第5・6学年下8～9ページ「絵の具スケッチ」→ふたばマーク「小さな紙に、よいと感じた場所やものをかくことを楽しむ。」→ふたばマークが輝くようなマーク「身の回りには絵に表したい場所がいっぱいあったよ。」

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
開隆堂	製作途中やできあがった作品を共に見たり、思いを伝え合ったりしている写真が随所に掲載されている。 第5・6学年上、45ページに、パラリンピックの選手のための陸上競技用車いすが掲載されている。
日文	製作途中やできあがった作品を共に見たり、思いを伝え合ったりしている写真が随所に掲載されている。 第5・6学年上、2ページに、アール・ブリュットの作品「電車」が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
開隆堂	参考作品だけではなく、製作途中の写真が掲載され、吹き出しにも友達とコミュニケーションをとりながら、自分の表現につなげられるような言葉が随所に書かれている。
日文	参考作品だけではなく、製作途中の写真が掲載され、吹き出しにも友達とコミュニケーションをとりながら、自分の表現につなげられるような言葉が随所に書かれている。

③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
開隆堂	自分自身や自分を取りまく環境をふり返り、よりよく生きるための題材や活動例が掲載されている。 (例) 第5・6学年下、44～45ページ、「平和と希望の願いをこめて」では、平和への願いをこめた作家の活動例や、地域の復興等に関わる子どもたちの活動例を紹介している。
日文	造形活動を通して、自己を見つめ直したり、社会とかかわったりできるような題材や活動例が掲載されている。 (例) 第5・6学年下、52～53ページ、「つくるって楽しい」では、アーティストの作品づくりよせる思いや考え方を紹介している。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
開隆堂	共同して活動していたり、対話していたりする学びの姿が、随所に取り上げられている。
日文	作品をつくりだす過程で、他者への積極的な言葉かけや他者との頻繁な交流の様子が、吹き出しを用いて随所に掲載されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
開隆堂	主に大切な学習のめあてごとに題材を設定し、巻頭の見開きページを使って1年間を見通せるように示されている。題材と他教科との関連が「あわせて学ぼう」として随所に示されている。
日文	資質や能力に関わる3つの目標をもとに、表現の各内容と鑑賞が1年間にまんべんなく設定され、「もくじ」に示されている。題材と道徳との関連がわかるように「ふくろうマーク」を設定し、随所に示されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
開隆堂	作品だけではなく、題名やその理由、工夫した点の解説などから、互いの表現のよさを言語活動を通して感じ取ることができる活動を取り上げている。
日文	全題材を通して、自分の作品を友だちに紹介するなど、児童の言語活動をしている様子が、写真や吹き出しの言葉で随所に掲載されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実を資する工夫や配慮	
開隆堂	水墨画や屏風など、表現や鑑賞を通して、わが国や外国の伝統文化に触れられるような題材が設定されている。地域の伝統行事や祭りの中の形や色に着目した写真が掲載されている。
日文	盆栽・焼き物・屏風・浮世絵・水墨画など、伝統的な芸術作品に触れられるようなコーナーが設定されている。古くから伝わる日本の伝統的な技法を伝えている。
⑤ 体験活動の充実を資する工夫や配慮	
開隆堂	作品を通して、社会に発信したり、外部から人を招いて造形活動をしたりする体験的な活動が紹介されている。学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。
日文	材料や場所とかかわる題材を取り上げ、全身の感覚を働かせる体験的な造形活動を紹介している。学年が上がっても、同じ材料に繰り返し触れる機会を設定している。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
開隆堂	図画工作の学習が中学校の美術科や技術・家庭科などの学習につながることを示されている。
日文	幼児期の造形活動の経験を想起させる題材や、中学校の技術・家庭へつながるような題材が示されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
開隆堂	第5・6学年上「Myキャラが動き出す」では、オリジナルキャラクターをつくり、情報機器を扱って動画をつくる題材や、デジタルカメラやタブレットを使ったり作品をプログラミングで動かしたりする題材が掲載されている。
日文	第5・6学年上「形が動く絵が動く」では、ものを少しずつ動かしたり、形を変えたりして撮影し、動画をつくる題材が掲載されている。インターネットの活用方法と留意点、著作権について示されている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
開隆堂	表現するときに、技能面で必要な情報が得られるように「造形の引き出し」というページが設定されている。
日文	表現するときに、技能面で必要な情報が得られるように「使ってみよう 材料と用具」というページが設定されている。
⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
開隆堂	全学年に共通するキャラクターを、各題材に登場させ、学習のめあてを伝えている。安全に活動するために気を付けることが、枠を設定し、随所に書かれている。
日文	全学年に共通するマークを、各題材名横の黒板内に表記して、学習のめあてを児童に伝えている。材料や遊具を扱うときの注意事項や片付けについて、マークを用いて示している。
⑩ 児童が造形的な見方・考え方を働かせながらつくりだす喜びを味わえるように、表現及び鑑賞の内容や題材は適切に取り上げられているか。	
開隆堂	どの題材においても、形や色に着目しながら、発想を広げ、造形活動をしている多様な活動例を示している。キャラクター「くふうさん」の学習のめあてに、形や色について取り上げている。
日文	どの題材においても、形や色に着目しながら、発想を広げ、造形活動をしている多様な活動例を示している。キャラクター「ちろたん」の言葉に、形や色について取り上げている。
⑪ 児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるよう、表現及び鑑賞の題材に、工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	様々な材料や用具、表現方法を選択することを繰り返して表した作品が随所に紹介されている。
日文	様々な材料や用具、表現方法、活動場所を使って表された作品が随所に紹介されている。
⑫ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「くふうさん」の言葉が示されている。表現しながら相互に鑑賞している姿が随所に掲載されている。
日文	〔共通事項〕の内容である形や色、イメージに着目できるようにキャラクター「ちろたん」を設定している。表現しながら相互に鑑賞している姿や対話が随所に掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
開隆堂	「造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する」それぞれの題材が、偏ることなく適切に配分されている。
日文	「造形遊び、絵に表す、立体に表す、工作に表す、鑑賞する」それぞれの題材が、偏ることなく適切に配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
開隆堂	水性ペンで書き込んでもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。
日文	水性ペンで書き込んでもはじかず、油性ペンで裏写りせず、耐水性を少しもつ用紙が使われている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
開隆堂	題材名のフォントが統一されていて、児童に理解しやすい配慮がされている。
日文	題材ごとに題材名の表し方を変え、児童が造形活動への興味や関心をもてるように工夫している。

【参考】

① ○神奈川の事例・作品：地域の美術館などの利用や連携（内容の取扱いと指導上の配慮事項⑧）	
開隆堂	第1・2学年上に横浜市の「サンセットパレード」の写真が掲載されている。神奈川県の実例・作品、美術館などの利用や連携の事例が、全学年に取り上げられている。
日文	第3・4学年上に相模原市の「さがみ風っ子展」の写真が掲載されている。神奈川県の実例・作品、美術館などの利用や連携の事例が、第3・4学年上巻以上に取り上げられている。

② ○URL、二次元コード等の掲載の有無						
	1・2年 上	1・2年 下	3・4年 上	3・4年 下	5・6年 上	5・6年 下
開隆堂	有	有	有	有	有	有
日文	有	有	有	有	有	有

③ ○教科書の重量（単位はグラム）						
(g)	1・2年 上	1・2年 下	3・4年 上	3・4年 下	5・6年 上	5・6年 下
開隆堂	213	214	214	214	213	214
日文	251	245	246	246	246	247

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<家庭(家庭)>>

※詳細については、資料Ⅱ(家庭-3~家庭-5)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい家庭
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、巻頭や巻末の「いつも確かめよう」が掲載され、基礎的技能についてまとめられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、各題材でステップ1・2で身につけた知識・技能を活用してステップ3で課題解決に取り組む活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」に関して、自ら課題を設定し、計画を検討し、実践、まとめ・発表、評価・改善をする形式が、複数箇所を設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、他者を尊重し思いやる力を育めるよう、家族や地域の人と関わる体験などの題材が、複数箇所設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食事の必要性や栄養に関する内容が系統的に繰り返し設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、家庭や地域で自分ができることを考え工夫するような題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、学習の流れが例示され、問題解決的な学習やふり返りを生活に生かすなどの展開につながる題材が随所に設定されている。 □ 他教科との学びのつながりに関して、英語や社会、理科、保健体育、道徳等と関連がある箇所に特別なマークが配置されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、授業で学んだ知識・技能を生かして課題を設定し、調べたことをレポートにまとめ、それを基に発表するような題材が随所に設定されている。 □ 伝統や文化に関して、衣・食・住などに関連する伝統的な日本文化が随所に取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、実習の際に確認しやすいように、文章による説明に加え、大きい写真が随所で提示され、詳しい手順が示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、既習事項や第5・6学年の学習内容、それ以降中学校での学びの継続が「山の図」で示されている。 □ 情報活用能力に関して、ICT機器を活用する場面などが、イラストや吹き出しなどで表示されている。 □ 児童の学習上の困難さに関して、見通しを立てやすくなるよう各題材の導入時にタイトル、リード文、ステップ1から3の学習の流れが例示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を必要な時に確認できるよう、巻末の「いつも確かめよう」に写真や図でまとめられている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「生活の営みにかかる見方・考え方」を働かせて生活を見つめるために、各題材の冒頭「家庭科の窓」で重視したい視点が示されている。 □ 第5学年で基礎的な知識・技能を学び、第6学年でさらに難度の高い知識・技能の習得につながるような実習題材が配列されている。 □ 学習の導入時において、身近な生活の場面で課題に気づくような写真やイラストが複数箇所、配置されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 実習や学習環境等の準備がしやすいよう、第5・6学年で指導内容を同時期に行うような配列がされている。 □ A4判で、表紙は防水加工になっている。開いた状態を保てる。 □ ユニバーサルデザイン教科書体を使用している。安全、防災、日本の伝統等に注目するための各種マークが設定されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名 <<家庭(家庭)>>

※詳細については、資料Ⅱ(家庭-3～家庭-5)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	わたしたちの家庭科
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、生活を見つめ、身につけた知識や技能を生活に生かせるよう、児童が想起しやすい場面が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「考えよう」「やってみよう」「話しあおう」など、知識・技能を活用し課題を解決する題材が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」に関して、習得した知識・技能を生活につなげる「できたかな」「ふり返ろう」「生活に生かそう」などの欄が各題材に設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、多様性を認め合い、思いやる心を育めるよう、地域で暮らす様々な人が紹介された題材が、複数箇所設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食事の大切さに関心を持ち、食生活を組み立て、生活に生かす題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、家庭や地域で自分ができることを考え工夫するような題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p><<教科・種目共通部分>></p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるよう、課題設定、知識・技能の習得、生活に生かす、の3ステップの学習と、他者と交流し考えを深めるコーナーが設定されている。 □ 他教科の関連と2年間の学習の見通しがもてるよう、冒頭に関連のある他教科や題材内容がイラストで示された、ガイダンスのページが設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、実践的・体験的な活動のなかで話し合いや思考、意見を述べるなどの場面が随所に設定されている。 □ 伝統や文化に関して、先人の知恵や工夫などの文化に気づくことができるよう、和食や住まいの工夫などが取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、実習の場面では手順を絵や写真、映像で確認できるよう設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、2年間の学習の最後において、知識・技能を確認するとともに、中学校での学習のつながりが図や写真を用いて示されている。 □ 情報活用能力の育成について、インターネットを活用した資料収集をする活動が設定されている。 □ 児童の学習上の困難さに関して、実習の見通しを持ち内容が理解しやすくなるよう、写真や図版等資料が手順に沿って左から右に掲載されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学習内容の理解を助けるために、根拠となる写真や図版、イラスト等資料が複数箇所に掲載されている。 <p><<各教科・種目独自の観点>></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「生活の営みにかかる見方・考え方」を働かせて生活を見つめるよう、四つ葉のクローバーのキャラクターにより重視する視点が示されている。 □ 知識・技能の定着を図るため、調理メニューを複数掲載するなど、実践的・体験的な活動実践例が随所に示されている。 □ 自ら課題を設定できるように、生活の様々な場面を想起し、着目したりできる写真やイラストが複数箇所で掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 題材が細かく設定されており、学校によって題材の組み換えがしやすい。 □ A B判で、表紙は防水加工になっている。開いた状態を保てる。 □ ユニバーサルデザイン教科書体を使用している。安全、防災、伝統文化等、注目するための各種のマークが設定されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《家庭（家庭）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	基礎的技能について、巻頭2ページや巻末130ページの「いつも確かめよう」にまとめられている。
開隆堂	自分の生活を見つめ、身につけた知識や技能を生活に生かせるよう、児童が想起しやすい場面が設定されている。（例 67ページ、89ページ、92ページ）
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	各題材とも3つのステップで構成され、1・2で身につけた知識・技能を活用してステップ3で課題解決に取り組む活動が設定されている。（例 78ページ…知識、80ページ…技能、85ページ…生活に生かす）
開隆堂	身につけた知識や技能を活用して、課題の解決に取り組めるよう、各題材に「考えよう」「やってみよう」「話しあおう」などの小課題が随所に設けられている。（例 60ページ、62ページ、63ページ）
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	課題解決学習を進める手順として、「課題の設定、計画、実践、まとめ・発表、評価・改善」が複数箇所、設定されている。（31ページ、61ページ、95ページ、115ページ、128ページ）
開隆堂	題材を通してできたことを実感し、将来に生かしていけるよう、「学習のめあて」「できたかな」「振り返ろう」「生活に生かそう」の欄が設定されている。（例 10ページ、14ページ、19ページ）

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	家族の一員として、家庭や地域とどのように関わっていけばよいかを考え、他者を尊重し思いやる心を育む題材「あなたは家庭や地域の宝物」(122～127ページ)などが設定されている。
開隆堂	多様性を認め合い思いやる心を育めるよう、周囲の人とのかかわりを考えたり、地域で暮らす様々な人を知ったりするような題材が設定されている。（例 72～74ページ、120～123ページ）
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	食事の大切さや栄養に関する内容を系統的に繰り返し学習する題材や、食事のマナーやほかの人と一緒に食べることの大切さが示された題材が設定されている。（40ページ、78ページ、106ページ）
開隆堂	毎日の食事の大切さに関心を持ち、実生活につながるような題材構成が設定されている。（48～56ページ食べて元気に）
③ [社会とかがわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	2年間の学習を通して身につけた力をもとに、家庭や地域で自分ができることを考えるような地域との関わりを見つける題材「あなたは家庭や地域の宝物」(122～127ページ)が、最後に設定されている。
開隆堂	地域に目を向け、地域の人々との関わり大切さに気づき、できることを実行していけるような題材「共に生きる地域での生活」(120ページ)が設定されており、地域の関わり活動の具体例が示されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	問題解決的な学習に取り組んだり、振り返りを生活に生かそうとする展開につながるよう、各題材の冒頭で学習の流れを明示し、見通しをもって学習を進めるような構成に設定されている。（例 14ページ、24ページなど）
開隆堂	課題を設定し、解決のための知識・技能の習得、さらに自分の生活に生かすなど、3つのステップで学習し、他者と交流し自分の考えを深める場面が随所に設定されている。（4、5ページで図示）

② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	家庭科に関係がある英単語が右下ページにイラストとともに記載され、次ページ左下に日本語が示されている。他教科や中学校とのつながりの内容が扱われている箇所に特別なマークが配置されている。(例 87ページ、93ページ、107ページ、122ページ)
開隆堂	冒頭、表紙裏に関連のある他教科の内容をイラストで示すとともに、2年間の学習の見通しがもてるようガイドンスのページ「はじめよう！家庭科」(1～2ページ)が設けられている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「物を生かして快適に生活しよう」(56ページ)では、調べたことをレポートにまとめ、それを基に発表するような言語能力の育成を図った題材が設定されている。
開隆堂	P91～93「クリーン大作戦」(91～93ページ)では、実践的・体験的な活動を通して、話し合いや思考、意見を述べるなどの言語活動ができる題材が設定されている。

④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	衣食住に関連する内容について、和食や手ぬぐいなど伝統的な日本文化を取り上げるとともに、注目させるため「日本の伝統マーク」が配置されている。(例 12ページ、57ページ、63ページ、94ページなど)
開隆堂	キャラクターの吹き出しのことば等から、先人の知恵や工夫などの文化に気づくことができるよう、和食や郷土料理、伝統的な民家や和服等が取り上げられている。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	P130「いろいろな切り方」のように文章による説明だけでなく、大きい写真を提示し、実習での詳しい手順を示している。
開隆堂	実習や製作場面では、手順を絵や写真、映像で確認できるように設定されている。(例 38～47ページなど)

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	自立した主体的に生きる力の育成を目指す家庭科の目標をふまえ、既習事項、5年・6年の学習内容、それ以降中学校での学びの継続を山の図で示している。(1～2ページ、73ページ、129ページ)
開隆堂	学習をふり返り、できるようになったことを確認し、中学校での学習とのつながりを意識するページが、図や写真を用いて示されている。(126～127ページ)

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	I C T機器を活用する場面などが、イラストや吹き出しなどで表示されている。(例54ページ、117ページ)
開隆堂	デジタルコンテンツによる情報の活用や、インターネットでの情報収集の仕方の具体例が示されている。(67ページ)

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	学習の見通しが立てやすいように、題材の導入時に、タイトル、リード文、ステップ1から3の学習の流れがわかるタイトルが示されている。(各題材 例 15ページ)
開隆堂	実習の見通しを持ち内容が理解しやすくなるよう、写真や図版等資料が手順に沿って左から右に掲載されている。(例 11ページ、22ページ)

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	「いつも確かめよう」(130～144ページ)に、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能がまとめられている。(包丁の扱い・針と布をもってぬう・布をたつ、を実寸大の写真、説明文、イラストで説明している。)
開隆堂	学習内容の理解を助けるために、根拠となる写真や図版、イラスト等資料が掲載されている。(例 88ページ、96ページ)

⑩ 生活の営みに係る見方・考え方を踏まえた内容となるよう、題材の工夫や配慮はなされているか。	
東書	巻頭で見方・考え方について説明し、「生活の営みにかかる見方・考え方」を働かせて生活を見つめるために、題材の冒頭「家庭科の窓」やキャラクターにおいて重視すべき点が示されている。(例 6、7ページ、10ページ、13ページ)
開隆堂	巻頭で家庭科の見方・考え方について説明し、4つの視点を踏まえて学習を進めていくため、キャラクターによって具体的に見方・考え方が示されている。(例 1ページ、31ページ、71ページ)

⑪ 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・及び技能の習得を図るために、実践的・体験的な活動を題材として工夫や配慮がなされているか。	
東書	基礎的な知識・技術を第5学年で学習し、第6学年でそれを生かしてさらに難度の高い技術の習得になるように題材が配列されている。(例 18ページ…ゆでる調理、112ページ…ゆでる調理と焼く調理の組み合わせ)
開隆堂	知識・技能の定着を図るため、自らの課題を設定しやすくなるような実践的・体験的な活動実践例が随所に示されている。(例86ページ、87ページ、89ページ)

⑫ 生活の中から問題を見出して課題を設定し、課題を解決する学習過程を工夫した題材として工夫や配慮がなされているか。	
東書	導入時において、身近な生活の場面で、課題に気づくような大きな写真やイラストが配置されている。(例 8ページ、50ページ、78ページ)
開隆堂	生活の様々な場面を想起させたり、着目させたりする写真やイラストがあり、自分なりに考えて課題を設定し、計画を検討し、実践・振り返りをする形式が設定されている。(例 28ページ、58ページ)

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	複式学級や実習、学習環境等の準備がしやすいように、第5・6学年で時期により指導内容を同時期に行うような配列がされている。(裏表紙～2ページ)
開隆堂	題材が細かく設定されており、学校によって題材の組み換えがしやすい。内容Aは、5つに分けて配列されている。(1～2ページ)

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	A4判で、表紙は防水加工になっている。開いた状態を保てる。
開隆堂	A5判で、表紙は防水加工になっている。開いた状態を保てる。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	ユニバーサルデザイン教科書体を使用している。安全、防災、日本の伝統等に注目するための各種マークが設定されている。(5ページ)
開隆堂	ユニバーサルデザイン教科書体を使用している。安全、防災、伝統文化等、注目するための各種のマークが設定されている。(3ページ)

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
開隆堂	地域のおやつとして、「へらへらだんご」が掲載されている。(75ページ)

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			開隆堂		
			5・6年			5・6年
			有			有

③ 一冊ごとの重量 (g)										
発行者名	総冊数	1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5・6年
東書	1									342
開隆堂	1									309

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《保健(保健)》

※詳細については、資料Ⅱ(保健-6～保健-13)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい保健
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元ごとの「豆知識」コーナーで必要な知識を補いながら、学習の最後には穴埋めでのまとめが設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、見通しをもって思考することができるように、「ステップ1～ステップ4」で学習の流れが示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、これからの生活につながるように「ステップ4」の最後に「まとめる・生かす」という活動が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、命の大切さや自己の成長について学習できるように、赤ちゃんの写真や実物大の手形、靴の写真が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から、給食の栄養バランスについて、写真を中心とした説明がある。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域貢献活動の観点から、胸骨圧迫とAEDの説明が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が学習の流れをつかみ、見通しをもって学習を進める手立てとして、「ステップ1～ステップ4」の学習が設定されている。 □ 他教科との関連等に関して、「つなげようマーク」によって、教科等横断的に学習を進める配慮が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、自分ごとと捉えて思考することができるように、自己の立場を明確にして取り組む活動が取り上げられている。 □ 伝統文化に関して、体の発育・発達のまとめの資料の中に、おにごっこや雪合戦といった昔ながらの遊びが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、「心の健康」の最後に、自分の気持ちを伝えるロールプレイによる学習活動が設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、中学校で学習する「がん」の予防について考えることができるよう、「がん」ができた大腸の写真が例示されている。 □ 情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、児童が見通しをもって学習を進められるよう、「ステップ1～ステップ4」の学習が設定されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の初めに、学習の流れと最終的な目標をイラストにより明示する構成をとっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ データの信頼性に関して、グラフ等の資料は年、出典ともに掲載されている。 □ 身近な生活課題を見つける工夫に関して、自己の課題を見つけることができるように、チェックシートがあり、自分の生活をチェックすることができるよう設定されている。 □ 生涯にわたっての態度を養う工夫に関して、学んだことをこれからの生かす態度を養えるように、ステップ4にて「まとめる・生かす」コーナーが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で、「鉛筆等による筆記適正(書きやすさ)が高く、耐久性に優れ、軽量の紙を開発し、使用しています。」と表示されている。 □ 文章表現や図版等に関して、学習の課題や方法等が、「ステップ1～ステップ4」によって示されている。 		

【資料Ⅰ】

教科種目名《保健(保健)》

※書名の表記は第6学年のものに統一

※詳細については、資料Ⅱ(保健-6～保健-13)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい保健
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童にとって理解しやすいように、運動・食事・休養・睡眠の関係が見開き2ページにわたって整理され掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、表現力を高められるように児童同士で話し合う場面が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、これからの生活や、社会につながるように、「もっと知りたい・調べたい」コーナーを設け、様々な資料が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点からの学習として、エイズに関する正しい理解と、共に生きていく大切さについて掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、健康教育の観点からの学習として、自分の生活をチェックする項目が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域貢献活動の観点からの学習として、安全マップを作成し、地域や家庭にも生かしていくようにする態度を養う項目が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、その手立てとして、学習の導入時にイラストの中の人物について考える「学習ゲーム」が設定されている。 □ 他教科との関連等に関して、既習事項をふり返る吹き出しや理科等の学習との関連事項が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童が自分の考えを伝えられるように、「話し合ってみよう」という項目が随所に設けられている。 □ 伝統文化に関連して、成長を祝う行事の中で、お食い初め、七五三、節句、成人式に関する説明が掲載されている。 □ 体験活動の充実に関して、「けがの防止」の中で、学校の周囲の「ひやり」「ハッと」を記録する活動が設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、中学校第2学年で学習する自然災害から身を守ることにについて考えられるように、様々な被害の写真が掲載されている。 □ 情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、学んだ事をふり返るために、「単元のまとめ」で、シールを貼る活動が設けられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 系統的に学んでいかれるよう、導入の「学習ゲーム」の中にいる人物が、単元の途中にもくり返し、掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ データの信頼性に関して、グラフ等の資料は年、出典ともに掲載されている。 □ 身近な生活課題を見つける工夫に関して、地域の生活課題を見つけるために、学校の周りの「ひやり」や「ハッと」を探す活動が設定されている。 □ 生涯にわたっての態度を養う工夫に関して、これからの生活に生かす態度が養えるように、「単元のまとめ」では、活用したり、深めたりする項目が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。 □ 判型はA B判で、「環境に配慮した紙と植物油インキを使用し、表紙は丈夫で汚れにくくなるよう加工しています。」と表示されている。 □ 文章表現や図版等に関して、学習内容について、見開きのイラストで随所に取り上げられている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《保健(保健)》

※詳細については、資料Ⅱ(保健-6～保健-13)を参照

発行者の略称	文教社	書名	わたしたちの保健
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、各単元で学ぶ知識が色つきの枠内にまとめられており、キーワードはさらに太字で表記されている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、自分で考え、自分の言葉で表現できるように、各単元末に「〇〇宣言」のページが設定されている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、これからの生活につなげる意欲を高めることができるように、各単元末に「〇〇宣言」のページが設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、命の大切さについてより身近に感じることができるように、母親と赤ちゃんの関係について、第4学年の児童の文章が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、健康教育の観点からの学習として、生活習慣と新体力テストの関連が、グラフを示しながら取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連し、地域貢献活動の観点からの学習として、自助・公助・共助について様々な写真が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、各単元のまとめに「〇〇宣言」が設定されている。 <input type="checkbox"/> 他学年との関連等に関して、第3・4学年と第5・6学年の学習を関連させるよう、解説が設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力の育成に関して、児童が自分の考えを伝えられるように、単元のまとめとして「〇〇宣言」を考え、発表する活動が設けられている。 <input type="checkbox"/> 伝統文化に関連して、バランスのよい食事に関する発展的な取り扱いとして、郷土料理が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実に関して、体の発育・発達のためとして、毎日の生活の中で続けていける運動の例示が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、「思春期の体の変化」について考えるため、「中学1年生で初経があった」「中学2年生で精通があった」というコメントが掲載されている。 <input type="checkbox"/> 情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、単元のまとめとして、「〇〇宣言」で自分の考えをまとめるために、具体的な例示が複数表示されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 児童にとって分かりやすくなるように、自己の生活についてチェックをしてふり返るところから、学習が始まるように設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> データの信頼性に関して、グラフ等の資料は年、出典ともに掲載されている。 <input type="checkbox"/> 身近な生活課題を見つける工夫に関して、自己の課題を見つけるために、学習したことを基に、自分のこととして考える項目が随所に設定されている。 <input type="checkbox"/> 生涯にわたっての態度を養う工夫に関して、学んだことを生涯に生かす態度を養うことができるように、まとめとして、毎回「〇〇宣言」が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。 <input type="checkbox"/> 判型はA4判で、「この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集されています。また、再生紙、植物油インキを使用しています。」と表示されている。 <input type="checkbox"/> 文章表現や図版等に関して、児童の理解を深める手立てとして、大切な言葉が太字で表示されたり、まとめの文章が色付きの枠で囲んで表示されたりしている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《保健(保健)》

※詳細については、資料Ⅱ(保健-6～保健-13)を参照

発行者の略称	光文	書名	小学保健
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習の最後に知識を確認できるように、「学習のまとめ」の中で、選択形式で言葉の穴埋めをする活動が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が思考しやすいように、児童の視点で、問いの投げかけが随所に設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童の意欲を高めることができるように、「栄養士に聞く」等の専門家からの意見が随所に掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、「共に生きる社会のために」として、ヘルプマークやマタニティマーク等の写真及び説明が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点からの学習として、スポーツ選手の例や、国立スポーツ科学センターの方の話が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域貢献活動の観点からの学習として、社会に生きる一人としての意識を高められるよう、津波避難についての解説が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、その手立てとして、巻頭に「何のために」「何を」「どのように」学ぶのが例示されている。 □ 他学年との関連等に関して、学習の系統性を明確にするため第3・4学年では第5・6学年の内容を、第5・6学年では第3・4学年の内容が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童が自分の考えを伝えられるように、学習活動の中に積極的に「話し合おう」が設けられている。 □ 伝統文化に関連して、「健康な生活」の最後の「さらに広げよう・深めよう」コーナーにて、ケン・ケン・パやおにごっこといった昔ながらの遊びが取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、「さらに広げよう・深めよう」コーナーで体験活動につながる資料が複数掲載されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、中学校で学ぶ「感染症の予防」について考えるために、様々な感染症について、新聞記事等と共に掲載されている。 □ 情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。 □ 児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、学習を始める前に、どうやって学んでいくのかを理解するために、学習の進め方が具体的に説明されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童にとって理解が深まるように、単元の途中やまとめの前に、「さらに広げよう・深めよう」のコーナーが複数に設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ データの信頼性に関して、グラフ等の資料は年、出典ともに掲載されている。 □ 身近な生活課題を見つける工夫に関して、単元のはじめに、学習内容を把握するため、児童の生活に寄り添った4コマ漫画が設定されている。 □ 生涯にわたっての態度を養う工夫に関して、児童がこれからの生活に必要な知識を取り入れられるように、単元末には見開き2ページ分の資料が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。 □ 判型はA4判で「専門家の指導のもと、特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとしています。」と表示されている。 □ 文章表現や図版等に関して、児童の気づきを促したり、理解を深めたりする手立てとして、顔が大きくて表情が明確に示されたイラストが掲載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《保健(保健)》

※詳細については、資料Ⅱ(保健-6～保健-13)を参照

発行者の略称	学研	書名	みんなの保健
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、知識の裏付けと補足ができるように「かがくの目」コーナーと「ことば」コーナーが設定されている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、思考しやすくなるように、具体的な例示が随所に掲載されている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、生活につなげることができるように、学習のまとめで、「ふり返る→深める→つなげる」という項目が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関連して、共生の観点からの学習として、様々な人がいることに気付くよう、心の悩みを考える学習や、よいところを探す活動が設定されている。 <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関連して、運動・食事・休養・睡眠の改善取組例として、様々な地区の写真が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関連して、地域貢献活動の観点からの学習として、けがの手当の部分にて、小学生でもできる救急の通報の仕方が明示されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びとなるように、その手立てとして、学習内容を明確にするための様々なマークが設定されている。 <input type="checkbox"/> 他教科との関連等に関して、他教科の学習も健康に関係していることに気付くよう「関連」マークが設定されている。 <p>○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語能力育成に関して、児童が自分の考えを伝えられるように、「教えあう・学びあう活動」マークが随所に設定されている。 <input type="checkbox"/> 伝統文化に関連して、「いろいろな運動・スポーツをしよう」の中で竹馬で遊ぶ児童の写真が掲載されている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実に関して、「心の健康」のまとめとして、自分の気持ちの伝え方のロールプレイでの学習活動が設けられている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、中学校第2学年の「がんの予防」で学習する「がん」について考える学習が、発展として1ページをつかって掲載されている。 <input type="checkbox"/> 情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さに応じた工夫に関して、各単元の最後に学習のふり返りができるように、3段階の表情によるチェック欄が設定されている。 <p>○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 2年間で学習したことや、次の学年への見通しをもてるように、自分の考えを記入する箇所が設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> データの信頼性に関して、グラフ等の資料は年、出典ともに掲載されている。 <input type="checkbox"/> 身近な生活課題を見つける工夫に関して、生活リズムの見直しについて考えるために、1ページ分の学習シートが設定されている。 <input type="checkbox"/> 生涯にわたっての態度を養う工夫に関して、自分の生活につなげられるように、学んだことを教え合ったり、発表したりする場面が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。 <input type="checkbox"/> 判型はA4判で、「この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と表示されている。 <input type="checkbox"/> 文章表現や図版等に関して、児童の思考を促すための役割に応じたキャラクターが設定されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《保健（保健）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「豆知識」コーナーで知識を補いながら、単元の最後にまとめとして穴埋め形式で知識を確認するように設定されている。また、手についた菌が体に入る仕組みが具体的に記載されている。
大日本	運動・食事・休養・睡眠の関係について見開き2ページにわたって掲載されている。また、単元のまとめで知識の確認が設定されている。全見開きに「ミニ知識」として知識が掲載されている。
文教社	知識の習得のために知識が色つきの枠内にまとめられており、キーワードはさらに太字で記載されている。また、「情報」コーナーにて知識の裏付けが掲載されている。
光文	学習のまとめの中で、選択形式で穴埋めし、知識の確認をする場が設定されている。キーワードが太字で強調し表示されている。また、骨の成長については具体的に記載されている。
学研	「かがくの目」コーナーと「ことば」コーナーにて知識の裏付けと補足が掲載されている。また、「もっと知りたい・調べたい」コーナーにて知識が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	学習の流れが見やすく、見通しをもって思考するように設定されている。記述欄も複数設けられている。自分ごととして思考する場面が随所に設定されている。
大日本	仲間と話し合う場面が随所に設定されている。思考しやすくするために見開きにまとめられているページが複数設定されている。
文教社	単元末に「〇〇宣言」のページがあり、自分で考え、自分の言葉で表現するように設定されている。また、不安や悩みの対処についてのページが複数設けられている。記述欄が随所に設定されている。
光文	細かな吹き出しが随所に設けられており、児童の視点で分かりやすい問いの投げかけがある。また、思考から話し合いまでの流れが明確に設定されている。記述欄が広く設定されている。
学研	例示が具体的であり、思考しやすくなるように設定されている。また、まとめ部分にてこれまでの内容を振り返り、記述する欄が設けられている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	各項を「ステップ1」～「ステップ4」で構成し、「ステップ4」の最後に、これからの生活につながるような投げかけが設定されている。また、学習内容に関連した、資料のページが掲載されている。
大日本	「もっと知りたい・調べたい」コーナーを設け、これからの生活や、社会につながる資料が掲載されている。まとめのページで学習の振り返りをした後に、「これからの自分の生活に生かそう」という活用が設定されている。
文教社	「〇〇宣言」というまとめで、これからの生活につなげる意欲を高める項目が設定されている。「新しい自分にレベルアップ」というコーナーで、これからの生活に生かそうという態度を育てる項目が設定されている。
光文	専門家からの意見欄が複数あり、意欲を高めるように設定されている。また、学習のまとめで自分の生活に生かす項目が設けられている。
学研	学習のまとめで、「ふり返る→深める→つなげる」という流れで、生活につなげる項目が設けられている。教科書の最後のページに2年間の学びを振り返り、これからの生活につなげるための項目が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	赤ちゃんの写真と実物大の手形と靴の写真が記載されており、命の大切さや自己の成長について取り上げられている。ユニバーサルデザインについても大きく取り上げられている。例示される人物に、みんな違いがあり、人によって成長は異なることが表示されている。
大日本	ユニバーサルデザインについて大きく取り上げられている。
文教社	母親と赤ちゃんの関係について、同じ第4学年児童の文章を掲載し、より身近に感じることができるように取り上げられている。また、体の発育・発達という単元の導入において、命のつながりについての記載がある。異性同士の理解について複数掲載されている。
光文	裏表紙に「共に生きる社会のために」という内容でヘルプマークやマタニティマーク等の写真及び説明が掲載されている。表紙の裏にパラリンピアン写真と本人の文章を大きく取り上げている。異性に対する悩みや関心の違いが掲載されている。
学研	具体例が複数あり、その中で様々な人物が取り上げられている。また、「もっと知りたい・調べたい」コーナーの中で、かけがえのない命が掲載されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	給食の栄養バランスについて、写真を中心に説明がある。また、睡眠と発育に関して大きく取り上げられている。
大日本	健康に対する意識を高めるために、自分の生活をチェックする項目が設けられている。日本の伝統的な行事の部分にて、健やかな成長を祝う記載がある。
文教社	生活習慣と新体力テストの関連をグラフを示しながら大きく取り上げている。地産地消を強調して取り上げている。食べ過ぎに関しても注意を促し取り上げている。健康意識を高めるために、チェック項目を複数設けている。
光文	食事の大切さについて、スポーツ選手の例が取り上げられたり、国立スポーツ科学センターの公認スポーツ栄養士の方の話が取り上げられたりしている。また、スマートフォンやタブレットの使い方と生活リズムについて1ページにわたり大きく取り上げられている。発展内容として、スポーツ障害(野球ひじ・オスグッド病)の記載がされている。
学研	運動・食事・休養・睡眠の改善取組例として、様々な地区の写真例が掲載されている。栄養のバランスについての理解を深めるために、自分たちの給食についても考えさせる項目が設定されている。発展として早寝・早起き・体温の関係についてグラフが例示し取り上げられている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	AEDの説明も含め、応急救護の方法を大きく取り上げることで、地域や社会に貢献できる力を育てるよう設定されている。また、年齢にともなって広がってくる様々な人との関わりを、イラストを用いながら大きく分かりやすく掲載している。
大日本	心のはたらきと発達に関して、0歳から第5学年までの心の発達及び自己の成長が、横軸にシンプルに表示し掲載されている。また、安全マップを作成し、地域や家庭にも生かしていくようにする態度を養う項目が設定されている。
文教社	心の成長について、発達段階に分けて記載されており、2ページ見開きで大きく掲載されている。また、自助・公助・共助について様々な写真が掲載されており、その大切さについて強調して表示されている。
光文	自然とのふれあいや地域貢献活動等、全て写真を用いて掲載されている。また、「豆知識」コーナーにて津波避難について補足しており、社会に生きる1人としての意識を高められるよう設定されている。
学研	横須賀市の募金活動の写真が例示されており、ボランティア活動の大切さについて掲載されている。また、けがの手当の部分にて、救急の通報の仕方について、小学生でもできるように表示されている。さらに、「みんなの健康を守る様々な仕事」として社会に貢献している様々な仕事が掲載されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	他の人の話を聞いて、考えたことや分かったことを記述する部分が設けられている。また、児童が学習の流れをつかみ、見通しをもって学習を進める手立てとして、ステップ学習①～④が設定されている。
大日本	主体的に学習に取り組む手立てとして、思考する場面で「あなたならどうするか。」という視点が複数設けられている。また、主体的・対話的に児童が取り組む手立てとして、導入の学習ゲームが設定されている。
文教社	児童が主体的に、対話的に取り組む手立てとして、単元のまとめに「〇〇宣言」が設定されている。また、児童が主体的に考えていく手立てとして、「あなたならどうする。」という項目が複数設定されている。
光文	児童が見通しをもって主体的に取り組む手立てとして、はじめに学習の進め方が大きく取り上げられている。また、主体的に取り組むための手立てとして、理解を深めたり、興味を高めたりする補助動画が複数設定されている。
学研	児童が主体的に取り組む手立てとして、様々なマークが設定されており、内容が明確に表示されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	他教科との関連等に関して、「つなげようマーク」によって、教科等横断的に学習を進める配慮が随所に設定されている。
大日本	他教科との関連等に関して、既習事項をふり返る吹き出しや理科等の学習との関連事項が随所に設定されている。
文教社	他学年との関連等に関して、第3・4学年と第5・6学年の学習を関連させるよう、解説が設定されている。
光文	他学年との関連等に関して、学習の系統性を明確にするため第3・4学年では第5・6学年の内容を、第5・6学年では第3・4学年の内容が示されている。
学研	他教科との関連等に関して、他教科の学習も健康に関係していることに気付くよう「関連」マークが設定されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	言語活動の充実に向けた手立てとして、自分ごとと捉えて思考する場面が複数設定されており、立場を明確にして取り組む活動が取り上げられている。また、実験の結果から考えて、話し合い、解決を目指す流れが設定されている。
大日本	言語活動の充実の充実に向けた手立てとして、「話し合ってみよう」という項目が随所に設けられている。また、自分の考えをもつための手立てとして、話し合うための材料が、見開きで示されていることが複数ある。
文教社	言語活動の充実のために、単元のまとめとして「〇〇宣言」を考え、発表する場面が設けられている。また、児童が見通しをもって学習を進める手立てとして、第5・6学年においては、「あなたならどうする。」という問いが徹底して設定されている。
光文	学習活動の中に積極的に「話し合おう」が設けられており、また、学習のまとめにも「生かそう・伝えよう」が設けられている。
学研	児童がどこで何をするのかといった見通しをもつ手立てとして、マークを活用して言語活動の場面が表示されている。また、話し合いの手立てとして、例示が具体的に掲載されている。

④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	「健康な生活」の導入場面にて、仙台七夕まつりの写真が大きく掲載されている。また、体の発育・発達のまとめの資料の中に、おにごっこや雪合戦といった昔ながらの遊びが取り上げられている。
大日本	成長を祝う行事の中で、お食い初め、七五三、節句、成人式に関する説明が示されている。また、補足として、日本語の中には体の部位を含めている言葉があることが示されている。
文教社	バランスのよい食事に関する発展的な取り扱いとして、徳島県の郷土料理が取り上げられている。また、体を動かす気分転換の運動例として、昔から伝わる遊びが取り上げられている。
光文	「健康な生活」の最後の「さらに広げよう・深めよう」コーナーにて、ケン・ケン・パやおにごっこといった昔ながらの遊びが取り上げられている。また、よりよい発育のために、無理なく続けられる運動として竹馬が取り上げられている。
学研	「いろいろな運動・スポーツをしよう」の中で竹馬で遊ぶ児童の写真が掲載されている。また、体の発育・発達の「もっと知りたい・調べたい」コーナーの中で手つなぎおにごっこが取り上げられている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	「心の健康」の最後に、自分の気持ちを伝えるロールプレイが設定されている。また、自分の生活リズムをチェックする活動のワークシートとして半ページ分掲載されている。
大日本	「けがの防止」の中で学校の周囲の「ひやり」「ハッと」を記録する活動が設けられている。また、全体的に教科書に線を引いて学習内容を整理したり、シールを活用したりと活動場面が複数設けられている。
文教社	体の発育・発達のまとめとして、「もっと知りたい！」コーナーで毎日の生活の中で続けていける運動の例示が取り上げられている。また、虫歯予防として歯垢のチェックページが設定されている。
光文	「さらに広げよう・深めよう」コーナーで体験活動につながる資料が複数掲載されている。
学研	「心の健康」のまとめとして、自分の気持の伝え方のロールプレイが設けられている。また、「病気の予防」のまとめの中においても、飲酒・喫煙の断り方のロールプレイが設けられている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	発展としてインターネットによる犯罪について、4コマ漫画形式で、また、がんの予防について、がんができた大腸の写真为例示するなど詳しく掲載されている。
大日本	中学校1年生で学習する睡眠について、成長ホルモンと睡眠の深さについて関連付けて示されている。また、中学校第2学年で学習する自然災害から身を守ることに、様々な被害の写真を基に詳しく掲載されている。
文教社	「思春期の体の変化」の中で、お母さん、お父さんのコメントとして「中学1年生で初経があった」「中学2年生で精通があった」といった掲載がある。また、喫煙や薬物乱用に関して、発展的な内容として取り上げられている。
光文	「けがの手当」の発展として、熱中症の手当のしかたや予防のしかたが詳しく掲載されている。また、「感染症の予防」の発展として、様々な感染症について、新聞記事等と共に掲載されている。
学研	中学校第1学年の「休養と健康」で学習する睡眠について、発展としてグラフを示しながら掲載されている。また、中学校第2学の「がんの予防」で学習する「がん」について、発展として1ページをつかって大きく掲載されている。

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。
大日本	情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。
文教社	情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。
光文	情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。
学研	情報の活用力の育成に関して、動画などの資料を活用して、学習を進める手立てが記載されている。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	ステップ学習①～④と設定しているため、児童が学習の流れをつかみやすく見通しをもって学習を進めるよう設定されている。また、インターネットによる犯罪被害を4コマ漫画形式で分かりやすく表示している。
大日本	各単元の導入で、人物を探すといった学習ゲームが取り入れられている。また第3・4学年のまとめでは、シールを貼ることで学んだ事を振り返られるような活動が設けられている。
文教社	つぶやきくんがページ下でつぶやいている事で、知識として覚えることが明確に取り上げられている。また、単元のまとめとして、「〇〇宣言」で自分の考えをまとめる際に、具体的な例示が複数表示されている。
光文	わたしと健康というテーマで、有名スポーツ選手の言葉が、写真と共に掲載されている。また、学習を始める前に、どうやって学んでいくのかといった、学習の進め方が具体的に例示されている。
学研	単元の学習の振り返りを、3段階の表情でチェックするように設定されている。また、マークの種類が複数あり、至るところに表示されている。

⑨ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	単元の初めに、学習の流れと最終的な目標がイラストの中に掲載されている。また、大きな写真（見開き2ページ）から導入し、ステップ1で、メモ欄に気づいたこと等を書き込むところからスタートするように設定されている。
大日本	導入の学習ゲームの中に掲載されている人物や状況が、単元の中にも登場し、関連付けられるように示されており、興味関心を高め、意欲的に取り組めるように設定されている。
文教社	チェックをして自分を振り返るところから、学習が始まるように設定されている。また、単元のまとめとして、毎回「〇〇宣言」をし、理由を発表するように設定されている。
光文	これからの学習で何を考え、何を学ぶのかを4コマ漫画として掲載し、単元の途中やまとめの前に、「さらに広げよう・深めよう」のコーナーが複数設けられている。また、穴埋めをしてまとめ、振り返られるようにページ数が表示されている。
学研	各単元の表紙に、吹き出し形式で、どんなことを学習してみたいか、子どもたちの言葉で具体的に示されている。また、2年間で学習したことや、次の学年への見通しを持てるように、自分の考えを記入する箇所が設けられている。

⑩	児童が健康や安全に関する原則や概念に着目できるよう、統計、調査等の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、児童の発達段階に即しているか。	
東書	第3・4学年、第5・6学年どちらとも、グラフ等の資料は年、出典先ともに掲載されている。(例第3・4学年「初経を経験した時期」「精通を経験した時期」(2011年日本性教育協会)、例第5・6学年「小学生の不安やなやみ」2014年内閣府、「交通事故の原因(小学生)」2016年交通事故総合分析センター、など)	
大日本	第3・4学年、第5・6学年どちらとも、グラフ等の資料は年、出典先ともに掲載されている。(例第3・4学年「ソフトボール投げのきょり」2017年スポーツ庁、例第5・6学年「学校でのけが」2018年日本スポーツ振興センター、「死亡原因の割合」2017年厚生労働省、など)	
文教社	第3・4学年、第5・6学年どちらとも、グラフ等の資料は年、出典先ともに掲載されている。(例第3・4学年「身長のとびのようす」「体重のふえるようす」平成29年度文部科学省、例第5・6学年「交通事故の死者数と負傷者数」平成29年警視庁、「結かかにかかっている人の割合」2015年厚生労働省、など)	
光文	第3・4学年、第5・6学年どちらとも、グラフ等の資料は年、出典先ともに掲載されている。(例第3・4学年「いつごろに体に変化があらわれたか」2005年東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会、例第5・6学年「小学生が犯罪被害にあった場所」2013年警視庁、「日本全国のインフルエンザで欠席した子ども」2012～2017年厚生労働省、など)	
学研	第3・4学年では、出典先のみが記載されているグラフ等が掲載されている。(「すいみんと成長ホルモン」アインシュタインらの資料より作成、など)また、第5・6年でも同じく出典先のみが記載されているグラフ等が掲載されている。(「夫の喫煙と妻の肺がんの危険性」倉橋典絵らによる)さらに、第5・6学年では、年、出典先ともに記載されているグラフ等が掲載されている。(「日本人の死亡原因」2016年厚生労働省、など)	

⑪	児童が身近な生活における学習課題を見付けることに役立つよう、イラスト、写真、事例等の資料に、工夫や配慮はなされているか。	
東書	生活リズムのチェックシートがあり、実際に自分の生活をチェックすることで、生活課題を見つけることができるよう設定されている。また、学習したことをもとに安全マップを作る活動では、大きく安全マップの例示が掲載されている。	
大日本	自分の生活のふり返りを見開き2ページにわたって掲載し、チェックをしていくことで生活課題を見つけやすくするよう表示されている。また、「交通事故によるけがの防止」にて、学校の周りの「ひやり」や「ハット」を探す活動があり、生活課題を見つける手立てが設定されている。	
文教社	「新しい自分にレベルアップ」コーナーにて、学習したことを基に自分ごととして考える項目が随所に設定されている。また、「新しい自分にレベルアップ」コーナーでは「あなたならどうする?」という問いを共通して投げかけることで、身近な生活課題について考えられるよう設定している。	
光文	単元のはじめに、学習内容を把握するため、児童の生活に寄り添った4コマ漫画があり、身近な生活課題について考えるための設定がある。また、自分の生活リズムのチェックでは、例示されている2人と比較することで生活課題について考えられるよう設定されている。	
学研	生活リズムの見直しについて考える際に、1ページ分のシートが用意されており、児童が身近な学習課題について考えるための設定がある。また、自分たちの地域の犯罪被害の防止について考えるために、4枚のの写真が掲載されている。	

⑫	児童が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習内容に関連する健康情報等の資料に、工夫や配慮はなされているか。	
東書	ステップ学習のステップ4にて「まとめる・生かす」コーナーが設定されており、学んだことをこれらに生かしていこうという態度を養えるよう設定されている。また、単元末の資料に、プロスポーツ選手の話が掲載されており生涯スポーツの視点を取り上げられている。	
大日本	「活用して深めよう」コーナーにて、学んだことをこれからの生かしていこうという態度が養えるよう設定されている。また、単元のまとめでは、学んだことを活用したり、深めたりする項目が掲載されており、これからの生活に生かしていこうという態度が養えるよう設定されている。	
文教社	単元のまとめとして、毎回「〇〇宣言」を行うことにより、学んだことを生涯に生かしていこうという態度を養うことができるよう設定されている。また、発展コーナーを随所に設けることで、これからの生活に生かしていくための知識をみにつけられるよう設定されている。	
光文	「生かそう・伝えよう」コーナーにて、学んだことを基に考え、表現する場面を設けることで、これからの生活に生かしていこうという態度を育てられるよう設定している。また、単元末の「さらに広げよう・深めよう」コーナーにて、見開き2ページ分の資料を掲載し、児童がこれからの生活に必要な知識を取り入れられるよう設定されている。	
学研	「学びを活用する」コーナーにて、学んだことをまとめ、それを教え合ったり、発表したりすることで、自分の生活につなげるよう設定されている。また、単元のまとめの際に、「明日につなげる」コーナーがあり、これからの生活に生かすことについて考える項目が設定されている。	

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。
大日本	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。
文教社	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。
光文	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。
学研	各学年の単元において、学習活動を保障できる十分な分量があり、偏りなく配分されている。

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	A4判で、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを使用しています。」「再生紙・植物油インクを使用しています。」「鉛筆等による筆記適正（書きやすさ）が高く、耐久性に優れ、軽量の紙を開発し、使用しています。」と表示されている。
大日本	A4判で、「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています。」「環境に配慮した紙と植物油インクを使用し、表紙は丈夫で汚れにくくなるよう加工しています。」と表示されている。
文教社	A4判で、「この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集されています。また、再生紙、植物油インクを使用しています。」と表示されている。
光文	A4判で、「すべての児童にとってわかりやすい教科書になることを目指して、色の見分けのつきにくい方々に全ページにわたって確認をいただいています。」「専門家の指導のもと、特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとしています。」「環境に配慮した紙および植物油インクを使用しています。」と表示されている。
学研	A4判で、「この教科書は、環境に配慮した紙、インク、印刷方式を使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と表示されている。

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	学習の課題や方法等が、ステップによって示されている。また、児童の気づきを促したり、理解を深めたりするための写真が大きく、複数取り上げられている。さらに、キャラクターの吹き出しで、発問やアドバイス、次の学習への案内等が示されている。
大日本	学習内容について、見開きのイラストで大きく取り上げられている。また、ゴリ先生や児童のキャラクターの吹き出しで、発問やアドバイスが示されている。
文教社	児童の理解を深める手立てとして、大切な言葉が太字で表示されたり、まとめの文章が色付きの枠で囲んで表示されたりしている。また、学習の導入でチェック表を掲載されている。さらに、学習内容について、「情報コーナー」や「つぶやきくん」で詳しく取り上げられている。
光文	児童の気づきを促したり、理解を深めたりする手立てとして、顔が大きくて表情が明確に示されたイラストが掲載されている。また、学習内容が、4コマ漫画やイラストを使って掲載されている。
学研	役割に応じてキャラクターが設定されている。また、アドバイスの内容に応じて吹き出しの色を変えて表示されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	「喫煙の害と健康」の学習の中で、横浜市の「喫煙禁止地区」の標示の写真が例示されている。
大日本	「みんなの健康や安全のために」の中で、平塚市のさまざまな人が安全に使える駐車場の看板の写真が例示されている。
光文	「学校や地域でのけがの防止」の中で、相模原市の川で遊ぶことを禁止する掲示板的写真が例示されている。
学研	「健康ってどんなこと？」の中で、横須賀市の平成28年熊本地震のための募金活動の写真が例示されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			大日本			文教社		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有		有	有

URL、二次元コード等の掲載の有無	光文			学研		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
		有	有		有	有

③ 一冊ごとの重量 (g)							
発行者名	総冊数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	2			150		244	
大日本	2			116		148	
文教社	2			142		210	
光文	2			128		184	
学研	2			140		198	

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	東書	書名	NEW HORIZON Elementary
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童が日本語と英語の語順の違いに気付くよう、関連のあるいくつかの文を列挙するよう構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が自分で文章を考え、英語を使って表現できるよう、実際の生活に即した目的・場面等が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各単元のまとめとして、やり取りや発表など、学習内容を活用する言語活動が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童がいじめや差別のない社会や世界の人権について考えることができるような読み物等の題材が随所に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国境を越えて働く人々の姿を通して国際理解が進むよう、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人が随所に取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、児童が未来に夢をもって主体的に学ぶ態度の育成に向けて、なりたい職業など、キャリア教育につながる題材が随所に扱われている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 単元を通して、目標となる表現についてペアで尋ね合うことをくり返し行い、主体的かつ協働的に学ぶことで気付きが生まれるような活動が随所に設定されている。 □ 環境問題について、単元として大きく取り上げられるなど、理科や社会科などの他教科と関連する題材が随所に設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、他者を意識したコミュニケーションができるよう、スピーチや発表をする際によりよく伝えるための準備や方法について取り上げられている。 □ 第5・6学年を通じて、各単元の終わりに、日本の良さや世界の様々な文化や風習を知ることにつながる言語活動が設けられている。 □ 児童がどのように伝えればいいのか体験的に考えられるように、相手に何かを伝えてコミュニケーションをとる活動において、仮想の場面が随所に設定されている。 □ 既習事項を中学校の学習に生かせるように、小学校で扱うべき語彙や表現が別冊として一冊にまとめられている。 □ プログラミング教育の基礎が養われるように、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、児童が文字を習得しやすいような書体や4線の書式、紙質が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見開きにイラストとともに、各単元で使う言語材料について練習して理解を深めるための活動や、第5学年の初めで第3・4学年の復習をする活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を活用できるよう、実際の生活に即した時期と連動させながら、会話に必然性のある場面が随所に設定されている。 □ 児童が無理なく英語の音に触れることができるよう、各単元の導入部分で、第3・4学年の外国語活動で慣れ親しんだ表現がくり返し取り上げられている。 □ 児童が段階的に学べるよう、第5学年では地域から日本のことを、第6学年では日本から世界のことを学ぶ流れで各単元が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各技能がバランスよく円滑に学べるように、各単元において、音声から文字へ学習が進む構成になっている。 □ 児童が書き込んだり、切り貼りしたりする本体は大判(A4判)に、中学校の学習を見据えた、別冊の語彙・表現集は、携帯に便利なA/B判サイズになっている。 □ 児童が何を学習するのか、どの技能を習得するのかを知らながら学習が進められるように、各活動が5領域の技能アイコンで示されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	Junior Sunshine
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童が基礎的な力を習得できるよう、同じ表現をくり返し練習したり、日本語と英語を比較したりする言語活動が随所に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、既習の英語を使いながらテーマに沿って考えて、相手に伝えるという言語活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が楽しく学べるよう、目的・場面・状況が意識しやすい身近な題材が随所に設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、様々なスポーツの写真の中に、パラスポーツや、世界の様々な国のアスリートが取り上げられていたりしている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から児童が生活の中で生かせるように、海外における食べ物についての知識が幅広く取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、働くことやキャリアについて考える機会となるように、第5・6学年にわたって身近な職業などが扱われている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的・対話的に学習に取り組めるよう、各単元に必ずペア・グループワークを設けるとともに、児童の興味関心に応じた題材が設定されている。 □ 他教科との関連を図り、学びが深まるよう、日本の川や夏の星座など、児童にとって印象深い内容が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童が目的をもって、他の児童と関わりながら学習できるように、相手意識を持たせたやり取りのできる題材が扱われている。 □ 児童が多様な風習や文化に対する理解を進め、豊かな心情を育むことができるように、国際理解教育に深く関わる題材が取り上げられている。 □ 児童が目的意識をもって活動できるように、興味関心のある状況が設定され、仮想の場面の中で色々な役割や立場を疑似体験できる構成となっている。 □ 中学校との接続を図るために、第6学年で中学校との学習と関連して、小学校で体験的に学習したことを体系的にまとめた内容が設けられている。 □ プログラミング的思考の育成につながるように、道案内の単元において、自分でコマンドを組み立てて動かしながら、英語でやり取りする活動が設定されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、書くことの活動では書く分量が分かるように示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が理解しやすいように、各単元の初めに、新たに学習する言語材料に慣れ親しむ活動や、第5学年の冒頭に、外国語活動での学習内容を復習する活動が設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が進んで話すことの活動に取り組みたくなるように、随所に自然と必要な表現を使う場面や、年2回、まとめとして語彙や表現を活用する発表活動が設けられている。 □ 外国語活動との無理のない接続ができるように、第5学年の冒頭部分において、第3・4学年で扱った内容をふり返ることから学習を始めている。 □ 世界と自分の住む地域とを比べながら理解を深められるように、世界の様々なあいさつの言い方や正月の様子とともに、十二支や年賀状なども扱われている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 1時間の活動が過重にならないように、基本的に1ページ1時間配当というつくりになっている。また、身近なことから世界のことに視野を広げていく配列となっている。 □ 児童が書く活動に円滑に取り組めるように、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が使用されていたり、記入欄に罫線が設けられたりしている。 □ 文字の大きさも適当で、手書きに近い欧文書体が用いられている。また、児童が学習状況をふり返りしやすいよう、各単元末で色を塗って確認するマークが配置されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	学号	書名	JUNIOR TOTAL ENGLISH
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、英語の発音やアクセント、語順について日本語との違いを考え、話し合うように構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、事前に音声教材でくり返し練習した表現を使って発表するという構成になっている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童に身近で興味・関心のあることをテーマとして選び、児童が互いに尋ね合ったりする機会が随所に設けられている。
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童が身近なところに多様性を感じ、世界に目を向けられるように、世界の様々な国の人が登場している。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、児童が食に関する知識を生かして具体的に考えられるように、自分たちで料理をするなどの身近な場面が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、将来の夢の描き方のイメージがもてるよう、身近な人の将来の夢の変化を聞く活動が設定されている。
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的な態度を促し、自分の考えをもって話し合うことで学習が深まるように、他の児童と関わる必然性を生む課題が設定されている。 □ 他教科との関連を図り、学びが深まるよう、各単元で、家庭科の三色食品群や理科の電気を扱うなど、教科横断的に進められる様々な学習が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各単元で、英語の表現に慣れ親しめるように、事前に音声教材をくり返し聞き、自分の考えや気持ちを発表する活動が設定されている。 □ 日本との相違点や共通点を理解し、異文化について関心を高められるように、自国を含め、多様な国や地域が題材として取り上げられている。 □ 体験的な学びから英語の表現が定着するよう、各単元において、音声教材を中心とした言語活動をくり返し行い、まとめの段階では発表する場面が随所に設けられている。 □ 中学校で学習する文法をフレーズで自然と覚えられるように、各単元で英語の歌が取り入れられ、第6学年では、中学校生活に関する内容が扱われている。 □ 情報活用能力の育成に関して、プログラミング教育の視点を取り入れた道案内の学習が設けられ、「ホームページの裏側」と題して、情報活用の基礎知識が紹介されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、文字は入門期でも認識しやすい書体が使用されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第5学年の初めに、第3・4学年の学習内容について、ゲームを通して言語材料を、イラストとともに分かりやすく復習する活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学習のまとめとして、年2回の発展的な発表の機会が設けられている。また、発表の時は円滑に活動ができるよう、発表用シートが掲載されている。 □ 各単元において、くり返し学習し、定着できるように、第3・4学年で学習した表現や語彙が何度も取り上げられている。 □ 日本の伝統文化について取り上げながら、多様な考え方に触れられるように、児童が行きたい場所やその理由を聞いたり、答えたりする単元が設定されている。
4 分量・装丁表記等			<ul style="list-style-type: none"> □ 各単元において、実態に応じて柔軟に学習できるよう、1つの活動を15分で行う構成としながら、学習の進め方について示されている。 □ 製本は、針金を使用せず、大きく開き、紙面をより広く使ったレイアウトになるような綴じ方が採用されている。 □ 未履修の漢字には全てふりがなが付けられている。また、活動内容によって決められた記号や、視覚的に理解を促すためのアイコンが用いられている。

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	三省堂	書名	CROWN Jr.
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、文字と音声を結びつけられるように、各単元において、同じ発音をもつ文字を含む単語を繰り返し聞く活動が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、テーマに沿って自分なりの考えをもち、それを文に表して相手に伝え合う活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が意欲的に英語で話したり、聞いたりすることができるよう、身近で興味を引く題材が随所に用いられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、豊かな心を育めるように、児童になじみがあり、心に響くような物語が選ばれ掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、相手を意識しながら関わろうとする心を育てられるよう、様々な国の言葉や世界に関わる題材が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、自分の生活に関わる人などを意識しながら、自分ができることは何か、社会貢献について考える場面を設定している。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 対話的な活動を進められるように、単元のまとめとして、何を取り上げ、どのように伝えるかを他の児童と話し合うグループ発表が設定されている。 □ 他教科との学びのつながりが図れるよう、社会科の地図や理科の動植物の成長などの課題を英語の学習と結び付けながら随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童の興味を引く場面や話題を取り上げ、くり返し音声で聞いたりしてから、他者との協働的な話し合いをする言語活動が設けられている。 □ 色々な国の伝統や文化について触れながら学べるように、外国や日本の文化風習などがテーマに取り上げられ、様々な教材が用意されている。 □ 児童が興味関心をもつことができるよう、身近なことから場面・状況を設定し、他の児童と関わりながら行う体験的な活動が随所に設けられている。 □ 中学校との円滑な接続に向けて、目的を意識しながら内容や構成を考え、表現するという、中学校で行われる言語活動が設けられている。 □ プログラミング教育の視点から、道案内の学習を通して、児童がICTを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さに関して、すべての児童が見やすいように配慮した紙面の構成がなされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が言語材料について理解しやすくなるように、各単元において、見開きのイラストとともに、英語を聞く活動から始めるなど、音声による導入となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童の言語活動の助けとなるよう、「コミュニケーションを円滑にする」方略についてのコラムが紹介されている。また、年3回程度、英語での発表活動が設定されている。 □ 第5学年の冒頭部分において、第3・4学年で慣れ親しんだ表現を復習できるように、既習の表現とともに、関連する挿絵が取り入れられている。 □ 様々な国への興味関心を引き出すとともに、世界における多様性を理解できるように、世界各国の文化や様々な地域の内容が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5・6学年において、それぞれ6つの言語活動の目標が設定され、学びを深めるための6つの大単元と、ねらいの異なる小単元が段階を追って配置されている。 □ イラストや写真が大きく見やすくなるように、大判(AB判)が採用されている。また、単語を書き写しやすくなるように、語彙・表現集が別冊になっている。 □ 各単元の初めにあるイラストは、児童が英語を聞いたりして、隅々まで探したくなるように、細かく描かれ、様々な情報が詰められている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	教出	書名	ONE WORLD Smiles
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、外来語や語順の比較などを取り上げるとともに、活動内容を変えながら同じ表現にくり返し触れる構成となっている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、自分の考えを基にテーマに沿ったスピーチやポスターを作り上げる言語活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が興味関心をもてるよう、児童のこれからの生活に関わるような目的・場面・状況が随所に設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、自分との共通点や違い、他の児童の良い点に気付き、自尊感情や他者理解につながるように、ペア・グループ活動が随所に取り入れられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、児童が夢を支える健康的な生活の大切さに気付けるよう、スポーツ選手を支えている人について考えたりする教材が扱われている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域の良さに目を向けながら、自分たちの身近な場面から、将来のことや生き方について具体的に考える場面が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童の主體的な学びを促進し、他の児童に気持ちや考えなどを自分から伝えたいとなるよう、児童の興味関心に合った題材の対話的な活動が設けられている。 □ 児童の安心感や達成感につながる教科横断的な学習ができるよう、社会科の地図や国語科の物語などの既習の学習内容が英語として、様々な単元で取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、相手に配慮し、適切な言葉を選んで返す大切さに気付いたりすることができるように、ペア・グループ活動が随所に設定されている。 □ 様々な場面で自国や海外の文化等に触れ合えるように、日本と世界の国々をテーマの中心として学習を展開している。 □ 表現の意味や働きを体験的に理解できるよう、児童の身近な暮らしに関わる場面におけるコミュニケーション活動が随所に設定されている。 □ 第6学年では、中学校の学習への円滑な接続に向けて、児童が英語の文法にも気付くように、「自由に文を作ってみよう」という言語活動が設けられている。 □ プログラミング教育の基礎を養えるよう、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方につながる道案内に関する学習が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、色覚の個人差を問わず、すべての児童が見やすい紙面の色使いや構成が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童がゲーム形式などで興味をもって自然と言語材料を活用し、慣れ親しむ機会をもつ単元が随所にある。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元では、映像を見ながら「聞くこと」を通したインプットから始めて、聞き取りから発話などへの流れがスモールステップでくり返し設定されている。 □ 第5学年の冒頭で、外国語活動で扱った表現等を話す活動を通して復習できるように、それらに関係する挿絵が取り入れられている。 □ 児童が自分の住む地域や日本の良いところについて、進んで調べたことを伝え合える単元が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各単元は7時間配当を基本として、教材「We Can!」とほぼ同様の進め方ができる分量となっている。 □ 用紙には、目が疲れず地球環境に配慮し、過度に白色度が高くない軽量の再生紙が使用されていると記載されている。 □ 児童の想像力が高まるよう、イメージ豊かで、音声や英文理解を助ける挿絵、図版、写真になっていたり、地図のようにつなげて見たいものは、見開きで掲載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	光村	書名	Here We Go!
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、音声で慣れ親しんだ文字から段階的に習得できる言語活動が各単元の最後に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が思考・判断し、楽しみながら学習できるよう、趣向を凝らした場面や状況が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が自分事として捉えて考えることにつながる、身近で関わりのあることが題材として随所に取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、他者に配慮する態度を養えるように、英語によるやり取りの場面で「あいづち」などの相手への反応が大切であることが示唆されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、コミュニケーション能力を育むために、自分の意図を伝える丁寧な言い方など、具体的な方法が随所に紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、人の生き方や自分の将来の夢に目を向けられるように、自分の取り上げたことを相手に紹介したりする場面が随所に設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元で、児童が活動の見通しをもって主体的に取り組めるように、写真や絵などの視覚的な例が随所に示されたりしている。 □ 全体を通して、ゲーム的な要素を採り入れながら、動植物の食物連鎖を取り上げたりするなどして、他教科の学習内容と結び付ける活動が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、コミュニケーション活動をくり返し行ったり、相手意識をもって心を通わせる言葉について考えたりする場面が随所に設けられている。 □ 「世界の他の児童」に関する映像を見たりしながら、日本と外国の文化や風習を知ることにつながる場面・状況などが随所に設定されている。 □ 児童が楽しみながら学ぶことができるよう、児童が興味関心をもつ場面や状況を設定し、目標となる英語の表現を定着させるための体験活動が随所に取り入れられている。 □ 第6学年では、児童が中学校生活への期待につながる内容が扱われ、巻末には、小学校での自分の成長をふり返る活動が設定されている。 □ 道案内の活動を通して、プログラミング的思考に触れながら、必要な情報を選択することを体験できるように、紹介・発表資料の作成活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、学習に関する同じ種類の情報が定位置に配置されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の初めに、学習内容についてイメージを膨らませ、理解を促すよう、映像を用いた活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の初めでは、児童が目標となる表現に気付くように、アニメーションや紙面を参考にしながら、無理なく気付きが生まれる活動が随所に設けられている。 □ 外国語活動から教科としての英語への円滑な接続に向けて、コミュニケーションの上で大切にしたい態度を確認したりする活動が随所に設けられている。 □ 日本との共通点・相違点に気付けるよう、12人の様々な国の小学生を登場させ、世界で暮らす同年代の子どもの様子や得意なことなどを紹介する単元が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5・6学年を通して一貫したストーリーとなっており、各単元では、見開きの2ページずつで共通した構成になっている。 □ 横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せる横幅の広いA B判が採用されている。軽くて裏移りにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が使用されている。 □ 児童の発達段階や教材の内容に応じた文字の大きさや文字組になっており、書くことの教材では意図して大きな文字が使用されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	Blue Sky elementary
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元で学習する語句や表現について音声教材で段階的に活用したり、短時間で学習できる内容を明示したりしている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、場面や状況から英語の意味を推測して聞いたり、自分のことについて考えて発表し合ったりする活動を設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自分のしたいこと、やりたいことを考えて表現できるよう、身近な生活の中から題材を取り上げている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、困っている人を助ける場面や、相手に配慮して会話する場面が複数回設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育につながるよう、身の回りにある食べ物を思い出す活動や、その人に合った食事を注文する活動が扱われている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、自分の住む地域に関連させながら、防災の備えや将来つきたい職業について考えたりする活動が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的に学習に向かえるように、身近で児童の興味関心を引く課題が設定され、相手を知ろうという意欲につながる対話的な活動が取り入れられている。 □ 児童の言語理解が深まるように、社会の日本地図や国語の物語教材、グラフの統計の読み取りなど、他教科で既習した内容が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各単元で目標とする表現をくり返し練習できるよう、4技能の言語活動が展開されるとともに、他者を意識したやり取りが設定されている。 □ 世界の国々の様々な文化や習慣を知ることにより、日本との違いに気付き、自国の文化理解や国際理解に資する活動が各単元の終わりに設定されている。 □ グループやペアの他の児童と協力しながら、考えたことを基にして、コミュニケーションを取り合い、様々な体験ができる構成になっている。 □ 児童が小学校との違いを意識することにつながるように、中学校生活を題材とした単元が設けられている。 □ 道案内の学習において、プログラミング教育の視点から、児童がICTを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、全ての児童が学習しやすい4線幅が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第5学年の最初に、外国語活動の内容をまとめたものが掲載されている。また、各セクションで、異なる活動の中で基礎的な語彙や表現をくり返し活用する構成としている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 語句や表現を「耳に慣らす→聞き取る→発話する」流れで活動を十分に行い、学習を積み上げた上で集大成として、各単元の最後で発表活動を行うようになっている。 □ 第5学年の冒頭で、外国語活動を通して慣れ親しんだ表現を、挿絵を見ながら振り返ることのできる活動が設定されている。 □ 複数の単元で、世界の文化について触れることができる活動が設けられている。また、日本の良さに気付くことができるように、日本の文化の紹介が複数掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 概ね教材「We Can!」に沿った配列になっており、さらに必要に応じて扱うことのできる、個に応じた活動や読み物教材等が設けられている。 □ イラストや写真を効果的に掲載できるように、大きな判型(AB判)で、ページを大きく開けるように、針金を使わない「あじろ綴じ」製本が採用されている。 □ 児童が身に付ける力を意識しながら学習を進めることができるように、5領域のうち、主にどの領域に関する活動等なのか、分かるようなマークが設定されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《外国語（英語）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「ことば探検」というコーナーなどでは、日本語と英語の違いに気付くことができるようになっている。また、文構造の共通点に児童自らが気付くことができるように、関連のあるいくつかの文を列挙するよう構成されている。
開隆堂	「文字に慣れよう」では、児童が知っている大きなかぶの物語を読み、言葉の並びに気付く活動が設定されている。また、巻末の「中学校へつなげよう」では、語順を意識したり、日本語との語順の違いに気付いたりできるように、日本語の下に英語の単語を正しい順に並べる活動が随所に設けられている。
学図	関連のある文をいくつか列挙することで、児童が共通する文構造に着目しやすくなっている。また、「言葉の語順やきまりを考えてみよう」では、英語と日本語の違いに気付けるよう、児童が英文と日本語を比べる活動が随所に設定されている。
三省堂	日本語と英語の共通している部分を書くことで、文構造の共通部分に気付いたり、まとまりとして認識したりできるように記載されている。また、語順、音声、文字などについて気付くヒントとなる活動が随所に設けられている。
教出	児童が英文をつくりやすくなるように、穴埋め形式で言葉を埋める課題が設定されている。また、児童が日本語と英語の語順の違いに気付けるよう、主語・動詞・目的語が色分けされて示されたり、日本語と英語を比べる活動が随所に設けられている。
光村	同じ文構造をもつ、それぞれの文について共通する部分に着目しやすくなっている。それにより、児童が自ら文構造の共通点に気付けるよう設定されている。「文字遊び」では、児童が日本語との語順の違いに気付けるよう、シールを使った活動が取り入れられている。
啓林館	関連する文の文構造上の共通点や日本語との語順の違いなどに児童自らが気付くことができるよう、文構造上共通するものを四角で囲んだり、同じ色で表現したりしている。また、学習した後に自分のことを書く活動が取り入れられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	児童が自分なりに文章を考え、英語を使って話すことができるよう、実際の生活において経験するような目的・場面・状況が随所に設定されている。
開隆堂	既習の英語を使いながら、テーマに沿って自分一人、又は他の児童と一緒に考えて、それを相手に伝えるという言語活動が随所に設定されている。
学図	自分の考えをもち、相手と伝え合うことができるよう、児童の身近な題材を取り上げ、事前に音声教材でくり返し練習した表現を使って発表するという構成になっている。
三省堂	あるテーマに沿って自分なりの考えをもち、それを英語で表して、相手と伝え合うという活動が随所に設定されている。
教出	他の児童と一緒に言語活動を楽しみながら、自分の考えを基にテーマに沿ったスピーチやポスターを作り上げる言語活動が随所に設定されている。
光村	各単元で、児童が思考・判断し、楽しみながら学習できるよう、素敵な町づくりを目指して地図の空き地に好きな施設を入れて道案内をするなど、趣向を凝らした場面や状況が随所に設定されている。
啓林館	イラストで示された場面や状況から、英語の意味を推測して聞いたり、自分のことについて考えて発表し合ったりする活動が随所に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	児童が意欲や興味をもって活動できるように、各単元のまとめとして、やり取りや発表など、学習内容を活用する言語活動が随所に設定されている。
開隆堂	児童が楽しく学べるように、お世話になっている人に感謝の言葉を伝えることなど、目的・場面・状況が意識しやすい身近な題材が随所に設定されている。
学図	児童にとって身近で興味・関心のあることをテーマとして選び、児童が互いに尋ね合ったり、発表したりする機会が随所に設けられている。
三省堂	児童が意欲的に英語で話したり、聞いたりすることができるように、児童にとって身近で興味を引くような題材が随所に用いられている。
教出	児童が興味関心をもって外国語学習を継続していけるよう、和英辞典を用いることで自分が知りたい言葉をきっかけに語彙を増やす方法が示されている。
光村	児童が自分事として捉えて考え、意欲的に学習に取り組むことができるように、児童にとって身近で関わりのあることが題材として取り上げられている。
啓林館	児童が自分のしたいこと、やりたいことを考えて表現できるように、身近な生活の中から随所に題材が取り上げられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	いじめや差別のない社会や世界の人権について考えらる読み物等の題材が随所に設定されている。また、イラストや写真等で男女が協力して家庭生活を営む男女共同参画社会に資する姿が示されている。
開隆堂	共生の観点から、人気のスポーツを調べる単元などでは、様々なスポーツの写真の中に、パラスポーツや、世界の様々な国のアスリートが取り上げられたりしている。
学図	児童が身近なところに多様性を感じ、世界に目を向けられるように、世界の様々な国の人が登場したり、オリンピック・パラリンピックで見たい競技を尋ね合う活動が設定されたりしている。
三省堂	様々な価値観や他者を認め、受け入れることにつながるように、国際色豊かな人物が登場しているとともに、豊かな心を育てるように、児童になじみがあり、心に響くような物語などが掲載されている。
教出	他者に配慮する表現や態度に関する内容とともに、自分との共通点や違い、他の児童の良い点に気付き、自尊感情や他者理解につながるように、ペアやグループの活動が随所に取り入れられている。
光村	登場人物の設定において、多種多様な見方・考え方に触れられるようにするとともに、他者に配慮する態度を養えるように、話す活動で「あいづち」など、相手への反応が大切さが示唆されている。
啓林館	困っている人を助ける場面や、相手に配慮して会話する場面が複数回設定されている。また、会話の際に相手の文化について考え、配慮できるよう、他言語や異文化についての知識などが紹介されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	グローバル化社会の中、国境を越えて働く人々の姿を通して国際理解が進むよう、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人が随所に取り上げられ、外国の生活や文化に関する題材も掲載されている。
開隆堂	食育の観点から児童が学習したことを生活の中で生かせるように、海外における食べ物についての知識などが幅広く取り上げられている。
学図	児童が国際性をより身近に感じられるよう、外国に関わる人物が登場しているとともに、食に関する知識を生かして具体的に考えられるように、自分たちで料理をするという身近な場面が設定されている。
三省堂	どんな言語や相手であれ、相手を意識しながら関わろうとする心を育てられるよう、広く言葉に感心をもち、子どもたちの世界を広げる題材が随所に取り上げられている。
教出	児童が夢を支える健康的な生活の大切さに気付けるよう、スポーツ選手を支えている人について考えたり、写真などを生かし、自分たちの地域の食の見直しのきっかけとなる教材などが扱われている。
光村	自分の意図を伝える丁寧な言い方や、相手とのよりよい関係をつくるための言葉など、コミュニケーション能力を育むための具体的な方法が随所に紹介されている。
啓林館	食育につながるよう、身の回りにある食べ物を思い出す活動や、その人に合った食事を注文する活動が設けられている。また、即興的なやり取りにつながる素材が随所に扱われている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	未来に夢をもって主体的に学びに向かう態度の育成に向けて、キャリア教育につながる題材が随所に扱われている。また、生き物の生息地や食物連鎖につながる自然に関する内容が取り上げられている。
開隆堂	職業に関する知識に加えて、働くことやキャリアについて考える機会となるように、第5・6学年にわたって身近な職業などが随所に扱われている。
学図	社会貢献について、ヒーローとの共通点からヒーローとは何かを考える場面とともに、将来の夢の描き方のイメージがもてるよう、身近な人の将来の夢の変化を聞く活動が設定されている。
三省堂	自分の生活の中で様々な人やものに関わってきたことを意識できるよう、自分にできることは何か、社会貢献について考えたりする課題などが設定されている。
教出	地域の良さに目を向けて、社会に貢献しようとする態度を育成するために、自分たちの身近な場面から、将来のことや生き方について具体的に考える場面が設定されている。
光村	人の生き方や自分の将来の夢に目を向け、なぜそう考えたのかを明確にできるよう、自分の取り上げたことを相手に紹介する場面や、郷土の良さについて取り上げる題材などが随所に設けられている。
啓林館	社会と関わる力を育てるように、自分の住む地域に関連させながら、防災の備えや将来つきたい職業について考えたりする活動などが設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	児童が相手意識を持ち、主体的かつ協働的に学ぶことで気付きが生まれるように、単元を通して、目標となる表現についてペアで尋ね合う活動をくり返し行うよう設定されている。
開隆堂	児童が見通しをもって協力して学習を深めることができるよう、各単元に必ずペア・グループワークを設けるとともに、主体的に学習に取り組めるよう、児童の興味関心に応じた題材が設定されている。
学図	児童の主体的な態度を促し、学習が深まるよう、各単元に他の児童と関わる必然性を生むことにつながり、児童が楽しみながら自分の考えをもって話し合う言語活動が設定されている。
三省堂	児童の興味関心をもちながら対話的な活動を進められるように、各単元のまとめとして、何を取り上げ、どのように伝えるかを他の児童と話し合うグループ発表や、身近な課題が随所に設定されている。
教出	児童の主体的な学びを促進し、他の児童に気持ちや考えなどを自分から伝えたいくなるよう、児童の興味関心に合った題材が扱われ、英語で話す活動が様々な単元の中で取り入れられている。
光村	各単元で、児童が活動の見通しをもって主体的に取り組めるように、写真や絵などの視覚的な例が示されているとともに、対話的な学びにつながるグループでの協働学習が設けられている。
啓林館	児童が主体的に学習に向かえるように、身近で児童の興味関心をひく課題が設定され、相手を知ろうという意欲につながる対話的な活動が取り入れられている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	環境問題について単元として大きく取り上げられるなど、理科や社会を中心とした他教科と関連する題材とともに、自分事として捉え、自分の思いを発信する活動が設けられている。 毎授業の初めに歌ったり口ずさんだりすることで慣れ親しめるだけでなく、短時間学習として別途活用することもできるように、各単元の冒頭に、その単元の内容に合った英語の歌や、歌やリズムにのせて単語や文章を発声する活動が取り入れられている。
開隆堂	日本の川や夏の三角形など、児童にとって印象深い内容が取り上げられ、総合的な学力の向上を図れる、教科を越えたスパイラル学習となっている。 1ページが45分単位で構成され、さらに1ページが基本的には3つの活動に分かれている。15分間程度のモジュールの時間として活用することもできる歌やゲームなどの活動、歌やリズムにのせて単語や文章を発声する活動として位置づけられている。
学図	各単元において、家庭科の三色食品群や理科の電気を扱うなど、教科横断的に進められる様々な学習が設定されている。 各単元において、児童がイラストを効果的に活用しながら、短時間で楽しく取り組めるように各活動が細かく分かれている。また、活動の目安となる時間が一目で分かるような犬の足跡マークが設けられている。
三省堂	他教科との学びのつながりが図れるよう、社会科の地図や理科の動植物の成長などの課題を英語の学習と結び付けながら随所に取り上げられている。 別途短時間で行うことができるように、各単元において、いくつかの小さな活動として、細かく区切られた形で随所に掲載されており、1単位時間の授業と関連付けながら、独立させて行うことができる構成となっている。
教出	教科横断的な学習を通して、児童が安心感や達成感をもって学習できるよう、社会科の地図や国語の物語などについて、既習の学習内容を英語の学習と絡めながら様々な単元で取り上げられている。 短時間学習としても活用できるように、すべての単元が「Watch」や「Sing」、「Listen」など、内容ごとに整理され、線つなぎや、聞き比べクイズ、英語の歌などの15分程度でできる活動が設定されている。
光村	全体を通して、ゲーム的な要素を採り入れながら、形や色を使って絵を描いたり、動植物の食物連鎖を取り上げたりするなどして、他教科の学習内容と英語を結び付ける活動が随所に設定されている。 教科書目次部分に、「10分程度の短時間の指導に対応している箇所」として短時間学習に活用できる内容が示されているとともに、各単元で、短時間学習に対応できる15個前後の細分化された活動が取り入れられている。
啓林館	言語理解が深まるように、社会の日本地図や国語の物語教材、グラフの統計の読み取りなど、他教科で既習した内容が取り上げられている。 短時間学習に活用できるように、砂時計の形をした「モジュールマーク」で該当箇所が示されている。また、1単位時間の授業と関連付けながら活用できるように、歌や絵カードを使った活動、リズムにのせて単語や文章を発声する活動が設定されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	他者を意識しながらコミュニケーションを図るための基礎となる能力の育成に向けて、スピーチや発表をする際に、よりよく伝えるための準備や方法について随所に取り上げられている。
開隆堂	児童が目的をもって、他の児童と関わりながら学習し、くり返しコミュニケーションをとることができるように、相手意識を持たせたやり取りの活動として設けられている。
学図	英語の表現に慣れ親しめるように、自分の考えや気持ちを発表する際には、事前に音声教材をくり返し聞き、また発表については1度だけではなく複数回設定されている。
三省堂	児童の興味を喚起させる場面や話題が取り上げられ、多くの語句をくり返し音声で聞いたり、話したりして英語の表現に慣れ親しんでから、他者との協同的な話し合いをする言語活動が設けられている。
教出	相手に配慮し、適切な言葉を選んで返す大切さに気付いたり、同じ表現をくり返し使ったりすることができるように、ペアやグループなど、他の児童と関わり合う活動が随所に設けられている。
光村	段階的に難易度を上げながら、コミュニケーションをくり返し行ったり、相手意識をもって心を通わせる言葉について考えたりする場面が設けられている。
啓林館	各単元で目標とする表現をくり返し練習できるよう、4技能の言語活動を展開するとともに、円滑にコミュニケーションを図る基礎的な能力の育成に向けて、他者を意識したやり取りが設けられている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実を資する工夫や配慮	
東書	児童の多様な風習や文化に対する理解につながるよう、第5・6学年を通じて各単元の終わりに、日本の良さや世界の様々な文化や風習を扱った言語活動が設けられている。
開隆堂	児童が多様な風習や文化に対する理解を進め、豊かな心情を育むことができるように、国際理解教育に深く関わる題材が取り上げられている。
学図	日本との相違点や共通点を理解し、異文化について関心を高められるように、自国を含め、多様な国や地域が題材として取り上げられている。
三省堂	色々な国の伝統や文化について触れながら学べるように、外国や日本の文化風習などがテーマに取り上げられ、様々な教材が用意されている。
教出	様々な場面で自国や海外の文化等に触れ合えるように、日本と世界の国々をテーマの中心として学習を展開している。
光村	同じ世代の小学生が出演する「世界の友達」に関する映像を見たりしながら、日本と外国の文化や風習を知ることができる実際の状況・場面などが随所に設定されている。
啓林館	日本との違いに気付くことを通して、自国の文化理解や国際理解につながるように、世界の国々の様々な文化や習慣を知る活動が各単元の終わりに設定されている。
⑤ 体験活動の充実を資する工夫や配慮	
東書	児童がどのように伝えればいいのか体験的に考えられるように、相手に何かを伝えてコミュニケーションをとる活動において、実際の生活で体験するような場面が随所に設定されている。
開隆堂	児童が自分の考えを相手に伝えるという目的をもちながら活動できるように、興味関心のある状況を設定し、仮想の場面の中で色々な役割や立場を疑似体験できる構成となっている。
学図	体験的な学びを通して英語の表現が定着するように、各単元におけるまとめの段階において、音声教材を中心にくり返し言語活動を行い、発表する場面が随所に設けられている。
三省堂	語彙や表現を理解しやすくなるように、児童が興味関心をもつ身近なことから場面・状況を設定し、他の児童と関わりながら行う体験的な活動が随所に設けられている。
教出	児童が表現の意味や働きを体験的に理解できるように、児童の身近な暮らしに関わる場面にと関連付けたコミュニケーション活動が随所に設定されている。
光村	児童が楽しみながら学ぶことができるよう、興味関心をもつ場面や状況の中で、体験的に目標となる英語の表現を活用し、定着させるための活動が随所に取り入れられている。
啓林館	児童の理解が進むように、グループやペアの他の児童と協力しながら、考えたことを基にして、コミュニケーションを取り合い、様々な体験ができる構成になっている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	中学校の学習に既習事項を生かせるように、小学校で扱うべき語彙や表現が別冊として一冊にまとめられている。第6学年で、小学校生活をふり返る単元が設定され、既習の英文が整理されている。
開隆堂	第6学年で中学校との接続が図れるように、小学校で体験的に学習したことを体系的にまとめられているとともに、中学校の学習内容を体験したり、中学校生活について学んだりする内容が随所に掲載されている。
学図	各単元で、中学校で学習する文法をフレーズで自然と覚えられるように、英語の歌が取り入れられ、第6学年の題材として、中学校生活に関する内容が扱われている。
三省堂	中学校との円滑な接続に向けて、目的を意識して内容や構成を考え、表現するという、中学校で行われる言語活動が設けられている。また、中学校初期で多用される初学者用書体が使用されている。
教出	第6学年では、中学校の学習への円滑な接続に向けて、児童が英語の文法にも気付くように、「自由に文を作ってみよう」という言語活動が設けられている。
光村	第6学年では、児童が中学校生活への期待につながる内容が扱われ、既習内容を中学校での学習に生かすことができるように、巻末に小学校での自分の成長をふり返る活動が設定されている。
啓林館	児童が小学校との違いを意識できるように、中学校生活を題材とした単元が設けられている。また、第5学年から第6学年にかけて、徐々に文字を読んだり書いたりする機会が増えるよう構成されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	プログラミング教育の基礎が養われるように、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方を理解することにつながる課題が設定されている。
開隆堂	プログラミング的思考の育成につながるように、道案内の単元において、自分でコマンドを組み立て、対象を思い通りに動かしながら、英語でやり取りをするという活動が設けられている。
学図	プログラミング教育の視点から、道案内の学習で、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現する活動が設定されている。また、「ホームページの裏側」と題して、情報活用の基礎知識が紹介されている。
三省堂	I C Tを活用して調べ、まとめたことを発信できるように、プログラミング教育の視点から、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、発表する体験的な活動が設けられている。
教出	プログラミング教育の基礎を養えるよう、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方につながる道案内に関する学習が設けられている。
光村	道案内の活動を通して、プログラミング的思考に触れるとともに、必要な情報を選択することを体験することができるように、紹介・発表資料の作成活動が設けられている。
啓林館	道案内の学習において、プログラミング教育の視点から、児童がI C Tを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	各活動が紙面上の定位置に配置されていたり、文字を習得しやすいような書体や4線の書式、紙質が取り入れられている。また、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。
開隆堂	「カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの児童が見やすくなるように配慮しています」と記載されている。また、児童が書きやすくなるように、書く分量が分かるよう示されている。
学図	文字は入門期でも認識しやすい書体を使用され、配色等について、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました」と記載されている。
三省堂	全児童が見やすいように、紙面の構成、文字の大きさや書体、イラスト等について、「ユニバーサルデザインに配慮して編集しています」と記載されている。
教出	「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルフォントを使用しています」と記載されている。
光村	「カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています」と記載されている。
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています」「個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました」と記載されている。

○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

⑨ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	各単元で使う言語材料の理解を深められるよう、見開きに理解を助けるイラストとともに、練習する活動が配置されている。また、第5学年の初めで第3・4学年の復習をする活動が取り入れられている。
開隆堂	児童が理解しやすいように、各単元の初めに、新たな言語材料に親しむ活動や、第5学年の冒頭に、語句や表現をくり返し学習できるように、外国語活動で学習した内容を復習する活動が設けられている。
学図	第5学年の初めに、第3・4学年の学習内容について、ゲームを通じて言語材料を、イラストとともに分かりやすく復習する活動が取り入れられている。
三省堂	児童が言語材料について理解しやすくなるように、各単元の初めに、見開きのイラストとともに、聞く活動を設けている。また、第5学年の初めに、外国語活動で学習した語句を復習する活動を設けられている。
教出	学習内容をくり返し復習できるよう、第5学年の最初に、第3・4学年の言語材料がまとめられている。また、児童がゲーム形式などで興味をもって自然と言語材料を活用する機会をもつ単元が随所にある。
光村	各単元の初めに、学習内容についてイメージを膨らませ、理解を促すよう、映像を用いた活動が取り入れられている。また、各学年の冒頭で、既習の内容を確認・復習するための内容が設けられている。
啓林館	第5学年の最初に、外国語活動の学習内容をまとめたものが掲載されている。また、各セクションにおいて、異なる活動を通して、基礎的な語彙や表現をくり返し何度も活用する構成としている。

⑩ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなどの工夫や配慮	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を活用できるよう、実際の生活に即した時期と連動させながら場面が設定されている。また、学習内容の定着が図れるよう、各単元の中でくり返し聞いたりする活動が設定されている。 ・アルファベットの文字を正しく読むために音声教材を活用しながら、名前読みと音読みの区別について学べるように設定されている。また、児童が読むことへの意欲がもてるように、これまでの学習で慣れ親しんだ語句や表現を用いた物語などが題材として設定されている。 ・児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を使えるよう、会話に必然性のある場面設定をしている。また、円滑な活動の助けとなるように、巻末のカードを利用できたり、やり取りの時に使える表現が示されている。 ・児童が英語表現を理解した上で発表できるよう、段階的に活動が設けられている。相手に配慮した話し方だけでなく、安心して発表できる雰囲気づくりのために、聞き方についても取り上げられている。 ・活字体の正しい書き方が分かるよう、書き順や留意点の記載がされている。また、文章を書く時には自分に関する簡単な事柄について少しずつ書きためた文を基にして書けるように設定されている。
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって、言語材料が無理なく身に付いていくように、各単元の中で、単元目標に向けて、くり返し活動に取り組んで、何度も語彙や表現等に触れながら、難易度の点から複数回にわたって段階的に学習する構成となっている。 ・第5・6学年に共通して、日常の中にあるアルファベットについて意識したり、文章から単語の意味を考えたりできるように、巻末に「文字に慣れよう」という内容が掲載され、「読む」ことの基礎を体系的にくり返し学習することが設定されている。 ・身近な内容の会話についての表現を理解し、話すことができるよう、くり返し段階を追って聞く活動や、ペアでのやり取りなどの活動が設けられている。また、児童がやり取りしたくなって、自然と必要な表現を使えるように、興味を引き出す場面設定をしている。 ・児童が取り組みやすいように、発表活動は単元の最後に設定され、場面を想像できる挿絵が示されている。また、年2回、語彙や表現を活用して自分の気持ちや考えを発表する活動が設けられている。 ・各単元でまとめとして、必然性をもたせるために、相手意識のある書く活動が位置付けられている。また、書く活動を体系的にまとめるように、巻末に「文字に慣れよう」という内容が設定されている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Listenのスキプトの中には、くり返し学習ができるように、目標となる表現が2回以上登場するとともに、既習事項も入っているよう設定されている。また、分からないことがあっても推測しながら聞くことができるよう、イラストなど視覚情報が複数設けられている。 ・日常生活でよく使ったり、目にしたりする英語を中心に、「読むこと」の活動が配置されている。また、第5・6学年を通して、つながりのある内容から推測しながら読めるよう、犬のシャギーの物語が単元の終わりに設定されている。 ・Small Talkや、やり取りの活動の理解が進むように、実際のコミュニケーションの場面を表すイラストが随所に用いられている。また、児童が安心して活動に取り組めるように、聞く活動でくり返し学んだ表現を使ったり、巻末の表現リストを活用した発展的な取組が設けられている。 ・児童が目標をもって取り組めるよう、年2回の発展的な発表の機会が設けられている。また、発表の時は円滑に活動ができるよう、発表用シートが設けられている。 ・最後に自分に関することを選んで書くことができるように、音声で十分に慣れ親しんだ上で「書くこと」を意識し、「なぞり書き→写し書き」のステップを踏む流れとなっている。

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に視覚的情報を手掛かりに聞く活動ができるように、紙面全体を用いた絵や写真が採用されている。また、各単元前半にインプットの機会が十分確保されるよう、聞く活動が複数設定されている。さらに、全体の内容を推測しやすいように、理解のためのキーワードを慣れ親しんだ言葉に限っている。 ・アルファベットは、第5学年の最初に、文字への関心を持続させながら形や読み方が習得できるよう、ゲーム的な要素が取り入れられている。また、同じ音をもつ語彙を集めた活動で音を学び、音に十分に慣れ親しんだ後に読む活動につなげる構成となっている。 ・やり取りの活動が円滑にできるように、参考となる例示がくり返し設定されている。また、児童がやり取りに関する言語活動をする際の助けとなるよう、「コミュニケーションを円滑にする」方略についてのコラムが紹介されている。 ・児童が目標をもって取り組めるよう、年3回程度、英語での発表の場面が設定されている。また、発表については、児童が無理なく取り組めるように、スモールステップで設定されている。 ・文を書く時には、単に書き写すのではなく、語句のサンプルを用いて自己表現できるように、語句と語句の間は空けることなどが紹介されながら、目標とする表現のみを書くことに絞られている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元では、映像や紙面を参考にして表現や語彙を理解できるように、映像を見ながら「聞くこと」を通したインプットから始め、音声のみでの聞くことへと学習が進められている。また、インプットの時間を確保できるように、単元の前半に聞く活動を充実させるよう設定されている。 ・文字を「読むこと」に継続的に慣れ親しむことができるよう、各単元の最後にアルファベットのページが配置されている。また、文字を読むことへの抵抗感を緩和するよう、他教科で学習した教材や、4コマになった分かりやすい内容の物語が盛り込まれている。 ・どんなやり取りをするのか、イメージがつかみやすいように、簡単な会話文とともに、イラストが効果的に用いられている。また、児童が無理なくやり取りの活動ができるように、聞き取りから発話などへの流れが段階的にくり返し設定されている。 ・単元末に行う発表を見通して学習を進められるよう、各単元の冒頭で単元目標が示されている。また、児童が無理なく取り組めるよう、発表の前段階に基となる資料を作成する活動が設定されている。 ・まとまった英文を書いてポスターなどの成果物を完成させる活動では、文章を書く時のヒントとなる例が提示されているとともに、書きやすくするためのワークシートが準備されている。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の初めでは、児童が目標となる表現に気付くように、アニメーションと紙面を参考にして英語を聞く活動が設けられている。また、各単元では、語句や表現を聞き取る活動、必要な情報を聞き取る活動、短い話の概要を捉える活動が系統的に配置されている。 ・各単元において、児童が音と文字を結びつけながら、必要な情報を読み取り、言語理解につなげられるようにするために、ゲーム的な要素も取り入れながら、様々な活動の中で楽しくアルファベットの文字に親しむ活動が随所に設定されている。 ・児童が、実際の会話において重要な継続性のある、やり取りができるようにするために、他者とのコミュニケーションをとる際に大切なことを学習した上で、各単元の学習に効果的に取り組める流れが随所に取り入れられている。 ・各単元で、人やものを紹介したり、自分のことを伝えたり、地域のことを発表する活動が設定されている。また、「気をつけよう」という指示が常にあり、発表を聞く際の反応について触れられている。 ・英単語や英文を書くことに慣れるように、書くことに関するゲーム的な要素を取り入れた活動や、文字をなぞったり、書き写したりする活動が系統的に設定されている。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が内容を推測し、理解できるように、場面やイラスト、ジェスチャーなどの手掛かりを基に、聞く活動が設定されている。また、毎時間の活動を通してスモールステップで学習が進められるよう、易から難へと内容が位置付けられている。 ・児童が必要感をもって取り組めるよう、実際の生活の場面に即した内容の「読むこと」の活動が展開されている。また、児童が語彙や表現の読み方に気付きながら、発音できるようにするために、くり返し読む活動が設けられている。 ・児童が即興的なやり取りの中でも活用できるように、ある程度決まったパターンのやり取りを行い、段階的に発展させる構成となっている。また、既習事項を使ったやり取りや、単元の導入に適したSmall Talkに使える素材となるイラストや写真が各単元で掲載されている。 ・活動を十分に行い、積み上げた上で集大成として発表活動を行えるよう、発表活動は各単元の最後で行い、語句や表現を「耳に慣らす→聞き取る→発話する」という流れになっている。 ・自分の考え等に合う語句を選び、例文を見ながら書き写したりする活動が随所に設けられていて、基本的な表現や語彙、文字を書くことを段階的に進め、少しずつ慣れ親しめるよう構成されている。

⑪ 小学校外国語活動との関連した構成となるよう、外国語活動で扱った音声や表現を取り上げるなどの工夫や配慮

東書	外国語活動で慣れ親しんだ表現がくり返し取り上げられ、何度も復習しながら英語の音に触れられるよう、導入部分が設定されている。また、慣れ親しんだ語や表現を使ってやり取りをする活動が随所に設けられている。
開隆堂	第5学年の冒頭部分において、無理のない接続ができるように、外国語活動で扱った内容をふり返ることから始められている。また、各単元の導入の聞く活動で、第3・4学年での学習を復習する内容が取り入れられている。
学図	第5学年では、第3・4学年で学習した表現をまとめて復習できる単元が設定されている。また、各単元においても、くり返し学習し、定着できるように、第3・4学年で学習した表現や語彙が何度も取り上げられている。
三省堂	第5学年の冒頭部分において、3・第4学年で慣れ親しんだ表現を復習しやすいように、既習の表現に関わる挿絵が取り入れられている。また、各単元では新出事項に加え、既習事項も活用してできる活動が設定されている。
教出	第5学年の冒頭で、外国語活動で扱った表現等を話す活動を通して復習できるように、それらに関係する挿絵を取り入れられている。また、第5学年最初の単元では、慣れ親しんだ表現を用いた聞く活動が設定されている。
光村	外国語活動から教科としての外国語への円滑な接続に向けて、コミュニケーションの上で大切にしたい態度や、外国語活動で触れてきた表現やアルファベットを確認したりする単元が随所に設けられている。
啓林館	第5学年の冒頭で、挿絵を見ながら慣れ親しんだ表現をふり返る活動が設定されている。また、各単元には、慣れ親しんだ表現を聞いたり、話したりする上で、児童のイメージづくりの助けとなる挿絵が取り入れられている。

⑫ 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人のくらしや、歴史、文化、自然などが、児童の発達段階や興味・関心に即して取り上げるなどの工夫や配慮

東書	自国の文化の理解に向けて、英語表記の地図で日本の名産や名物等に関する活動が設定されている。また、2年間を通して我が国の文化を学んだ上で、世界を見つめ直す力がつくように、第5学年では地域から日本のことを、第6学年では日本から世界のことを学ぶ流れで単元が設定されている。
開隆堂	音声や映像を通して、日本や海外の文化や人々の考えを知る活動が設けられている。世界や自分の住む地域とを比べながら理解を深められるように、世界の様々なあいさつの言い方や正月の様子が記載されている。また、日本の文化の理解にもつながるように、十二支や年賀状なども扱われている。
学図	自国の文化への理解を深められるように、日本の伝統文化について取り上げられている。また、多様な考え方に触れられるように、児童が行きたい場所やその理由を聞いたり、答えたりする単元や、異文化理解に向けて、様々な国の文化に触れる単元が設定されている。
三省堂	児童が世界における多様性を理解できるように、世界各国の文化や様々な地域の内容が掲載されている。また、第6学年では、児童が世界について興味をもつことができるように、巻末に付録として、各国の文化が写真とともに取り上げられている。
教出	児童が自分の住む地域や日本の良いところについて、進んで調べたことを伝え合える単元が設定されている。他国とのつながりを意識することができるように、第5学年では海外の学校の様子や手話、第6学年では外来語や絶滅危惧種をテーマにして、世界各国の言語や文化の紹介をする活動が設けられている。
光村	自国の文化に興味をもてるように、日本の文化などを紹介する単元が設定されている。世界で暮らす同年代の子どもの様子を知ることにより、日本との共通点・相違点を理解し、関心が高まるように、12人の様々な国の小学生が登場し、自分の国の様子や得意なことなどを紹介する単元が設けられている。
啓林館	複数の単元で、世界の文化について触れることができる活動が設けられている。第5学年では、世界の文化について理解できるように、世界の様々な料理の写真やイラストが紹介されている。また、様々な視点から日本の良さに気付くことができるように、日本の文化の紹介が複数掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① 各内容の分量とその配分は適切であるか。

東書	全単元を見開き4つのセクションからなる8時間抜いで、1ページを45分、各活動は主に約15分単位で構成されている。また、進度の目安がつきやすいように、1か月当たり1単元で、年間配当時数が70時間の設計になっている。各単元において、各技能がバランスよく円滑に行えるように構成されている。
開隆堂	1時間の活動が過重にならないように、基本的に1ページ1時間配当というつくりになっている。また、各単元において、身に付けた知識・技能を用いて、話し合い活動を行い、思考力・判断力・表現力を身に付ける流れで、身近なことから世界のことに視野を広げながら学習を進める配列となっている。
学図	各単元において、実態に応じて柔軟に学習できるよう、1つの活動を15分で行う構成としている。第5学年では、外国のことを知ることを目標として、随所にインプットを得る活動が取り入れられ、第6学年では、日本のことを発信することを目標としながら、アウトプットの機会を増やしている。
三省堂	第5・6学年において、それぞれ6つの言語活動の目標が設定され、学びを深めるために大単元と小単元を段階を追って学習する配置となっている。また、児童の実態に応じて時数を調整し、単元によって弾力的に運用できるように、各学年で余裕をもたせた年間指導時数が設定されている。
教出	一部を除いて各単元は7時間配当を基本として、新教材「We Can!」とほぼ同様の進め方ができる分量となっている。第5・6学年ともに、習得した内容を活用する時間を考慮した上で年間指導時数に余裕をもたせている。2年間を通して、児童が無理なく学習できるように、段階的に内容が配列されている。
光村	児童にとって、教材の難易度が平易なものから段階的に高くなるように配列されている。また、第5・6学年を通して一貫したストーリーとなっており、各単元では、見開きの2ページずつで基礎的な知識・技能の習得から活用によって思考力・判断力・表現力を養う共通した構成になっている。
啓林館	概ね「We Can!」に沿った配列になっており、第5学年では、主に身近なことについて英語で表現する内容を、第6学年では身の回りのことをさらに詳しく調べたりする内容が随所に扱われている。また、必要に応じて扱うことのできる、個に応じた活動や読み物教材等が設けられている。

② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

東書	紙は軽くて丈夫、かつ裏抜けのしにくいものを使用しているとともに、巻末は書き込みのしやすい用紙に変更されている。児童が書き込んだり、切り貼りしたりする本体は大判（A4判）に、中学校の学習を見据えた、別冊の語彙・表現集は、携帯に便利なA B判サイズになっている。
開隆堂	児童が書く活動に円滑に取り組めるように、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が使用されていたり、記入欄に罫線が設けられたりしている。製本は、「あじろ綴じ」を採用し、大きく開くことができるつくりとなっている。表紙は、汚損しにくいように、強度の高い加工が施されている。
学図	製本は、針金を使用せず、大きく開き、紙面をより広く使ったレイアウトになるような綴じ方が採用されている。表紙は、折れにくく、汚れてもふき取りやすい加工が施され、他は軽量で鉛筆等で書き込みやすい用紙が用いられている。
三省堂	イラストや写真が大きく見やすくなるように、大判（A B判）が採用されている。また、単語を書き写す活動のときに見やすく分かりやすくなるように、語彙・表現集が別冊になっている。さらに、白色度の高すぎない紙が使用され、長期間の使用に耐えられるような製本となっている。
教出	用紙には、目が疲れず地球環境に配慮し、過度に白色度が高くない軽量の再生紙が使用されている。製本は長期間の使用に耐えられるようなものになっている。また、折れにくく、汚れをふき取りやすい加工が施されている表紙になっている。
光村	横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せる横幅の広いA B判が採用されている。表紙は、折れにくく、汚れをふき取りやすい加工が施され、製本は中央が最大限開く「あじろ綴じ」が採用されている。軽くて裏移りしにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が使用されている。
啓林館	イラストや写真を効果的に掲載できるように、大きな判型（A B判）で、ページを大きく開けるように、針金を使わない「あじろ綴じ」製本が採用されている。環境に配慮するとともに、書きやすく、消しやすい、軽量で丈夫な再生紙が使われている。

③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	児童が内容を推測しながら聞くことに役立つ場面や状況を示すイラストや写真が用いられている。また、文中で場面や状況に注目させたり、言葉を入れ替えさせたりしたい箇所には、色つきの網掛けがしてある。児童が何を学習するのか、どの技能を習得するのかが分かるように、各活動を5領域の技能アイコンで示されている。
開隆堂	児童の発達段階に応じて、分かりやすく、読みやすい文章表現や、語彙や活動のイメージが湧くような写真やイラストが複数用いられている。また、文字の大きさも適当で、手書きに近い欧文書体が用いられている。さらに、各単元末に、色を塗ることで、児童が学習状況をふり返ることができるマークが配置されている。
学図	学年配当漢字や上位学年配当漢字には全てふりがながつけられている。児童が活動内容を一目で理解しやすいように、活動内容によって決められた記号や、視覚的に理解を促すためのアクティビティアイコンが用いられている。また、四線の二本目と三本目の間が広く開いていることで、文字が書きやすくなっている。
三省堂	原則的に該当学年前までの配当漢字が使用されており、該当学年以上の漢字にはすべてふりがなが付けられている。また、各単元の初めにあるイラストは、児童が隅々まで探したくなるように、細かく描かれ、様々な情報が詰められている。さらに、教科書の冒頭のページで、紙面構成や記号について丁寧に説明されている。
教出	児童の想像力を高め、音声や英文理解を助ける挿絵、図版、写真が採用され、地図のようにつなげて見たいものは、見開きで掲載されている。また、書く練習がしやすいように4線の二本目と三本目の間が広く空いている。さらに、児童が内容を理解しやすいように、文章の改行位置が文節で区切られている。
光村	発達段階や教材の内容に応じた文字の大きさや文字組になっており、書くことの教材では意図して大きな文字が使用されている。また、児童が内容を推測しやすいような写真やイラストが複数使われている。各単元の初めに、児童の興味を引くためのイラストや、見通しをもって学習に臨むための学習目標や流れが掲載されている。
啓林館	児童が語彙や表現についてイメージしやすくなるように、イラストが複数用いられ、必要な場面では写真も掲載されている。また、未履修の漢字には、すべてふりがなが付けられている。さらに、児童が身に付ける力を意識しながら学習できるよう、どの領域に関する活動等なのか、分かるようなマークが設定されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
三省堂	日本の名所の一つとして横浜中華街が取り上げられている。
教出	思い出の行事の紹介として、横浜への修学旅行が短文で紹介されている。
光村	神奈川県出身のプロバスケットボール選手の「田臥勇太」氏が世界で活躍する日本人として紹介されている。
啓林館	自分の住む地域の紹介において、横浜のベイブリッジが示され、神奈川県が取り上げられている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			開隆堂			学図			三省堂		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年
	/	/	有	/	/	有	/	/	有	/	/	有
URL、二次元コード等の掲載の有無	教出			光村			啓林館					
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年			
	/	/	有	/	/	有	/	/	有			

③ 一冊ごとの重量 (g)				
発行者名	総冊数	5年	6年	5・6年
東書	3	280	280	116
開隆堂	2	362	379	/
学図	2	431	425	/
三省堂	2	310	292	/
教出	2	331	336	/
光村	2	358	366	/
啓林館	2	300	300	/

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以上で、道徳的価値の理解につながる発問が、「考えよう①」として設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、人と関わり様々な考えにふれることのできる教材が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返りができるよう、未来の自分へ向けた「かがやく自分に」や「学習のまとめ」が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「いじめ」について概念的、直接的、間接的に様々な視点から考えるために、複数の教材を関連づけた設定がされている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報機器の扱い方や手紙を書くときの注意など、情報モラル学習や、トラブル防止につながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、キャリア教育、環境教育など、学んだことを将来や社会につなげるための「つながる・ひろがる」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 活発な意見交流のために、話し合いの約束を含めた学習の進め方が解説された「道徳の時間が始まるよ！」が巻頭に設定されている。 □ 第3学年「通学路で、どんなしぜんに出会うかな」では、自然・地域に関して、理科や社会の内容と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、自分の考えを整理できるように、言語活動を行う上での手引きとなる「考えるステップ」が教材の終わりに設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第3学年「ふるさといいとこさがし」など、文化や郷土の発展につくした先人についての教材等が設けられている。 □ 体験活動の充実に関して、日常の体験に関した教材から、自分の体験活動へにつなげるために、第3学年以上で、「つながる・広がる」のコーナーが設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年では、幼児教育との連携、第6学年では「これからもかがやく自分に！」で中学校との連携を図った教材が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で、巻末にある補助的な教材を通して、情報モラルについて学べるように設定されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材の冒頭で「どんなことを考えながら読んでいくか」が例示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各内容項目が冒頭に「学習のテーマ」として表示されている。また、第3学年以降は「考えよう」という発問コーナーが設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉えるために、発達の段階、興味に合わせた内容の活動型教材が設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉える力を育むために、人との関わりの中でお互いの考えを伝え合う、「出会うふれ合う」のページが設けられている。 □ 第3学年以上において話し合いの手引きになる「考えるステップ」が設けられている。「考えるステップ」の中に役割演技が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「問題を見つけて考える」などの活動について、マークを用いて、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	学図	書名	かがやけ みらい
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、道徳的価値に気づく「きづき」、考えを深める「まなび」の2冊で構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、思考力・判断力を「きづき」、表現力等を「まなび」で学ぶ設定になっている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、全学年冒頭に「きづき」が、題材名の下には記述欄が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、人との関わり合いを意識して学べる教材が「ともにいきる」というマークで重点的に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関してSNSやスマホゲームの扱い方などを通して、情報モラル、節度や相互理解を学ぶことにつながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、地域活動への関心を高め、良さを知り、関わろうとする態度の育成を図るために、「きづき」巻末に「ふるさとコラム」が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学びを深めるために「主題」が子どもにわかる言葉で表示されている「道徳ノート」が、内容項目ごと設定されている。 □ 第1学年巻末のふるさとコラムで、「わたしたちの町」に関する内容が、社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、充実した話し合いができるように、自分の考えと、他の児童の考えをそれぞれ記入するコーナーが、「まなび」に設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第2学年「もっと知りたい私の町」などの教材がある。また、各学年に「ふるさとコラム」が設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、役割演技を通して、児童が道徳的価値について主体的に考える学習活動には、「やってみよう」のマークが明示されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年の道徳授業開きで、他の児童との輪を広げられるよう、簡単なコミュニケーション活動が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、各学年に情報モラルに関する教材、第2学年から情報機器の取り扱いについての教材が取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、挿絵や写真、グラフなどがバランスよく配置されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに、「きづき」「まなび」の2冊の構成となっており、「まなび」には、様々な立場から考えるための発問や自分の感じたことを記述する欄が設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「きづき」は児童自らが考えたいこと、話したいことを設定できるように、発問などを例示していない。「まなび」は児童の実態に合わせた複数の発問が例示されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自らの考えを広げたり深めたりするために、「まなび」では複数の教材を並列して設定している。 □ 問題解決的な学習で「きづき」が設けられている。別冊「やってみよう」で役割演技などが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「ともにいきる」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「ともにいきる」、「情報モラル」などの活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	教出	書名	はばたこう明日へ
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学ぶことが明確になるようなヒントが、冒頭に「キーワード」として掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、役割演技や行動に関する発問を取り入れ、実践につながるよう設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、第2学年から「一番大切なもの」が、全学年巻末に振り返りが設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、性別や人権について考える題材や「コラム」が随所に設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、携帯電話のマナーや情報モラル、著作権問題などが題材とされている。また、節度や礼儀につながる教材が設けられている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、各学年ともに「地域と自分との関わり」について考える題材や、現代社会における様々な課題に向きあえる題材を設けている。 		
3 内容・構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 道徳的価値について、より深く考えるために役割演技などを行う「考えよう」「深めよう」「やってみよう」というコーナーが設けられている。 □ 第3学年「どうしていけないのかな」では、「見学マナー」に関する内容が、社会科見学と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、「話し合い」や「役割演技」、「書くこと」の取組みができるように、巻頭に「道徳ではこんな学習をするよ」を設けている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する「祖国にオリンピックを」などの教材が補助教材も含めて、随所に設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、教材文の途中、もしくは教材文のあとに「やってみよう」のコーナーが設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年はイラストがメインになっている。第6学年では「中学生になってがんばりたいこと」などが設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、「情報モラルをまもる」を重点テーマの一つに設定し、個人情報や著作権について取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、導入の問いかけや考えるヒントになる発問が伝わるように、キャラクターの吹き出しが設定されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教材の最後に「考えよう」、「深めよう」のコーナーが設けられている。また、何について考えるかを示唆するためにキャラクターが設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分自身の問題と捉え、互いに意見を交流できるように、教材のあとに「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の項目があり、発問例が設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、発達の段階に応じて、偉人の考えに触れることができる題材が設定されている。 □ 問題意識を持つための拡大ページが設けられている。「やってみよう」で役割演技などが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「現代的課題」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考えよう」、「深めよう」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	光村	書名	きみが いちばん ひかるとき
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童の発達段階に合わせ、1年間を3つのまとまりにわけて、教材が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるようなコーナー「なんだろうなんだろう」や、結末がない教材が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、学期ごとの「学びの記録」、1年間の「まとめ」のコーナーが設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「オリンピック」や「人権」、「震災」を意識した現代的課題に関する題材が随所に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報モラルや著作権などをコラムや教材としている。また、自由と責任などの内容項目で複数の教材を関連付けた設定がされている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、「環境」や「国際理解」など現代的な課題については、考えを深めるために、複数の教材を関連づけた設定がされている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的に考えることができるように、教材によっては、教材文の途中に「問い」が設けられている。 □ 第5学年「祖母のりんご」では、「詩」に関する内容が教材末に設けられ、国語の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、児童が自己評価の記録を残し、自身の変化や成長を自覚できるように、「学びの記録」が数か所設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する5年「曲げわっぱから伝わるもの」(お弁当箱)など、身近な教材が発達の段階に応じて取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、「演じて考えよう」等のコーナーで他の児童が演じるのを見ながら考え、話し合う活動が適宜設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年は学びを楽しく感じるよう、イラスト等が随所に設けられている。第6学年は中学生生活を想像させる教材が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で「情報とむきあう」というテーマが教材とコラムを組み合わせたユニット教材として取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、題材の中の登場人物などには随所に振り仮名が振られている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに教材の最後に理解を深めるための問い「考えよう」、「話し合おう」、「つなげよう」が設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 考えを深めるために、複数の異なった視点からまとめたり、活動を紹介したりする、「考えよう・話し合おう」や「つなげよう」というコーナーが設定されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える楽しさを実感できるように、「なんだろうなんだろう」というコーナーが設けられている。 □ 自分自身のこととして問題意識を持たせるために各教材の冒頭にキャラクターが設けられている。体験的な学習の役割演技では第三者の役割も設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「現代的課題」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ B変形判、「目次や吹き出し等には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	日文	書名	生きる力
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、教材の最後にねらいに迫る発問の例「考えてみよう」が設けられている。 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、インターネットを使った学習例や役割演技による学習が設けられている。 <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、「道徳ノート」で1年間で学んだことをまとめるコーナーが設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① <input type="checkbox"/> 「思いやる力」に関して、各学年ともに、人との関わりを重点テーマとして、複数の教材を関連づけた設定がされている。 ② <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」に関して、「心のベンチ」として思いやり、命、情報モラルなど現代的な課題を取り扱った教材が設けられている。 ③ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」に関して、環境問題、安全、キャリア教育など現代的・社会的な課題を考えることができる題材が設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「問題解決的な学習」や「体験的な学習」についての題材には「学習の手引き」が示され、例として活用できるように設定されている。 <input type="checkbox"/> 第5学年「命」では、「命についての詩」に関する内容が、国語や理科の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言語活動の充実に関して、教材から気づいたことや感じたことを書き留めることができるように「道徳ノート」は題材順にページが構成されている。 <input type="checkbox"/> 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「天下の名城をよみがえらせる」日本の文化遺産を保持していく人々などの教材が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 体験活動の充実に関して、役割演技や動作化の写真を提示し、児童の配置や必要な小道具、配慮事項など明示した「学習の手引き」が設けられている。 <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年が道徳科の授業に興味を持てるように、巻頭にかかるた風にしたイラストや、写真が設定されている。 <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成に関して、第1・2学年では、情報の持つ意味や影響を考えさせる教材が、第3・4学年以降では、実際の通信機器に関する教材が取り上げられている。 <input type="checkbox"/> 児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材のあらすじと登場人物が最初にまとめて掲載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各学年ともに教材の冒頭に「導入の発問」と「あらすじ」が教材の最後に、「考えを深めるための発問」が設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 学びを促し、議論を活発に行えるように、学習の進め方が「道徳のまなび方」に例示されている。 <input type="checkbox"/> 自己を見つめ、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるように、教材と関連した活動ができる「こころのベンチ」のコーナーが設けられている。 <input type="checkbox"/> 「学習の手引き」に問題をつかむ、解決を目指す学習の流れや発問がある。また、「学習の手引き」に具体的な体験的な学習の例が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 <input type="checkbox"/> AB判、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 <input type="checkbox"/> 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「インターネットを使う」などの活動について、マークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	光文	書名	ゆたかな心
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、教材ごとに道徳的価値の理解・追求につながる発問例が掲載されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、下段にキャラクターが「考えたい発問」を投げかけるコーナーが設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、巻末に毎時間ごとの「学びの足あと」と1年間の「まとめ」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、他者の良さを認める心や、差別や偏見をなくすための「人権」に関するコラムが設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、情報モラルや著作権などの現代的な課題を考えられる教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、多様化する社会で、自分の将来について考えられるキャリア教育などの題材が設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が目的意識をもって主体的に学習に取り組めるよう、教科書の冒頭にオリエンテーションとして、「さあ、道徳の学習が始まります」が設けられている。 □ 第3学年「郷土かるた」では、「コラムや地域」に関する内容が、国語や社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、自分の考えを表現する力を継続して育てるように、授業後に記録をつける「学びの足あと」が設けられている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「よみがえれ熊本城」など、地域に根付いた文化や行事、先人についての教材が取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、第1学年「あいさつでげんきに」では、実際にあいさつをする活動など、学校の活動の時期に合わせて体験できる教材が設けられている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年初期は、イラスト中心の題材が設定されている。第6学年では中学校への接続を意識した教材が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、全学年で情報モラルの教材やコラム、副題材で具体的な情報機器の使い方が全学年で取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、児童にとってなじみのない言葉は脚注が施されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに冒頭で登場人物を紹介している。また、マンガやアニメを用いた教材が随所に設定されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童がより多角的・多面的に考えることができるように、教材の下段に「考える」という児童に問いかけるコーナーが設けられている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉えた考え方に発展するように、3種類のキャラクターが思考を促すような問いを出すように設定されている。 □ 経験や生活を結び付け自ら問いが持てるような発問が設けられている。実際の場面を想定した問題解決的な学習が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A4変形判、「特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとさせていただきます。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「みんなでやってみよう」などの活動について、マークも用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	学研	書名	新・みんなの道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、色分けされたいくつかのマークで「4つの視点」や学習の仕方が明示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、各教材に主題名が明示されていない。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるように、冒頭に「myProfile」が、巻末に「心の宝物」が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、「いのち」と「生き方」の内容項目が複数の教材どうしを関連付けるなど、重点的に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、SNSの使い方などをはじめとして、情報モラルなどの現代的な課題を考えられる教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、キャリア、福祉、環境など、現代社会の様々な課題に自ら関わりを持って考えられるような教材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的に考え、他の児童と意見を伝え合い、考えが深められるように、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のページが設けられている。 □ 第5学年「アルソミトラの空」は、「種子」に関する内容が、理科の「植物の発芽」の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、充実した話し合いができるように、自己を振り返りながら、自分の考えを記入した後に、意見交換をする活動が設けられている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する第6学年「大みそかの朝に」などの教材が各学年に設定されている。 □ 体験活動の充実に関して、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが適宜設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年ではゲーム性のあるものを扱い、第6学年では中学生になる自分を想像させる内容が設けられている。 □ 情報活用能力の育成に関して、情報モラルに関する教材が全学年、「SNSの利用」や「個人情報の取り扱い」など発達の段階に応じて取り上げられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、写真や絵、本文が大きく表示されている。発達の段階に応じて、人物名などに読みがなが施されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年ともに教材の最後に「学習の道筋」が例示され、学習のめあて、問いが掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が教材と出会った際に感じたことを大切にするため主題は明示していない。他の児童と考えを伝え合う場面が「やってみよう」などのコーナーに設けられている。 □ 道徳的価値を多面的にとらえられるように、2つの教材を学習したあとに考えるコーナーが設けられている。 □ 問題解決的な学習で、役割演技などで学んだことをもとに自己の振り返りへとつなげる「深めよう」のコーナーが設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「いのちの教育」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A4判、「ユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考える」、「書く」等の活動についてマークを用い、目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-9～道徳-19)を参照

発行者の略称	廣あかつき	書名	小学生の道徳
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、道徳的価値の追求・理解につながる複数の発問例が教材の最後に設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、多面的・多角的に考えられるよう、自分のこととして考えられる発問と、記入欄が「道徳ノート」に設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自己を見つめ、振り返ることができるよう、「道徳ノート」に「心に残っている授業の記録」等が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関して、共生の観点から全学年にいじめ防止の教材がある。高学年からは実際にいじめを体験した人の話など現実的な教材が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関して、スマホの扱い方、著作権問題などの情報モラルに関する教材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関して、社会と自分とのかかわりについて考えを深められるよう、家族と一緒に考えて書くコーナーなどが「道徳ノート」に設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的な学習につながるよう、別冊の「道徳ノート」の中で、自分が自分自身を振り返り、自らに問う内容の発問が設定されている。 □ 第5学年「だれも知らないニュース」では、「身の回りの情報」に関する内容が、社会の学習と関連しているなど、各教科等につながる教材が随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語活動の充実に関して、「学習の記録」として感じたことや考えたことを自由に記述できるように、「道徳ノート」に「学習の記録」として記述する欄が設定されている。 □ 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する古来より技術と心を伝える宮大工などの教材やコラムが取り上げられている。 □ 体験活動の充実に関して、第2学年「こんなときどうするの」など体験的な学習を促す教材が随所に設定されている。 □ 学校段階間の円滑な接続に関して、第1学年の最初の段階ではイラストが中心になっている。これからの小学校生活について考えられる教材が設定されている。 □ 情報活用能力の育成に関して、「特集」としてインターネットや著作権について情報モラルに関する教材やコラムが設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、登場人物の名前には読みがなが施されている。「道徳ノート」巻末に学習の記録を書くなど、まとめやすい設定がされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 低学年は「考えよう、話し合おう」、高学年は「学習の道すじ」として、本時のめあてと問いが掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自分のこととして捉えられるような発問例が、各教材のあとに複数掲載されている。 □ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉えるために、多様な考え方、生き方に触れられる、伝記や各分野で活躍した著名人を扱った題材が掲載されている。 □ 「学習の道すじ」で発問例が示され、「道徳ノート」で、見方・考え方を書き込むように設定されている。体験的な学習を促す教材が随所に取り上げられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 「善悪の判断」「親切・思いやり」「生命尊重」に重点を置きつつ、学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。 □ A B判「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。 □ 四つの視点をそれぞれマークで表している。発達の段階に応じた文字の大きさ、書体、行間に配慮した目で見て分かりやすい設定がされている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《特別の教科 道徳（道徳）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	第2学年以上では、「考えよう①」として教材の最後に道徳的諸価値を理解するための主発問を示している。また、自分のこととして考えられるように「考えよう②」が設定されている。
学図	道徳的諸価値に気づくための「きづき」、自分の考えを深めるための「まなび」という2冊構成になっている。また、「まなび」においては、項目ごとにページがまとまっており、一目でわかるよう設定されている。
教出	考えるヒントになったり、学ぶことが明確になったりするように教材の冒頭に「キーワード」が設けられている。また、「深めよう」「やってみよう」という学びの手引きがあり、自分のこととして考えることができるよう設定されている。
光村	学校生活や児童の発達段階に合わせて学べるように、1年間を三つのまとまりにわけて、教材が設定されている。また、三つのまとまりごとに内容項目「A・B・C」のいずれかに重点を置いている。
日文	ねらいに迫る主発問の例が「考えてみよう」として教材の最後に設けられている。また、「道徳ノート」は見方・考え方を書き込むように設定されている。さらに、「考えてみよう」「見つめて・生かそう」に発問の例がある。
光文	教材ごとに道徳的価値の理解・追求につながる発問例を示している。教材を通して考えさせたいことを「問い」として示すことで、その時間に考える視点を与えている。
学研	色分けされたいくつかのマークで、「4つの視点」や、学習の仕方が明示されている。また、「学びの足跡」・「心の宝物」というコーナーで、1年間の振り返りができるように設定されている。
廣あか つき	道徳的価値の追求・理解につながる複数の発問例が各教材の最後に「学習の道すじ」として記載されている。また、関連する書籍の紹介が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	人と関わることで様々な考えにふれ、学ぶために、読み物のほかに、活動型の教材が設定されている。また、保護者と一緒に考えられる内容にもなっている。
学図	思考力・判断力を、価値や発問例が記載されていない「きづき」で、表現力や多面的・多角的な考え方を、発問例がある「まなび」で育成するために2冊構成になっている。
教出	「役割演技」や「行動について考えるさせる発問」を取り入れて、道徳的価値の実践まで考えさせる構成となっている。さらに、「やってみよう」のコーナーで「スキル」としてでロールプレイなどをする場面が設定されている。
光村	主体的に考えたいくなるような発問を取り入れた「なんだろうなんだろう」や、結末が書かれていない教材を取り入れ、多面的・多角的な考えを引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるよう設定されている。
日文	現実的・社会的課題な題材、インターネットを使って学習できるホームページと連動した教材がある。また、ロールプレイを行う題材もある。
光文	題材下段のキャラクターが考えたいくなるような発問を投げかけ、思考・判断・表現力の育成につながるよう設定されている。また、どの学年にも情報モラルを考えさせる教材がある。
学研	「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、教材に主題名を入れないことで、多面的・多角的に考えられ思考力の育成につながるよう設定されている。
廣あか つき	「道徳ノート」で内容項目ごとの整理がされている。また、題材末の「考えよう 話し合おう」のコーナーに「学習の道すじ」が例示されている。

③	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮 (まとめ・自己を見つめる・振り返りの工夫)	
東書	自己の学びを見つめることができるように、「学習の記録」、「学習の振り返り」、「学習のまとめ」などの振り返りのページが設定されている。また、2年生以上では、道徳的諸価値の理解ができるような主発問例が各教材の最後に「考えよう①」で掲載されている。	
学図	全学年の冒頭で学びの土台を築く、「きづき」を配置している。教科書を「まなび」「きづき」の2冊に分けている。「まなび」には学習したことを通して、自己を見つめる学習活動が掲載されている。	
教出	学年段階をふまえて、自分の成長や1つ上の学年でがんばりたいことを見つけるために、第2学年からは巻頭で「一番大切なもの」、各学年ともに巻末で「一年間の道徳の学習を振り返ろう」が設けられている。	
光村	学期ごとに「学びの記録」で学んだことを書くコーナーが設けられている。また、「まとめ」として、1年間を振り返ることができるように設定されている。さらに、「つなげよう」の中で、これからの自分と行動をつなげる発問例が示されている。	
日文	巻頭の「道徳の学び方」で導入から終末までの学習過程が分かるようにしている。また、教材の最後に「考えてみよう」のコーナーがあり、ねらいに迫る主発問が例示され、「道徳ノート」に自分の見方・考え方を書き込むように設定されている。	
光文	各教材の最後の「広げる」で、日常に生かすヒントが設けられている。また、毎時間の学習で振り返ったことを巻末の「学びの足あと」で、一年間の自己の振り返りが「まとめ」のコーナーにそれぞれ設定されている。	
学研	一年間の自分の成長を振り返るために冒頭に「my Profile」、巻末に「心の宝物(学びの足あと)」が設定されている。さらに、「つなげよう」でこれからの自分の生き方につながるように設定されている。	
廣あかつき	「道徳ノート」巻末、「学習の記録」、「話し合いの記録」、「他の活動の記録」、「心に残っている授業の記録」のコーナーで、自由記述をし自分の成長を書き込めるような設定がされている。	

2 かながわ教育ビジョンとの関連

①	【思いやる力】 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	いじめ防止の視点から、どの学年でも複数の教材を関連付けた学習が設定されている。また、「いじめ」について概念的、直接的、間接的にと様々な視点から考えることができるように設定されている。	
学図	多くの人とのかかわり合いの中で生きていることを意識するために、「ともに生きる」という項目マークを設けてわかりやすく表示されている。	
教出	人権について考える教材が随所に取り入れられている。「男子と女子と協力し合って」では、実際の児童の作文を提示しながら、自分達に置き換えて考えられるような設定がされている。	
光村	現代的課題(オリンピック、人権、震災)を意識した題材が随所にある。また、いじめ問題について、複数時間連続して考え、学びを深めるために複数の教材を関連付けた学習が設定されている。	
日文	人間関係や命の尊さなどをテーマとした教材を組み合わせ、集中的に学習するように設定されている。思いやりや命の大切さといった心情や態度を育成する内容も設けられている。	
光文	他者の良さを認める心や、差別や偏見をなくすために、教材の最後にコラムを設け、考えを深められるような設定がされている。	
学研	「いのち」と「生き方」を柱とし、「見つめよう つながる命」のように内容項目の異なる複数の教材を関連付けた学習が設定されている。	
廣あかつき	いじめ防止の教材を発達段階に応じて掲載。低学年、中学年では直接的ないじめの内容は配置せず、高学年からいじめは実体験など直接的に扱ったものを配置している。	

②	<p>〔たくましく生きる力〕 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮</p>	
	<p>(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)</p>	
東書	<p>情報モラルに関しては、情報機器の扱い方や手紙を書くときの注意などが取り上げられている。また、「いじめ」については概念的、直接的、間接的にと様々な視点から考えることができるような教材が設定されている。</p>	
学図	<p>情報モラルに関しては、SNSやスマホゲームの扱い方などを教材として取り上げ、節度や相互理解の内容で扱うように設定されている。また、多くの人とのかかわり合いながら生きていることを意識しながら学べるような題材が設けられている。</p>	
教出	<p>情報モラルに関しては、携帯電話活用のマナーやインターネット上の扱い、著作権問題、仲間外しなどを教材として、節度、節制や礼儀などの内容で取り上げている。</p>	
光村	<p>インターネットのマナーや、著作権に関する教材を、コラムと関連付けて教材を取り上げ、自由と責任や礼儀などの内容で扱うような設定がされている。さらに、教科書巻末に「現代的な課題等との関わり」が提示されていて、必要に応じて単元を再構成できる。</p>	
日文	<p>情報モラルに関して、低学年では日常の経験に関連したことや、情報の持つ意味について。また、中学年以上では通信機器を扱い、セキュリティ問題等を取り上げている。さらに、「心のベンチ」として「思いやり」、「命」、「情報モラル」など現代的な課題が取り上げられている。</p>	
光文	<p>目次の中に「情報モラル」、「命」、「いじめ」が明記されている。さらに、情報モラルに関しては、インターネットのマナーとやりとり、著作権問題などの教材をコラムと関連付けて教材を取り上げ、自由と責任や礼儀などの内容で扱うように設定されている。</p>	
学研	<p>情報モラルに関する題材であることを示すマークを入れている。また、SNSに関することなど、誰にでも起こりうるトラブルの場面を想定した教材が設定されている。</p>	
廣あかつき	<p>情報モラルに関しては、スマホの扱い方や著作権などを教材やコラムとして取り上げ、思いやり、親切の内容で扱うように配慮している。また、「命の尊さ」についての教材が各学年ともに特集ページを設けるなど複数回取り上げられている。</p>	
③	<p>〔社会とかかわる力〕 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫</p>	
	<p>(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)</p>	
東書	<p>題材に関する内容が記載されたコーナー「つながる・ひろがる」がある。キャリア教育、環境教育などを題材以外にも広げるために有効なコーナーである。</p>	
学図	<p>地域の活動への興味・関心を高め、地域の良さを知り、かかわろうとする態度の育成を図り、「きづき」の巻末に地域ごとの活動や特色について取り上げた「ふるさとコラム」が設定されている。</p>	
教出	<p>各学年「地域と自分との関わり」について考える教材が複数掲載されている。また、福祉教育、キャリア教育、自然環境保全教育など現代社会における様々な課題に向きあえる多様な教材が設けられている。</p>	
光村	<p>長期休み前に「環境」「国際理解」を扱ったコラムが設定され、「夏休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」というコーナーが設けられている。</p>	
日文	<p>環境問題、安全教育、キャリア教育など現代的・社会的な課題を考えることができる題材が設けられている。巻頭の「道徳のとびら」において学校・家庭・地域の連携が提示されている。</p>	
光文	<p>多様化する社会で生きる子供たちが現代的な課題を考えられる題材を随所に取り入れている。勤労奉仕にかかわる内容で、社会貢献の題材が紹介されている。</p>	
学研	<p>現代社会の様々な課題に関わる教材が充実しており、仕事に対する使命感に関する教材など、子どもが自ら関わりをもって考えることができるように設定されている。また、福祉に関する教育、環境教育なども設けられている。</p>	
廣あかつき	<p>別冊の「道徳ノート」に、家族と一緒に考えて書くコーナーや、地域の人や身近な人たちに尋ねたことを記入するコーナーが設けられており、社会と自分との関わりについて考えを深められるよう設定されている。</p>	

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	「気づく」→「考える」、「話し合う」→「振り返る」、「見つめる」→「生かす」など話し合いの約束とともに道徳の学習の進め方が書かれている。また、教材の導入で短い文章、イラストや写真などがあり、子どもたちの活発な意見交流が期待できる。
学図	道徳ノート「まなび」は、内容項目ごとにまとめられており、主題が子どもにわかる言葉で掲載されている。また、自分の考えと他の児童の考えを書く欄がある。ふたつあることで自然と議論を促している。
教出	役割演技を行ったりしながら道徳的諸価値についてより深く考えられるように、「考えよう」「深めよう」「やってみよう」という項目が設けられている。
光村	教材末にある「考えよう話し合おう」に「めあて」と「問い」が明記してある。教材によって文末だけでなく、文の途中に「問い」があるものがある。
日文	「問題解決的な学習」や「体験的な学習」についての教材に続いて「学習の手引き」が示されており、指導の参考例として活用できるようになっている。
光文	教科書の冒頭にオリエンテーションとして「さあ、道徳の学習が始まります」が設けられており、児童が目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるようにしている。
学研	主体的に考え、他の児童と意見を伝え合いながら考えを深めるために、「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	主体的・対話的な学習につながるよう、様々な読み物教材が設けられている。また、「道徳ノートの」中で、自分が自分に問う発問が提示されており、より主体的・対話的に学習活動が展開できるよう設定されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	「つながる・広がる」という項目において、各教科との関連が図られている。第3学年以上の学年にそれぞれ複数回掲載されている。巻末の付録において他教科で指導している内容と関連付けたものが載っている。
学図	学校行事や、学校での生活をもとにした教材が随所に配置されており、教材の配列は他教科等の学習時期、実際の学校行事と対抗する時期に扱うことができるようにしている。
教出	他教科や特別活動、学校行事や年中行事などとの関連が図りやすい教材配列にしている。「どうしていけないのかな」は、スーパーマーケットの見学時のマナーについて考える題材で、社会科見学と関連を図るよう設定されている。
光村	1年間を3つのまとまりに分けており、児童の発達段階と時期に応じて「A～C」の視点に重点を置いている。「D」は年間を通してバランスよく設定されている。
日文	他教科の学習活動を素材とした教材を設定すると共に、「学習の手引き」で特別活動などの体験活動を生かした展開例を例示している。また、「命」は国語の詩の学習や理科生命の誕生に関連する内容となっている。
光文	各題材の「広げる」で、学習を家庭や地域、他教科へ広げる提案をしている。他教科とつなげて効果的に学習できるコラムを配置している。「郷土かるた」は、葛飾区の郷土かるたの例から、自分たちのまちのよさを学ぶように設定されている。
学研	各学年において各教科等での道徳性の育成につながる教材が配置されており、関連させながら年間指導計画が作成できるようになっている。また、家庭や地域との連携を図りながら道徳的価値の視点で学習を深められる教材を扱っている。
廣あかつき	国内の各地域に関連する教材が複数取り上げられている。また、各学年、他教科に関連する教材が取り扱われている。「だれも知らないニュース」は情報に関する内容となっており、第5学年社会、身の回りの情報の学習に関連している。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	「問題を見つけて考える」教材が、各学年ともに設定されており、題材の終わりには「考えるステップ」が示され、言語活動を行う上での手引きとなるように設定されている。
学図	「まなび」に自分の考えを記入し、他の児童の考えも記入する欄が設けられている。このような学習活動を積み重ねることによって言語活動の充実が図れるよう配慮されている。
教出	巻頭「道徳ではこんな学習をするよ」において、話し合い活動や役割演技など学習の内容がイラストとともに分かりやすく記載されている。
光村	学年ごとに「学びの記録」が設定されており、児童が自己評価の記録を残していくことで、自分の変化や成長を自覚できると共に、言語活動の充実も図れるよう設定されている。
日文	教科書にはさめる形で「道徳ノート」がある。各教材、主題についての自分の考えを書く欄が確保されている。また、最後には「保護者記入欄」が設けられている。
光文	言語活動の充実に関して、巻末の「学びの足あと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力を継続して育めるような設定がされている。
学研	自己を振り返りながら、自分の考えを記入してからお互いに意見交換をする活動を通して、言語活動の充実が図るように設定されている。
廣あかつき	書く活動を充実させるために、別冊ノートが設けられている。内容項目に関する箇所だけでなく、1時間の学習や学期末の学習を振り返ったり、話し合い活動の際に活用できたりするようなページがある。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を扱う教材や中・高学年では「付録 つながる 広がる」において伝統文化や郷土の発展に尽くした人々などが取り上げられている。
学図	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する「もっと知りたい私の町」などの教材を各学年配置。「きづき」の巻末には各学年ともに「ふるさと」コラムが設定されている。
教出	補助的な教材を含め、随所に掲載していくことで、各学校が題材の中から選択できるように配慮している。さらに、郷土の発展に尽くした先人や国のことを思った先人などを題材として取り上げている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実に資するでは、第6学年「ようこそ、菅島へ！」郷土を大切にして観光ツアーをしている子どもたちや伝統工芸品を作り続けている職人が教材として取り上げられている。
日文	伝統と文化に関わる教材に、複数のデジタルコンテンツ「はしれ、さんりくてつどう」(映像資料)などが用意されており、理解を深められるようにしている。
光文	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度の内容を中心に、歴史と伝統を守ることの意義を考える第6学年「よみがえれ熊本城」など地域に根付く伝統や文化、行事、先人についての教材が随所に設定されている。
学研	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の項目に該当する教材が設定されている。日本文化のよさにふれて帰化した先人の心や、日本の伝統料理への思いなどを題材として取り上げている。
廣あかつき	伝統や文化に関する教育の充実に資するでは、木造建設を復興の道具の復元をやり遂げた先人が教材とコラムで取り上げられている。

⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮

東書	第3～6学年では、「つながる・広がる」において、日常生活の中で経験し、豊かな心の育成につながるような内容を配置している。わたしのボランティア体験」委員会活動や、ボランティアなどの体験活動をもとにした教材が取り上げられている。
学図	体験活動の充実に向けて、特別活動と結びつけて考えられる教材を複数配置している。児童が道徳的価値について主体的に考える学習活動には、「やってみよう」のマークが表示されている。
教出	特別活動とのつながりを意識して教材が配置されており、体験活動と道徳の学びが関連付けられている。また、活動指示とともにイラストを掲載して取り組みやすくしている。「やってみよう」が設けられている。
光村	体験活動と結びつけた展開が考えられる題材が各学年にある。他教科との関連、図書との関連が図られている。第4学年「このままにしていたら」（ごみ処理施設の見学）などと結びつけて考えられる設定になっている。
日文	役割演技や動作化の写真を提示し、児童の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している。5年「古いバケツ」では掃除という日常生活場面を取り上げ、日常の活動と結びつけることができる内容が取り上げられている。
光文	学校の活動時期に合わせて教材が配列されている。第6学年「一年生のお世話係—アフター・ユ—」など日常の経験と結びつけた教材を設けることで、今まで体験した内容やこれから体験したいことについて考えられるように設定されている。
学研	体験活動の充実に向けて、児童が体験するであろう学校行事や身近な生活場面につながる教材が取り上げられている。また、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	特別活動や社会科・総合的な学習の時間と結びつけて考えられる教材を全学年で配置している。「ふわふわことば ちくちくことば」実際に言葉を使って色をみる活動が設定されている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮

東書	第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい内容になっている。第6学年の最後には、「これからもかがやく自分に！」で中学校との連携を図った教材が設けられている。
学図	入学したての第1学年が、道徳の授業開きで他の児童との輪を広げられるよう、簡単なコミュニケーション活動が導入されている。第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい設定になっている。
教出	第1学年では挿絵や写真が複数活用されており、入学当初の児童も楽しく学ぶことができるよう配慮されている。第6学年では、巻末に「一年間の道徳の学習をふり返ろう」のページが設定されており、その中で「中学生になってがんばりたいこと」が設けられている。
光村	第1学年の最初の段階では、イラストをメインに、取り組みやすい内容になっている。第6学年の最後には、人生の次のステージにつながる内容があり、中学校生活を想像せる内容ようになっている。
日文	第1学年のオリエンテーションはイラスト主体で表現されている。また、道徳ノートへの文字の記入は2学期以降に配当されている。第5・6学年では、中学校との接続を視野に、社会の一員としての自覚を育てることを意識した内容が複数提示されている。
光文	第1学年はイラストが複数使用されている。第1学年の題材の始めの方に「がっこうたんけん」の教材を導入し、安心して小学校生活をスタートできるよう配慮されている。第6学年では中学校への接続を意識した教材「わたしはひろがる」が設定されている。
学研	小学校生活に慣れるように、第1学年の最初の授業では、ゲーム性のあるものが設けられている。第6学年の最後には、未来の自分につながる内容があり、中学生へ思いを膨らませるようになっている。
廣あかつき	第1学年の一定期間はイラストのみ、その後もしばらくはひらがなのみでの題材配列となっている。

⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮

東書	それぞれの発達段階に応じて全学年に情報モラル題材を掲載している。各学年ともに、巻末にある補助教材を通して情報モラルについて学べるように教材を配置している。
学図	各学年に情報モラルに関する教材を配置し、第2学年の「ゲームをしていたつもりなのに」など、情報機器の取り扱いについての内容を取り上げている。
教出	情報モラルを重点テーマに位置付け、携帯電話活用のマナーやインターネット上の扱いや著作権問題などを題材として、節度、節制や礼儀などの内容で取り上げている。
光村	情報モラルに関する内容について、よびかけと教材、コラムをセットにしたユニットを設けている。また、体験的な学習として、ソーシャルスキルトレーニングを設定している。
日文	低学年では、日常の経験の中から情報の意味や影響を考えさせる教材が選ばれている。中学年以降では、実際の通信機器に関わった教材が取り上げられている。
光文	情報モラルを「現代的な課題への取り組み」の一つに位置付け、教材やコラムを全学年に配置している。また、スマートフォンなど、身近な情報機器や話題を通して情報モラルが学べる教材やコラムを全学年に配置している。
学研	SNSの利用や個人情報の取り扱いなど、情報モラルに関する教材を全学年で扱い、発達の段階に応じて繰り返し学習できる。
廣あかつき	全学年「特集」として、情報モラルについて取り上げている。また、スマートフォンの扱い方や著作権などを、教材やコラムとして取り上げている。さらに、発達の段階に応じて教材が選ばれており、適宜配置されている。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮

東書	児童の学習上の困難さへの対応に関して、教材の冒頭で問題の焦点化を図るために「どんなことを考えながら読んでいくか」が例示されている。
学図	挿絵や写真、グラフ等がバランスよく配置され、読むことに苦手意識のある児童でも興味関心をもって題材を読むことができるよう配慮されている。
教出	キャラクターの発言が、導入の問いかけや、考えるべきことのヒントになっている。さらに、児童が主体的に考えるときの示唆する役割としても設けられている。
光村	題材の中の個人名には読み仮名がふってある。題材を自分事として考えるために、題材の導入にキャラクターと吹き出しが掲載されている。
日文	読み取りが苦手な児童への支援としてあらすじと登場人物が最初にまとめられている。判型はA B判が採用されている。
光文	児童にとってなじみのない言葉は脚注がつけられている。また、教材文の初めに登場人物を紹介するコーナーが設けられている。
学研	判型がA 4判で、写真や絵、本文が大きく掲載されている。児童の発達の段階に応じて、文字の大きさや書体、行間が工夫されている。
廣あかつき	登場人物の名前には読みがなが施されている。別冊「道徳ノート」の学習の記録の記入欄が巻末に一元化されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮

東書	冒頭に主題名を明記して、その時間に学ぶことを明確にしている。また低学年では、「問い」をキャラクターが投げかけ、児童が考えるときの示唆を与えている。
学図	教科書を2冊に分け、気づき、学びと分けることで、学習することをわかりやすくしている。児童自身が、道徳の学習をどのように進めていけばよいのかがわかるように、各学年「道徳の学習をはじめよう」のコーナーが掲載されており、絵と言葉で説明されている。
教出	冒頭に道徳での学習の仕方が例示されている。教材の最後に「考えよう」「深めよう」という項目があり、より理解を深められる構成となっている。
光村	絵本の雰囲気そのまま活かして、話に入り込んで学べるようにしている。絵や写真を大きく掲載することで、読むことに負担を感じる児童も、無理なく授業に参加できるようにしている。
日文	教材のはじめにあらすじが載っている。教材の冒頭に導入の発問、最後に考えを深めるための発問が例示されている。
光文	冒頭で登場人物を紹介することで、教材の理解を助けている。親しみやすいマンガ・アニメ・定番の教材を配置することで、児童が楽しみながら理解できるようにしている。
学研	写真やイラスト、漫画など、多様なビジュアルを使って表現している。集中して教材に向き合えるように、見開きで始まるようにしている。
廣あかつき	児童が学習の見通しをもって学ぶことができるように、「学習の道すじ」として、本時のめあてと問いを掲載している。児童の理解を助けるために、教材の内容に関わる知識として「知っておこう」が掲載されている。

⑩ 道徳的な課題を児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」につながる工夫や配慮がされているか。

東書	どの学年にも活動を取り入れた教材が設定されている。ゲーム要素が入っていたり、親しみやすい内容だったりするので、子どもたちが楽しんで学ぶことができる。
学図	教材のあとに発問例が掲載されていない。教材から考えたこと、話し合いたいことを自分たちで設定することができる。道徳ノート「まなび」のほうには押さえたい価値や発問例が載っている。
教出	教材のあとには発問例が複数のっている。「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の項目がある。どの学年も「スキル」という内容があり、疑似体験をすることで、より深く考え、話し合える設定がされている。
光村	題材のあとに発問例が載っている。「考えよう・話し合おう」「つなげよう」では2つの視点からまとめたり、様々な活動を紹介したりしている。
日文	第1・3・5学年の巻頭オリエンテーションページで「道徳の学び方」が示されているため、道徳の学習をどのように進めていくか、見通しをもつことができる。
光文	題材の終わりに発問が2つ例示されている。また、教材の下にもさまざまな発問（つぶやき）が例示されている。
学研	本文において冒頭では主題を記載せず、特定の価値に児童が押し付けられないよう配慮している。「深めよう」や「やってみよう」のページを設け、他の児童と考えを伝え合う場面が設定できるよう工夫されている。
廣あかつき	教材の終わりに「考えよう 話し合おう」が設定されている。教材を通して考えたり、話し合ったりできるようなコーナーが設定されていることで、目的意識をもって考えが交流できる。

⑪ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学びの工夫や配慮がされているか。	
東書	「出会うふれ合う」のページでは、人とのかかわりの中で考えを伝え合い、深め合う活動ができるようになっている。第3学年以上の「つながる・広がる」が設定されている。
学図	「まなび」では複数の教材が並列して設定されている。また、自分の考えと他の児童の考えを書く欄が設定されている。考えたことを比べることができる。
教出	特定の人物に焦点化した教材が設定されている。教科書の後ろには補助的な題材として複数の教材が載っている。
光村	「考えよう、話し合おう」というコーナーを設けることで、多面的・多角的に考える楽しさを実感できる。答えが一つではない哲学的な内容であり、子どもたちが多様に考えることができる。
日文	「こころのベンチ」では道徳的価値を多面的・多角的に考えられるように、教材と関連した活動ができる。友達とかかわりながら取り組み、教材で学んだ道徳的価値をより深く学ぶことができる。
光文	トリーというキャラクターが教材の中で、多面的・多角的な思考を促すような問いかけをしている。また、子どもたちが考えそうな問いかけやねらいにせまる問いかけがあり、より多面的・多角的に考えることができる設定になっている。
学研	「2つの題材を学習したあとに考えたこと」があることで、価値が多面的にとらえられるようにしている。また、教材名の前に余計な情報がないため、主題やねらいとする価値を子どもたち自身がさぐりながら学習を進めることができる。
廣あかつき	多様な考え方、生き方に触れられるように、先人の伝記や様々なジャンルで活躍した著名人などを扱った教材を掲載している。また、道徳ノートにある問いは、他の児童と話し合うことで多面的・多角的に考えられるように設定されている。
⑫ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮	
東書	第3学年以上において問題解決的な教材を配置。考えるステップを例示することで、話し合いの手引きとなるようにしている。また、全学年で「出会う・触れ合う」というコミュニケーション活動など、活動型の教材が各学年ともに設定されている。
学図	「きづき」において児童が課題を見つけ、「まなび」において課題を追求できるように考えられている。また、「まなび」において「やってみよう」を設定することで、ロールプレイを通して考えられるようにしている。
教出	教材の前に学習の効果を高めるための拡大導入ページを適宜、設けている。様々な問題を取り上げ、児童自身が道徳的課題に気づき、課題についての問いをもちながら学習に取り組めるようにしている。また、本文の途中、もしくは教材文のあとに「やってみよう」を設けている。
光村	問題解決的な学習では、キャラクターが各教材の冒頭に学習に入る前に考えてほしいことを呼び掛けて、「自分ならどう考えるだろう」と問題意識をもって取り組めるようにしている。また、体験的な学習では、演技している人だけでなく、見ている人の視点も大事にされている。
日文	各学年ともに問題解決的な学習が配置されている。「学びの手引き」をつけることで、順序立てて考えられるようにしている。各学年で役割演技が中心の体験的な教材が設定されている。
光文	児童自ら「問い」をもって授業に臨めるように、経験や生活の中から「問い」がもてるように、主題名のところに様々な導入の発問を設けている。また、低学年を中心に動作化などの体験的な学習が設定されている。
学研	問題解決的な学習で、考えを深めることができるように「深めよう」のコーナーが設けられている。また、教材の内容をもとに、役割演技ができるように「やってみよう」のコーナーが設けられている。
廣あかつき	問題解決的な学習では、学習が道徳的内容になるように「学習の道すじ」で発問を例示している。また、道徳ノートで、見方・考え方を書き込めるように設定されている。さらに、各学年ともに複数の体験的な学習を配置している。

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
学図	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
教出	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
光村	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
日文	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
光文	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
学研	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
廣あかつき	学習指導要領の内容項目がバランスよく配置されている。
② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	A B判、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
学図	A B判、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました。」と記載されている。
教出	A B判、「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。
光村	B変形判、「目次や吹き出し等には、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。」と記載されている。
日文	A B判、「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。
光文	A 4変形判、「特別支援が必要な児童に配慮した内容や構成、デザインとしています。」と記載されている。
学研	A 4判、「ユニバーサルデザインに配慮して制作しています。」と記載されている。
廣あかつき	A B判「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。」と記載されている。
③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「問題を見つけて考える」などの活動について、マークを用いて、目で見ても分かりやすい設定がされている。
学図	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「ともに生きる」、「情報モラル」などの活動についてマークを用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
教出	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考えよう」、「深めよう」などの活動について、マークを用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
光村	四つの視点をそれぞれマークで表している。「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」などの活動について、マークも用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
日文	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「インターネットを使う」などの活動について、マークを用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
光文	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「みんなでやってみよう」などの活動について、マークも用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
学研	四つの視点をそれぞれマークで表している。また、「考える」、「書く」等の活動についてマークを用い、目で見ても分かりやすい設定がされている。
廣あかつき	四つの視点をそれぞれマークで表している。発達の段階に応じた文字の大きさ、書体、行間に配慮した目で見ても分かりやすい設定がされている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	「生命の尊さ」について考えるための読み物教材として、第4学年に「走れ江ノ電光の中へ」が掲載されている。
学図	「友情、信頼」について考えるための読み物教材として、第3学年に「ナホとメグ」(川澄奈穂美)が掲載されている。
教出	「勤労、公共の精神」について考えるための読み物教材として、第4学年に「二宮金次郎の働き」が掲載されている。
光村	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について考えるための補助資料「日本に伝わる『くらしの道具』」の写真資料として、第3学年に「小田原ちようちゃん」が掲載されている。
日文	「自然愛護」について考える読み物教材に関連したコラムとして、第4学年にビーチクリーンのボランティアの活動の写真が掲載されている。
光文	「国際理解、国際親善」を考えるための読み物教材として、第3学年に「海をわたるランドセル」が掲載されている。
学研	「勤労、公共の精神」について考えるための読み物教材として、第3学年に「わらじ作り」(二宮金次郎)が掲載されている。
廣あか つき	「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について考えるための読み物教材として、第4学年に「村をすくった『長十郎なし』」が掲載されている。

② OURL、二次元コード等の掲載の有無

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
東書	有	有	有	有	有	有
学図	有	有	有	有	有	有
教出	無	無	有	有	有	有
光村	有	有	有	有	有	有
日文	有	有	有	有	有	有
光文	無	無	無	無	無	無
学研	有	有	有	有	有	有
廣あか つき	無	無	有	有	有	有

③ O教科書の重量(単位はグラム)

発行者名	総冊数	1年	1年別冊	2年	2年別冊	3年	3年別冊	4年	4年別冊	5年	5年別冊	6年	6年別冊
東書	6	263		298		335		342		362		392	
学図	12	230	139	222	139	255	139	264	138	285	148	285	148
教出	6	282		295		309		333		340		346	
光村	6	268		309		335		340		362		387	
日文	12	422		451		471		485		483		484	
光文	6	368		385		417		426		439		445	
学研	6	328		339		364		374		390		400	
廣あか つき	12	350		365		382		402		453		465	